

県庁に入って未来のありたい姿を描いた

# 兵庫の 未来を 考える

2021年度兵庫県庁新規採用職員研修課題

---

**HYOGO VISION 2050**

2021.9

# 目次

I	要旨	1
1	研修課題	1
2	結果概要	2
II	注目シナリオとその理由	6
III	MY未来シナリオ	45
1	個性の追求（63シナリオ）	45
2	開放性の徹底（43シナリオ）	56
3	つながりの再生（57シナリオ）	64
4	集中から分散へ（87シナリオ）	74
5	美の創生（15シナリオ）	87
6	次代への責任（54シナリオ）	90

# I 要旨

現在、兵庫県では、30年後の2050年を展望する新しい将来ビジョンの検討を進めています。その一環として、令和3年度に県庁に入庁した新規採用職員を対象に、「兵庫県将来構想試案」を素材として、兵庫県の未来を考える以下の研修課題に取り組んでいただきました。

## 1 研修課題

- (1) 対象 令和3年度に県庁に入庁した新規採用職員306名（全体324名）
- (2) 課題 将来構想試案の39の未来シナリオのうち、
  - ①最も共感したシナリオ
  - ②最も共感できないシナリオ
  - ③あなたが考える未来の姿「MY未来シナリオ」

### 「兵庫県将来構想試案」から未来を考える

兵庫県では、現在、2050年を展望した新しい長期ビジョンの策定を進めています。その一環として、若手有識者による「将来構想研究会」を設置し、社会潮流の調査研究を行ってきました。同研究会では2021年2月、2050年を想定した39の未来シナリオ（望ましい未来の姿）などを内容とする「兵庫県将来構想試案」を取りまとめました。

研修（eラーニング）で見ていただいたこの将来構想試案で示された39の未来シナリオについて、自分が最も共感できるシナリオと逆に最も共感できないシナリオを教えてください。あわせてご自身や家族、地域について「こうなってほしい」とあなたが考える未来の姿を教えてください。

皆様からいただいたご意見は、新しい長期ビジョンの検討に活用させていただきます。

#### 【課題】

- (1) 将来構想試案で示された39の未来シナリオのうち、あなたが最も共感した未来シナリオを1つ選び、その理由を記載して下さい。
- (2) 将来構想試案で示された39の未来シナリオのうち、あなたが最も共感できない未来シナリオを1つ選び、その理由を記載して下さい。
- (3) あなた自身やあなたの家族、お住まいの地域などについて、2050年には「こうあってほしい、こうありたい」と考える未来の姿「My未来シナリオ」を記載して下さい。社会潮流や技術動向などは深く考えず、自分の夢や希望を込めて自由に想像して下さい。シナリオはできるだけ具体的に記載して下さい。複数のシナリオを記載いただいても構いません。

## 2 結果概要

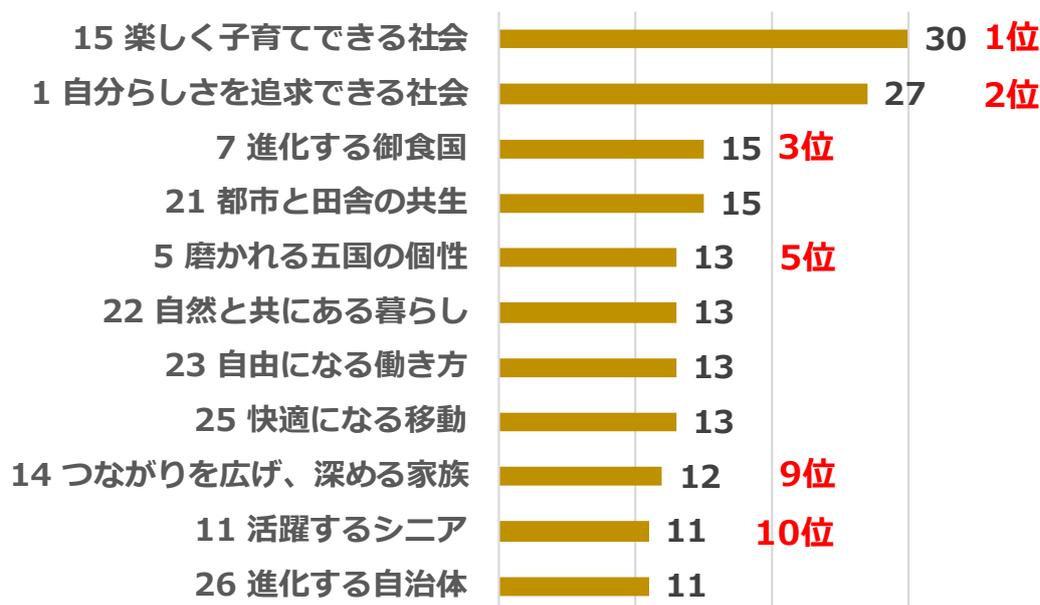
将来構想試案の39の未来シナリオに対して、新規採用職員から寄せられた意見を兵庫県の新しい将来ビジョンの検討に活かすため、テキストマイニングの手法も活用し、膨大な意見の中から浮かび上がってくる新ビジョンの課題と方向性を考察する形で結果を取りまとめました。

### 課題1 最も共感した未来シナリオ

#### <概観>

- ✓ 将来構想試案の39の未来シナリオのうち最も共感した未来シナリオの第1位は「15楽しく子育てできる社会」で、30票となりました。

#### <最も共感した未来シナリオ投票結果 トップ10>



#### <理由>

##### 第1位 15 楽しく子育てできる社会 (30票)

- ✓ 子育ての負担感を減らす経済的支援や保育所などの施設の充実、職場における子育てしやすい制度の充実、社会で子育てを応援する意識を育むべきなどの意見がありました。

##### 第2位 1 自分らしさを追求できる社会 (27票)

- ✓ 「自分らしさ」は最も大切な価値など、自分らしさを大切にしたいとの声が多くありました。また、兵庫五国の多様な個性も自分らしさを追求するために相応しい環境との意見もありました。

##### 第3位 7 進化する御食国 (15票)

- ✓ フードロスへの対応、人と環境にやさしい農業の広がり、地産地消で消費を循環、食べるものに困窮しない社会など持続可能性を意識した意見がありました。

##### 第3位 21 都市と田舎の共生 (15票)

- ✓ テレワークの普及により、距離や時間を気にしない働き方が現実味を増していること、田舎での生活は、自然の中での子育てや、ゆったりした生活を可能とするとの意見がありました。

##### 第5位 5 磨かれる五国の個性 (13票)

- ✓ 五国があることで、自分の理想に適した暮らしが見つかるなど、ひとつの県の中に様々な特色があるのは兵庫県の個性であるなどの意見がありました。

#### 第5位 22 自然と共にある暮らし (13票)

- ✓ 自然との触れ合いが子ども達の学びにつながることや、自然環境の理解が深まり保全の取組につながったり、災害対策にもつながるなどの意見がありました。

#### 第5位 23 自由になる働き方 (13票)

- ✓ 仕事と生活のバランスを自らコントロールできることや、結婚や育児、病気になった際など多様な生活スタイルに適合できる、田舎の過疎対策にも一役買うなどの意見がありました。

#### 第5位 25 快適になる移動 (13票)

- ✓ 子どもからお年寄りまで生き生きと暮らすには、移動手段の確保が重要であることや、脱マイカーによる脱炭素化、交通網発達による観光資源の再発見が可能となるなどの意見がありました。

#### 第9位 14 つながりを広げ、深める家族 (12票)

- ✓ 家族のつながりが一番の癒しであるなど家族を大切に思う気持ちや、地域とのつながりがあることで、安心を得られるなどの意見がありました。

#### 第10位 11 活躍するシニア (11票)

- ✓ シニア世代の知識や経験は貴重な財産であり、社会への還元、若者への伝承などへの期待、高齢者の活動領域を制限せず、チャレンジを応援する必要性などの意見がありました。

#### 第10位 26 進化する自治体 (11票)

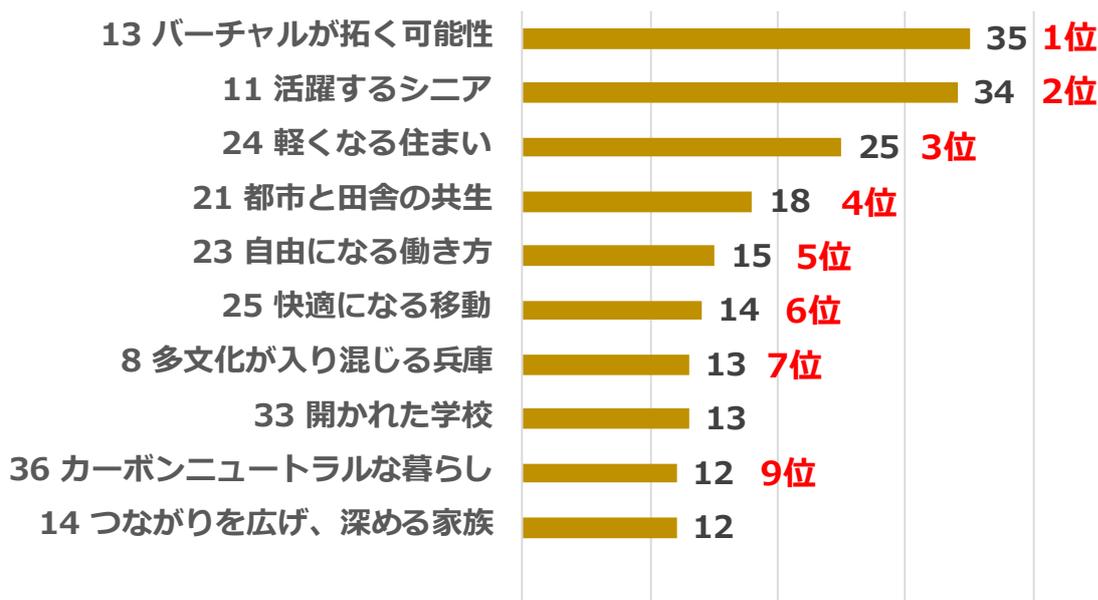
- ✓ 行政手続きの簡素化、効率化、利便性向上などがあげられ、脱定住も過疎化や少子化が進む自治体の新しいあり方として賛同が得られました。

## 課題2 最も共感できない未来シナリオ

### <概観>

- ✓ 将来構想試案の39の未来シナリオのうち最も共感できない未来シナリオの第1位は「13バーチャルが拓く可能性」で、35票となりました。

### <最も共感できない未来シナリオ投票結果 トップ10>



## <理由>

### 第1位 13 バーチャルが開く可能性 (35票)

- ✓ 対面でのコミュニケーションや体験を重視する声が多数ありました。バーチャル空間上での犯罪の増加や利用できる人とできない人の間の格差、つながりの希薄化などを懸念する意見がありました。

### 第2位 11 活躍するシニア (34票)

- ✓ 圧倒的に「定年廃止」への反対意見が多く、歳をとっても働くことを強制すべきではないとの声がありました。働かなくても、安心して老後の生活を送れる未来が期待されています。

### 第3位 24 軽くなる住まい (25票)

- ✓ 地域への愛着が育まれない、緊急時の助け合いができない、中古ではなく新築がよく、定住する事で安心感を得られるなどの意見がありました。

### 第4位 21 都市と田舎の共生 (18票)

- ✓ 都市の魅力に引き寄せられる構図は変わらず、田舎の過疎化はさらに進むのではないかと意見がありました。一方、田舎の環境破壊や地方の魅力への悪影響を懸念する意見もありました。

### 第5位 23 自由になる働き方 (15票)

- ✓ 格差が広がるのではないかと、必要な職種に人が集まらなくなるのではないかと、フリーランスやギグエコノミーは不安定であり、推進すべきではないとの意見がありました。

### 第6位 25 快適になる移動 (14票)

- ✓ 魅力のない地域はますます活気が失われていくのではないかと、インフラの維持が困難などの意見がありました。

### 第7位 8 多文化が入り混じる兵庫 (13票)

- ✓ 治安悪化や就業機会の減少への不安や、地域の独自の文化が失われてしまうのではないかと意見がありました。

### 第7位 33 開かれた学校 (13票)

- ✓ 自由度の広がり格差を生む、変化に対応できない子供への配慮が必要、やりたくないことはやらなくて良いという考えにならないような配慮が必要などの意見がありました。

### 第9位 36 カーボンニュートラルな暮らし (12票)

- ✓ ミニマリストに関して、新しいものが開発されなくなる事、経済的な側面から共感できない、そもそも豊かになるのか疑問、面白くないなどの意見がありました。

### 第9位 14 つながりを広げ、深める家族 (12票)

- ✓ 高齢での居場所づくりの困難さや、一度社会から外れてしまった場合に復帰が困難など、実際には、つながりをつくりだすのは難しいのではないかと意見がありました。

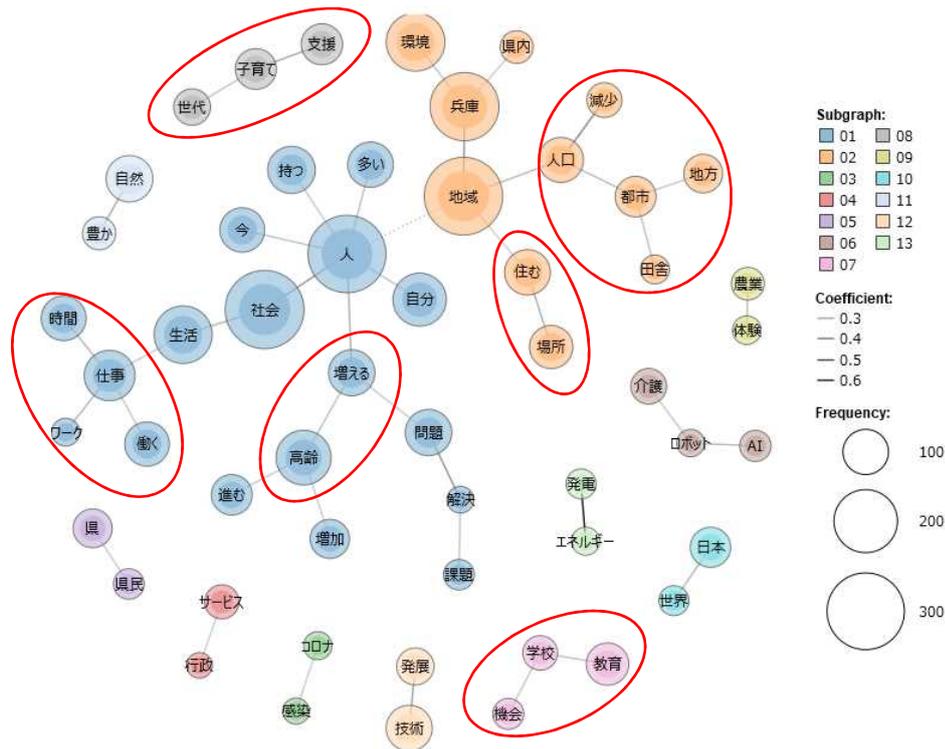
#### (参考) テキストマイニングについて

共感できる・できない理由とMY未来シナリオの内容を分析するため、大量の文字データから有用な情報を取り出す「テキストマイニング」の手法を活用。具体的には、樋口耕一立命館大学教授が開発したソフト「KH Coder」を用いて、各問の回答中の頻出語を抽出し、抽出語間の関係の遠近、強弱を表す「共起ネットワーク図」を作成して抽出語間の関係性を見える化した上で、回答傾向の考察を行った。

### 課題3 MY未来シナリオ

テキストマイニングによる頻出語と単語間の関係性から読み取れる、新規採用職員のMY未来シナリオの特徴は、以下のとおりです。

- ✓ 「地域」「兵庫」を中心として、「住む」「場所」や、「人口」「減少」下での「都市」「地方」に対する関心が高いです。
- ✓ 「人」「社会」を中心として、働き方の多様化が進む中、「仕事」「時間」や、社会の課題として、「高齢」「増える」に対する関心が高いです。
- ✓ これから子どもを産み育てて行く自分事として、「子育て」「支援」や、「学校」「教育」に対する関心も高いです。



### 頻出語トップ20

順位	抽出語	出現回数
1	社会	313
2	地域	308
3	人	306
4	兵庫	236
5	環境	170
6	生活	166
7	高齢	149
8	自分	140
9	仕事	126
10	可能	115
11	持つ	110
12	自然	106
13	問題	105
14	増える	104
15	技術	103
16	住む	101
17	多い	101
18	人口	99
19	時間	98
20	今	97

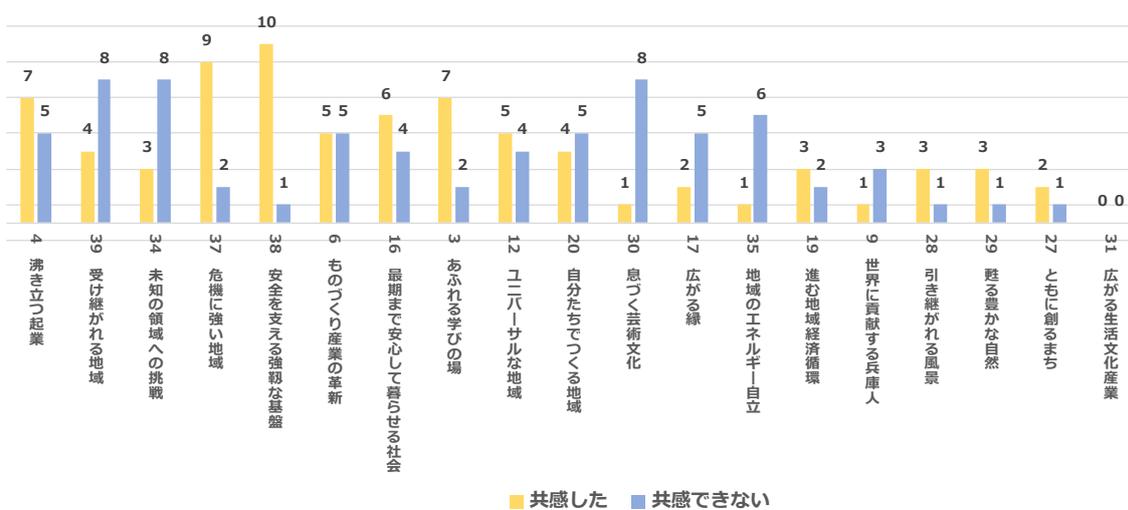
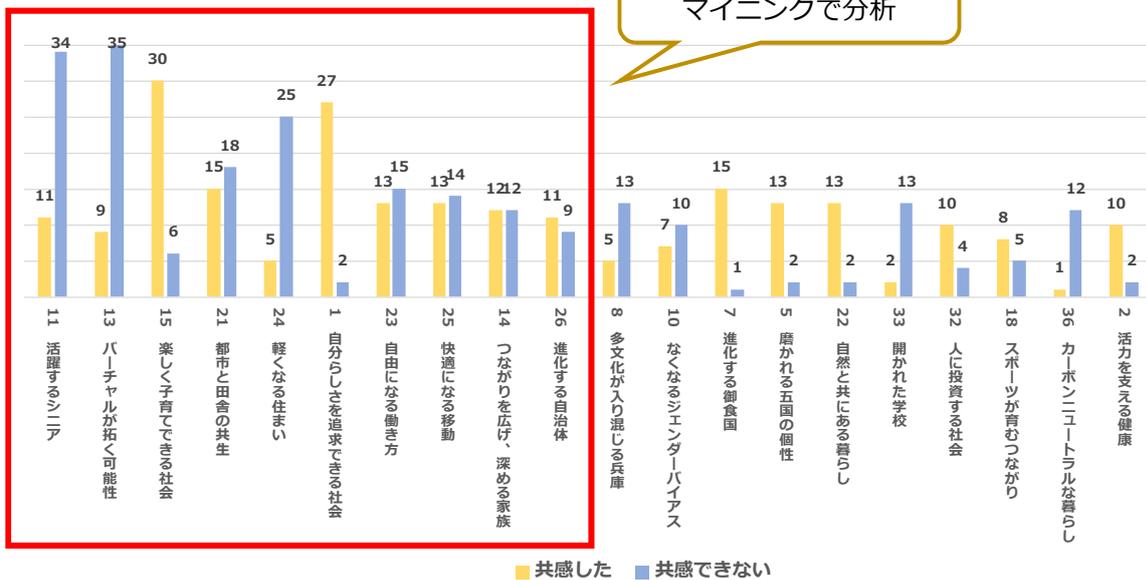
### <主なMY未来シナリオ>

<b>1 個性の追求</b> (63シナリオ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な暮らしを選べる社会</li> <li>・すべての人に安心な医療を</li> <li>・自分のまちが一番だといえる未来</li> <li>・日常にあふれる農業 など</li> </ul>
<b>2 開放性の徹底</b> (43シナリオ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・固定観念にとらわれない社会</li> <li>・多様性を認め合える社会</li> <li>・思いやりのある兵庫人</li> <li>・その人にあった情報化社会 など</li> </ul>
<b>3 つながりの再生</b> (57シナリオ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て地として選ばれるひょうご</li> <li>・安心して長生きできる社会</li> <li>・ひとりひとりを尊重するが独りじゃない</li> <li>・みんなが仲間である社会 など</li> </ul>
<b>4 集中から分散へ</b> (87シナリオ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帰りたい、住み続けたいまちづくり</li> <li>・職業選択をし直せる社会</li> <li>・協働を超えた、協創社会</li> <li>・人に寄り添うデジタル地域 など</li> </ul>
<b>5 美の創生</b> (15シナリオ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人々が憩える快適なまち</li> <li>・地域特有の文化と自然の学び交流</li> <li>・生業の継続による生きた風景となって地域で根付く など</li> </ul>
<b>6 次代への責任</b> (54シナリオ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものアイデアを取り入れたまちづくり</li> <li>・自由な学校教育の選択</li> <li>・災害人的被害ゼロ、未然に防ぐ兵庫</li> <li>・誇れる兵庫県 など</li> </ul>

## II 注目シナリオとその理由

- ・関心が高い順に見てもらえるよう共感した・共感できないを合わせて多い順に掲載しました。10番目までのシナリオは、共感した・共感できないのいずれかは上位10位以内に入っています。
- ・1番、2番の「11活躍するシニア」「13バーチャルが拓く可能性」は40を超える票を得ました。
- ・「IV集中から分散へ」の「24軽くなる住まい」「23自由になる働き方」など、流動化に関するシナリオは、期待もある一方で、つながりの希薄化や変化に対する不安の声も多く聞かれました。
- ・選択の理由には、シナリオの実現に向けた取組が不十分であることや、実現に向けて留意すべきことなど多くの示唆が得られたため、新ビジョンの検討に活かしていきます。

### <未来シナリオ投票結果>



関心の高い注目シナリオ10番目までは、テキストマイニングを使って、頻出語と語句ごとの関連性などを詳細に記述しています。(共感した・共感できない上位10番目までを網掛け)

シナリオ名	注目シナリオ	共感した	共感できない
11 活躍するシニア	45	11	34
13 バーチャルが拓く可能性	44	9	35
15 楽しく子育てできる社会	36	30	6
21 都市と田舎の共生	33	15	18
24 軽くなる住まい	30	5	25
1 自分らしさを追求できる社会	29	27	2
23 自由になる働き方	28	13	15
25 快適になる移動	27	13	14
14 つながりを広げ、深める家族	24	12	12
26 進化する自治体	20	11	9
8 多文化が入り混じる兵庫	18	5	13
10 なくなるジェンダーバイアス	17	7	10
7 進化する御食国	16	15	1
33 開かれた学校	15	2	13
22 自然と共にある暮らし	15	13	2
5 磨かれる五国の個性	15	13	2
32 人に投資する社会	14	10	4
36 カーボンニュートラルな暮らし	13	1	12
18 スポーツが育むつながり	13	8	5
39 受け継がれる地域	12	4	8
4 沸き立つ起業	12	7	5
2 活力を支える健康	12	10	2
34 未知の領域への挑戦	11	3	8
37 危機に強い地域	11	9	2
38 安全を支える強靱な基盤	11	10	1
6 ものづくり産業の革新	10	5	5
16 最期まで安心して暮らせる社会	10	6	4
30 息づく芸術文化	9	1	8
20 自分たちでつくる地域	9	4	5
12 ユニバーサルな地域	9	5	4
3 あふれる学びの場	9	7	2
35 地域のエネルギー自立	7	1	6
17 広がる縁	7	2	5
19 進む地域経済循環	5	3	2
9 世界に貢献する兵庫人	4	1	3
28 引き継がれる風景	4	3	1
29 甦る豊かな自然	4	3	1
27 とともに創るまち	3	2	1
31 広がる生活文化産業	0	0	0



## <理由> ○共感した ●共感できない

- シニア世代の方の持つ**経験は代替がきかない非常に貴重な財産**
- 次世代の働き手と蓄積された知識・技術を持つシニアをうまく絡ませ県の発展に貢献
- 世界全体を見渡しても、**シニア向けのサービスはこれから需要を増していく**
- 経験が豊富なシニアの起業希望者もうまく活用することが日本のGDPを向上させる
- 生涯現役として働くという選択肢もあたりまえに選ぶことができる時代にしていきたい
- 高齢者だからといって**活動領域が狭まること**が無い環境を整えるための取組が必要
- 定年退職後、再雇用される人が多いため、**若年層の指導や技術の伝承等**でも活躍してほしい
- 新たなビジネスに挑戦することで高齢であっても人生のやりがいを見つけることができる
- 豊富な経験を活かして**新たなチャレンジ**をすることは、経済面にとっても良い
- なるべく長く納税できる期間を保つ仕組みを作っておく必要が重要
  - 定年退職まで仕事を一生懸命頑張るというモチベーションで頑張っている人もいる
  - 労働意欲が乏しい人と能力の高い人で、自由競争下では**格差は拡大**する
  - 充実・挑戦・起業・生涯現役で活躍などのフレーズは、シニアに限らず**若者にとっても重荷**
  - 定年制度には組織内の若い世代とシニア世代を循環させる役割がある
  - 従来通りの定年を迎えて、いわゆる隠居のように落ち着いた暮らしをするという選択もある
  - 定年制がなくなるとそこを目標に頑張ってきた人にとっての**一つの目標がなくなる**
  - 老後のゆったりとした生活を楽しみにしている人も少なからずいる
  - シニア世代専門の部署（アドバイザー、専門員等）や、定年時期を選択できる仕組みをつくる
  - 車の運転の能力も劣っていないと思込み交通事故を引き起こすリスクがある
  - 現役世代に頑張れば老後は安心して暮らせる**社会**にしていくことがより大切
  - 組織のなかでいつまでも人員が代謝されないと、**新しい風が吹きにくくなる**のではないかと
  - 地域活動やボランティアなどにも積極的にシニアの知力や経験を活かせる場所はある
- 働かなくても生きていける、セカンドライフを楽しめるような環境を整えていくほうが重要
- シニアが活躍できる環境づくりには、若者の力が不可欠。若者向けの対策がより重要
- 次世代の若い人達が仕事をもっと選べる環境を作ること、定職しやすい仕組みが必要
- 働くのが難しくなってきた人が**辞めにくい環境**となってしまう
- 定年後の貯金や生活費の面から仕事をしなければならない人もいる
- 一定年齢で退職し老後を安心して過ごすことのできる賃金や環境を整備しておくことが必要
- 「働かない」という選択肢は、今より強固に許されざるものになるのではないかと
- 貧困などによってどうしても働かなければならないような状況が増加する
- 「生涯現役」を望んでいる者はそこまで多いのだろうか
- 「**活躍せざるを得ないシニア**」である
- 定年後に働くことを当たり前になると、体力的に働けない人への周囲の風当たりが強くなる
- 活躍し続けることが義務に、**リタイアすることで罪悪感**を覚える風潮が生まれてはならない
- 高齢者の介護を高齢者が行っている状況の中で起業することを想像できない
- 年功序列の社会では古い考えを若者に押しつける可能性も考えられる
- 年金による余生を保証する制度と老後に新たな活躍を支援する制度の両立が必要である
- 量的に支え手が少なくなり、制度が保てないのであれば、新しい制度を検討する必要がある
- 体の不調や、働きたくなくても、生活のために働かなければならない高齢者も多くいる
- 老後を「生涯現役」で過ごすか否かは、あくまで**個人の自由として選択できる**のが理想
- 「**いくつになっても働かなければいけないのか**」という不安を抱いてしまった
- 定年後の人生を楽しみたい方も多くいる
- 高齢者を本当に働かせたいのであれば、定年後は仕事に関する一切の徴税を辞めればよい
- 若年層の活躍の場を与えるため、ダブルワークといった多様性に長けた働き方の導入が必要



## <理由> ○共感した ●共感できない

- 今まで難しかったことが可能になり、すべての人が自宅にいながら様々なことができるようになる
- 現実世界では才覚を発揮できなかった優秀な人材が活躍できる機会が増える
- 子どもがオンライン授業という画面上の勉強だけでなく、実際に体感することができる
- 外出を疑似体験することで、不安な心理状態の患者に住み慣れた地域や、思い出の地に訪れることによる大きな気分改善になる
- リアルな人間とバーチャルの人間が混ざって街中を歩く様子が見られたりすると非常に面白い
- 教育現場や医療などの現場においても導入されていく可能性が非常に高い
- 土木現場でもICTやドローン等の技術はより正確で素早く安全に業務を進める手助けになる
- 車を使わずに生活できる基盤が整えば、そういった事故も減っていく
- 今のうちから国民がバーチャルの活用に慣れていく事が出来れば理想
- 犯罪や相手の顔が見えないことをいいことに、悪用されてしまうことも懸念
- 大きなゴーグルを購入してまでVR空間で体感する位なら、お金や時間をかけて現地に足を運ぶ
- 直接顔を合わせるからこそとれるコミュニケーションというものも存在
- 手を差し伸べることに躊躇するご時世だからこそ他者との協力を学ぶ学習などが重要
- 学校は、クラスメイトや先生、先輩などとのコミュニケーションを直接取る場でもある
- 外出しない人が増加し、販売業、交通機関等に悪影響を及ぼすおそれがある
- 観光名所に付随して発展している土産物屋やホテル等への金銭の流入がとまってしまう
- ICTスキルや費用が必要であれば、高齢者、障害者が広くVRを使いこなすのは容易ではない
- 経営者が障害者はVR技術を使えばいいと安直に考えてしまう
- 現実が仮想なのか仮想が現実なのか、区別がつかなくなってしまう
- 技術・知識の習得にICTは技能習得を補完することはできても、主役になるのは厳しい
- バーチャルでデザイン性を賄えても、味気のない空間であったり、街並み景観も変わってしまう
- テクノロジーの進化が進み恩恵を受ける人がいる一方でついて行けていない人も存在している
- 座学以外の体育や周りの友達とのふれあいを通じて大人になると思う
- 小学校・中学校の義務教育では、対人関係も勉強と同じくらい重要な学ぶべき事柄
- VRはあくまでも機械であり、意図せずトラブルを引き起こしてしまう可能性もある
- 教育の面で、コスト、教員の負担増、ICTリテラシー、直接体験の重要性から共感できない
- VRでは視覚、聴覚頼みになってしまい五感で学ぶことが難しくなってしまうのではないかと
- 機器が高価なことや現実空間と仮想空間の差があるのであまり発展しないのではないかと
- 仮想現実であっても、その先に生身の人間の存在を意識する倫理観を身につけなくてはいけない
- 仮想空間を多用しすぎるのは、本来大切にすべき生身での人と人との交流が希薄化してしまう
- 障害者、高齢者のケアは対人間でないと行き届かない部分やトラブルになる可能性も高く危険
- ゲームやスマホばかりを見ていると前頭葉の活動が抑えられ感情をコントロールできなくなる
- 現実の社会が衰退し、実際の人とのつながりが薄れる可能性がある
- VRは、価格も高く、目も疲れやすいイメージ
- 使い方を理解し活用するには時間もお金もかかる
- 人と接することで、温かみを感じとり元気に生活を送ることが人間らしい生活である
- VRの世界を体験したことがなく想像できない
- 対面での交流や実物に触れるなどの体験には劣る
- VRに依存するのではなく、あくまで暮らしのサポートとして活用することが重要
- ネットの買い物の普及は、物流の運転者を増やすか、自動運転ができる環境になる必要がある
- 実物に触れることや、足を運ぶ機会が減少し、得られる知識が偏ってしまう
- 町への愛着や誇りが形成されにくくなり、兵庫県の文化や歴史、住民同士のつながりが薄くなる



## <理由> ○共感した ●共感できない

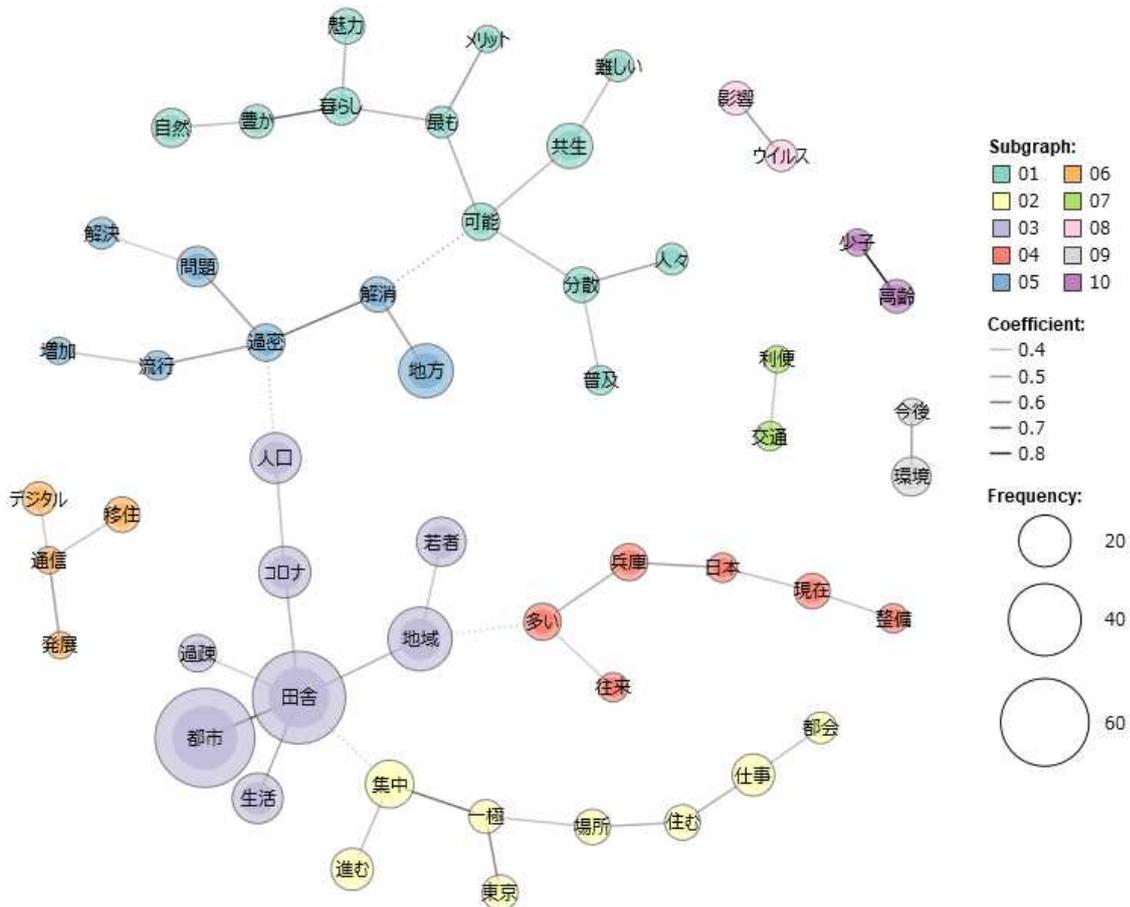
- 地域の協力や制度の充実により子育て世代が増え県の人口増加、地域活性化につながる
- 経済的負担の減少やゆとりある時間がさらに増え、多様な人との混じり合いが増えれば、子供への刺激にもなる
- 法律婚か事実婚かの違いで子どもが不利益を受けないなど、多様化に配慮されている
- 経済的支援や保育所、子どもと出かけやすい施設の充実は、子育て世代としてありがたい
- 通勤時間の削減やフレックスタイム制の活用で、仕事と家庭との調和を図りたい
- 仕事の在り方の変化の促進や、LGBTQなど子育てに参入できていない層のありかたについても議論が深まるなど、副次的効果が期待できる
- 次の世代を生み育てる人たちを孤立させず、社会全体で応援し、多様な人々が入り交じることで支え合いながら暮らせる地域が理想
- 子育てが不安な方やキャリアが途切れることを懸念している方も安心できる社会が理想
- 子育てや家事の負担や心理的不安ができる限り解消できるような社会になってほしい
- 地域での助け合いや元気な高齢者の力を借りて一体となった子育て環境の充実が必要
- 女性の昇進や男性の育児休暇取得など、今まで少なかった例を増やすことから始めてほしい
- 経済的負担、男性の育児参加率の低さ、女性の産後の働き方などから、子どもを持つ、2人目以降の子育てに踏み出せない夫婦もいる
- 子育てにゆとりのある社会になれば、児童虐待の件数も減少する
- 出産にかかる職場からの支援や保育、教育サービスの充実といった経済的支援により子育てをしようと思える男女が増えることは良い
- 子育てが忙しく大変というイメージをポジティブに考えることが可能であると感じた
- 女性が育児を行うのが当たり前になっている社会を変える必要がある
- 人口減少による労働力不足など経済的課題、財政への影響への対応策として重要
- 男性の育休や保育・教育のサービスや経済的負担が少なくなれば、少子高齢化は必ず改善
- 家庭内でお互いが協力し負担を減らすことによって子育てしやすい社会になる
- 社会が子育てに対して前向きになると、少子化問題やジェンダーバイアスへの解決策となる
- 性別に関係なくライフワークバランスを考えながら、子育てを行える環境が必要
- 育休や育児時短勤務等の子育て支援制度を積極的に利用し、家庭を大切にしていきたい
- 子どもが成長しても、学習支援などの手厚いサポートを受けられる制度は、働く保護者にとっても長く仕事を安心して続けられる
- 里親も、開かれた家族として、地域や社会全体で支えることが必要
- 子供を産むということが親の負担になりすぎていては日本の活力が失われる
- 家族を支援する給付が少なく、子供は可愛いがお金のかかるものと認識されている
- どのような家族のかたちであっても、子供に影響のない社会がより子育てしやすい
- 女性の社会進出と経済面での問題への対応により、出生率の向上に期待
- 仕事と子育ての両立は、子育てを考える立場の者にとって非常に重要
- 周りに頼りやすく、書類作成のオンライン化など細かい負担が軽減され、資金面での心配もなくなって欲しい
- 男女平等の雇用形態・労働環境・子育て支援など多くの問題が解決できていない
- 職場も育児休暇を取ることが当たり前と思えるような仕組みを推進する必要がある
- 家族やボランティアに子育てを押しつける社会は、シナリオのような社会にはならない
- 子供の成長を考えたとき、法律婚による実の両親のもとで愛情を注ぎながら育てる方が良い
- 子供を持つ人と持たない人のコミュニティの差は広がり、「共助」はそれぞれの中で行われる
- 人口減少が問題なのではなく、人口減少に伴い世代の構造がいびつになることに問題がある

## 21 都市と田舎の共生 33票 (○共感した 15票 (3位)、●共感できない 18票 (4位))

### 距離や時間に縛られない生き方がいいけど、本当に田舎に来る？

- ・「21都市と田舎の共生」は、共感した、共感できない、双方多いです。
- ・選んだ理由を見ると、頻出語は多い順に「都市」「田舎」「地域」「地方」「コロナ」「人口」「生活」「若者」「集中」「共生」等です。
- ・頻出語間の関係を見ると、「都市」「田舎」「コロナ」の関連が強く、また「自然」「豊か」「暮らし」「魅力」の関連も強いです。さらに「デジタル」「通信」「発展」「移住」の関連も強くなっています。
- ・共感した理由として、テレワークの普及により、距離や時間を気にしない働き方が現実味を増していること、田舎の生活で、自然の中での子育てや、ゆったりできる生活ができるとの意見がありました。
- ・共感できない理由として、都市の魅力に引き寄せられる構図は変わらず、田舎の過疎化はさらに進むのではないかとの意見がありました。一方、田舎の環境破壊や地方の魅力への悪影響を懸念する意見もありました。
- ・コロナ禍でテレワークが広がり、距離や時間にとらわれない生活が期待される一方で、実際に目の当たりしている田舎の人口減少、高齢化の現状を見ると、地方回帰の流れを楽観視しすぎてはなりません。地方の暮らしを守る取組をしっかりと行うとともに、移住者等の力もうまく取り入れながら、都市と田舎が共に豊かになる道を探る必要があります。

順位	抽出語	出現回数
1	都市	77
2	田舎	67
3	地域	31
4	地方	22
5	コロナ	20
6	人口	19
7	生活	19
8	若者	18
9	集中	17
10	共生	15
11	仕事	13
12	進む	13
13	問題	12
14	環境	11
15	自然	11
16	テレワーク	10
17	可能	10
18	過疎	10
19	過密	10
20	増える	10



## <理由> ○共感した ●共感できない

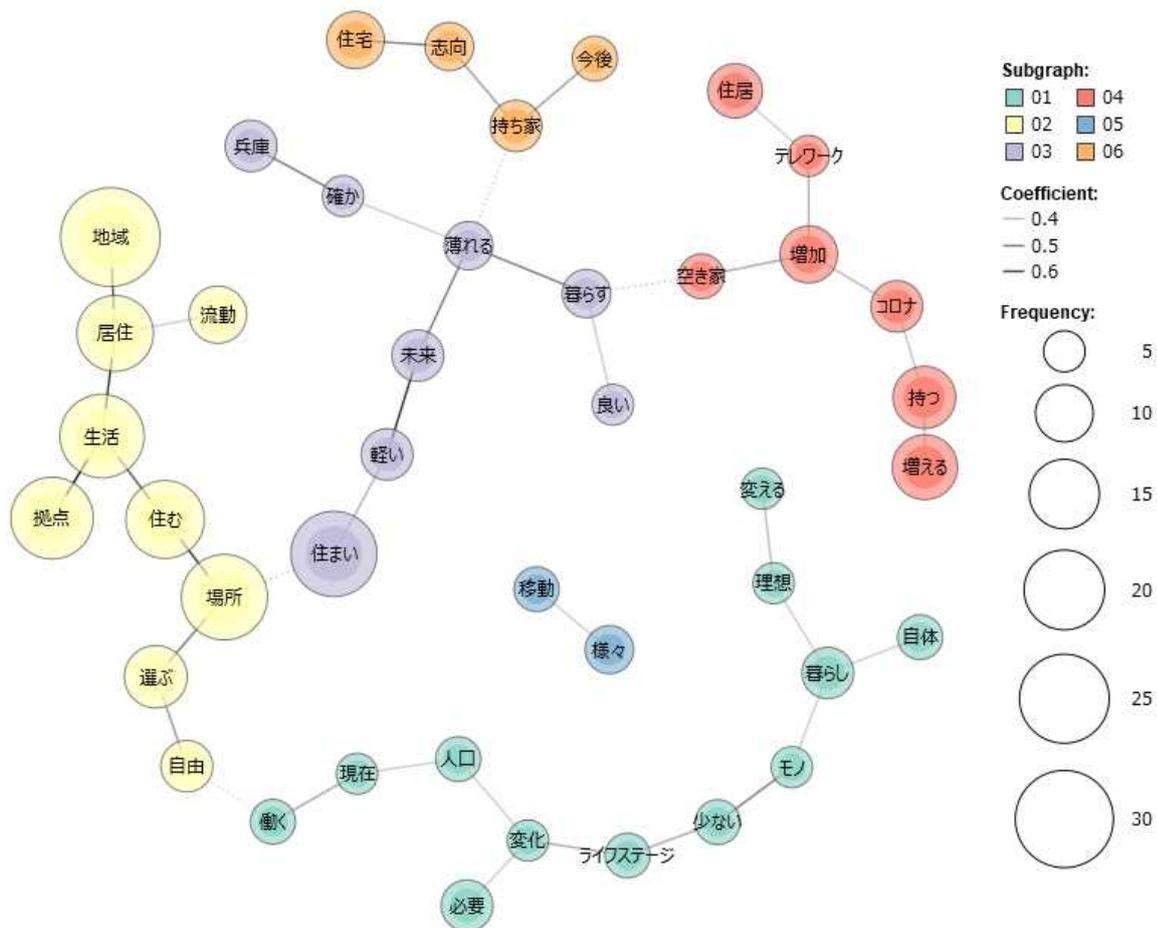
- 自然の中でも都会と同じように仕事ができるれば人口の集中を止め、過疎化も解消できる
- 自分の好きな場所に住みながら好きな仕事をしたい
- 田舎の暮らしは不便だが、自然に溢れ、子育て生活においてはかけがえのない大切な要素
- 過密でない場所を人々が求めるようになったこと等、人口の分散が想像できた
- 距離や時間を気にしなくても良くなり、都市と田舎の共生がよりしやすくなっている
- テレワークやインターネットでの買い物の普及により、田舎でも住みやすくなる
- 地域内での格差にも目を向け、都市でも農村部でも活気ある地域を創造すべき
- デジタル化により仕事をどこでもできるようになることで住まいの選択肢が増える
- 不便であるが故に地域の人たちと協力しながら農繁期に勤しんだり、車社会の田舎では自然に目を向けながら徒歩で移動することもある
- 高速通信やテレワークの発展により、都市と田舎の連携が促進され、都市部のニーズと田舎の課題を掛け合わせた好循環を産み出せる
- 新しい働き方やライフスタイルの導入が進んでいくと、より豊かな暮らしに繋がられる
- 都市部を自然豊かな土地に戻し、ゆったりできる地方のよい点を取り入れることに共感
- 普段その地域に住んでいない人であるからこそ、気づくことができる魅力がある
- 都市と田舎の間の往来が盛んになることで気分のリフレッシュもできる
- 地域格差が激しい。都市と田舎の共生が実現できれば、田舎もよりよい地域なる
  - 食材を買う場はあるのか。医療体制は整っているのか。介護の場はあるのか
- 人口が分散すると、行政サービスの採算がとれず、サービスの質の低下、廃止の可能性も
- 都市のもつ過密性などの問題が解消され、より都市の方が快適だと人々が思うのではないか
- 都市の生活に慣れている若者が田舎でフロンティアを形成することに希望を抱くのは危険
- 都市と田舎の往来の機会の促進、田舎の産業の発展が不可欠
- 生活コストが重くなり、時間を有効利用したい若者は田舎暮らしは選択肢に入りにくい
- 若者が地方にとどまりたいと思うような仕組み・環境を作り上げることは難しい
- 田舎から転出する人は住環境を変えたいと思う理由が多いので、田舎の過疎化はさらに進む
- 人口減少が加速する中では完全な共生は困難
- これまでの住み慣れた自然豊かな田舎の環境が破壊される可能性もある
- 流行の最先端やブランド、食からファッションまで充実し最速で体感できるのはやはり都市
- 田舎は交通網や通信設備が未発達であり、都市部のように気軽に移住に踏み切れない
- シナリオに若年層へのアプローチがない
- 田舎出身の若者や交通機関等の発達している都市部から若者が集うとは到底考えられない
- 多くの企業本社や団体の活動拠点は都市部に集中し、生活基盤を都市に求める人々が多い
- 多自然地域を若者たちのフロンティアとするには手厚い支援がなければ難しい
- 大学やイベント施設が基本的に都市にあるので、さらに田舎は過疎化し、共生とは呼べない
- 都市部の影響を受けすぎると地方が元々持っている魅力が薄れてしまう

## 24 軽くなる住まい 30票 (○共感した 5票、●共感できない 25票 (3位))

### 自分の子どもにも、自分の故郷はここだという場所を作ってあげたい

- ・住まいの流動化を特徴とする「24軽くなる住まい」は賛同が得られず、共感できないを25票集め、第3位となりました。
- ・頻出語は多い順に「地域」「住まい」「場所」「生活」「拠点」「住む」「居住」「増える」「持つ」「選ぶ」等です。
- ・頻出語間の関係を見ると、「住む」「場所」「選ぶ」「自由」の関連が強く、また「空き家」「増加」「テレワーク」の関連も強いです。さらに「住まい」「暮らす」「薄れる」の関連も強くなっています。
- ・共感した理由として、さまざまな地域の魅力を楽しみながら生活できること、ライフステージに応じて多様な住まい方ができるなどの意見がありました。
- ・共感できない理由として、地域への愛着が育まれない、緊急時の助け合いができない、中古ではなく新築がよく、定住する事で安心感を得られるなどの意見がありました。
- ・住まいの流動化は、多様な暮らし方を求める人の選択肢を増やします。しかし、定住したい人がいることも忘れてはいけません。また、人々が転々としてしまっ、地域への愛着が育まなかった場合に、地域が育んできた文化や歴史をどう継承していくかは課題です。

順位	抽出語	出現回数
1	地域	31
2	住まい	23
3	場所	23
4	生活	22
5	拠点	21
6	住む	19
7	居住	18
8	増える	13
9	持つ	12
10	選ぶ	12
11	住宅	10
12	増加	10
13	流動	10
14	住居	9
15	定住	9
16	コロナ	8
17	愛着	8
18	軽い	8
19	持ち家	8
20	自分	8



## <理由> ○共感した ●共感できない

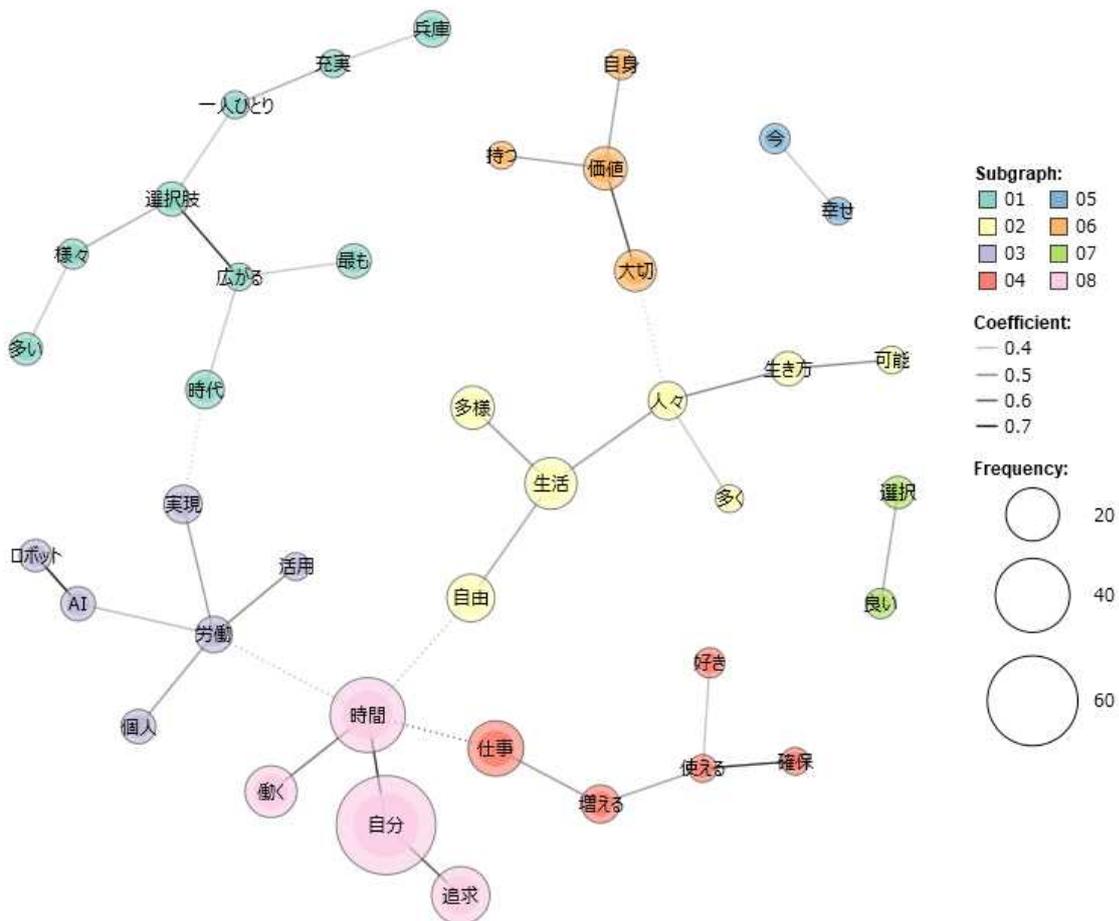
- ライフステージに合わせ柔軟且つ多様な住まい選びの形があり、且つ、テレワーク文化の醸成の両輪が実現されることが理想
- 住まいが軽くなることによって、ビジネスの多様化が進む
- 今後は持ち家も車も持たない人が増えていく
- 人口集中や二酸化炭素などの環境問題への改善につながる
- 地域ごとの魅力を楽しみながら生活をするのができ、空き家問題への解決策にもなる
  - 一人親家庭の子供の見守りや災害時の助け合い、高齢者のサポート等いざという時の助け合いは、二地域居住等が進んだ流動的なコミュニティではうまく分担・発揮できない
  - 地域で育まれてきた文化の継承や、人と人、ご近所付き合いといった繋がりが廃れてしまう
  - 地元へ愛着がある人や、友人・家族と離れたくない人も多数いる。リノベーションには手間と時間がかかる
  - 自分の子どもにも、自分の故郷はここだ、と思える場所は作ってあげたい。新参者かつ一時居住者を、元の住民は同じ地域の仲間という気持ちで迎えられようか
  - 学校自体は子供同士の主要なコミュニケーションの場であり、学校への登校自体が無くなるとは考えにくい
  - 田舎を含め、様々な地域への移動を促進する仕組みが必要
  - 住まいの住み替えや居住地の流動化により、人々が地域を思う気持ちが薄れてしまう
  - 住み慣れた街で長く住みたいと考えている人や、新築を建て、中古住宅やモノが少ない生活を好まない人など、当てはまらない方もいる
  - 新型コロナウイルスが流行している今、県が住居を転々とする生活を促すようなことをすれば、批判的な意見を持つ人も出てくる
- 空き家のオシャレリノベーションでは、耐震性や耐久性という面で不安
- 短期間での引越は、ある程度の時間を掛けて築き上げる地域と各家庭との繋がりを絶つ
- 生まれ育った故郷を大切にしながらも、他の地域への居住が気軽に出来る暮らし方が理想
- 行政としては、災害リスク、ハザードマップなどを活用して居住地域を指定し、県民の命、生活を守るための取組を進めるべき
- 一等地に住みたい、一流ハウスメーカーで家を建てたい、愛着のある地元で住みたい、子供のために環境は変えたくないなどは根強く残る
- 1か所に留まらないと郷土愛は育みにくくなる
- 人はどこかに根ざして一つの拠点で生活を送ることで安心感を得、安定した生活を送れる
- 地域住民とのつながりが薄れる
- 「軽くなる住まい」と「受け継がれる地域」のシナリオが相反すると感じた
- 非常事態の時に交流が少ないと連携や協力がとりにくくなる
- 流動化が進めば、兵庫県を離れる人もいるし、愛着が薄れる人も一方で出てくる
- 流動化により、子供たちの故郷に対する想いが希薄になってしまうのではないかと
- 空き家の増加や生活雑貨の購入や不要なものの廃棄といった環境面での問題も発生
- 新築住宅を取得したい層も約半数であり、定住を好む人も一定数存在
- 生涯を通した住居の担保が難しい
- 不動産の賃貸借等のトラブルが勃発しないか

# 1 自分らしさを追求できる社会 29票 (○共感した 27票 (2位)、●共感できない 2票)

## 最も大切な価値の一つが「自分らしさ」。多様な地域がある兵庫は、様々な「自分らしさ」の追求に応えられる

- ・「1自分らしさを追求できる社会」は、共感できない人はほとんどおらず、多くの共感を集め、第2位となりました。
- ・頻出語は多い順に「自分」「時間」「追求」「仕事」「生活」「働く」「生きる」「自由」「価値」「多様」等です。
- ・頻出語間の関係を見ると、「自分」「時間」「追求」「働く」の関連が強く、また「生活」「多様」「自由」の関連も強いです。さらに「自身」「価値」「大切」の関連も強くなっています。
- ・共感できる理由として、「自分らしさ」は、最も大切な価値、最後にたどり着く究極の答え、また、多様な地域性を有する兵庫五国は、自分らしさを追求するのにふさわしい環境であるとの声がありました。
- ・共感できない理由として、AIやロボットの発展で、職業の選択肢が狭まるのではないかとこの意見がありました。
- ・自分らしく生きたいとの声が多く聞かれました。自分らしさを追求できるよう、多様な選択肢があること、特定の価値観を押し付けられないこと、様々な壁を取り払うことが必要です。五国の多様性が自分らしさを発揮するための強みになるという声も多くありました。さらに、それぞれの個性を尖らせ磨いていく必要があります。

順位	抽出語	出現回数
1	自分	73
2	時間	41
3	追求	24
4	仕事	22
5	生活	19
6	働く	19
7	生きる	17
8	自由	16
9	価値	13
10	多様	13
11	大切	12
12	時代	10
13	実現	10
14	人々	10
15	増える	10
16	兵庫	9
17	労働	9
18	AI	8
19	個人	8
20	最も	8



## <理由> ○共感した ●共感できない

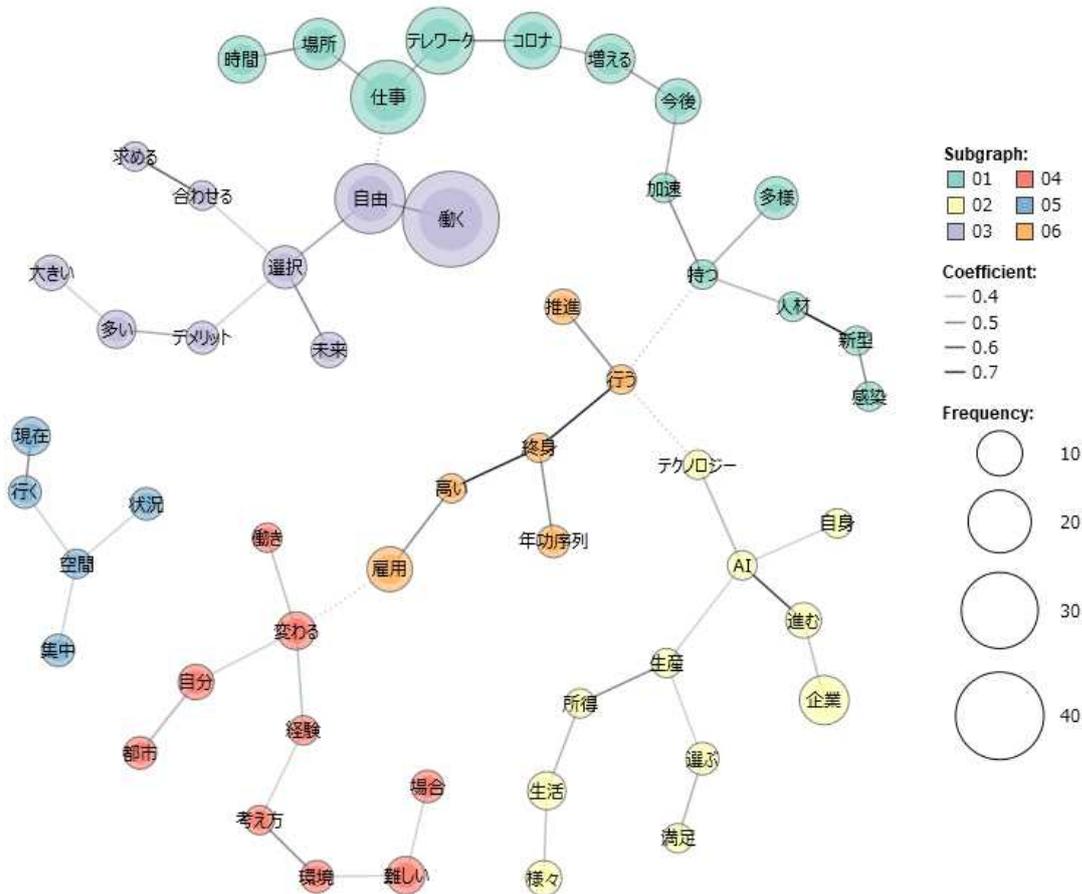
- 組織重視の時代から、個人重視の時代へと移り変わる中で、自分が生きたいように生きていける社会が最後に行き着く究極の答えだと思う
- これからの時代を豊かに生きるために1番必要
- 人が生きていく中で、最も大切な価値の一つが「自分らしさ」
- 一人ひとりが多様な生活を追求できることは五国から成り多様性を持つ兵庫にふさわしい
- 多様性の富む兵庫で充実した暮らしをしたい
- 兵庫に来るだけで、なりたい自分になれる、住みたい場所が見つかる
- 都市から農村部までの多様な地域がある兵庫は様々なニーズに応えていくことができる
- 多様性が認められる社会となり、SNSなどの発展により、新しいことに挑戦しやすい
- 自分自身にあった生活を選択し、他者の選択を受容することで自分らしい生活を追求できる
- 他人に迷惑をかけない範囲で、自由に、自分らしく生きられる社会が理想
- 人々の活動の原動力が稼ぐことから自分の幸せや価値を高めることに移行した個性を大切にできる社会に共感
- お金を稼ぐことよりも自分の自由な時間を大事にして生活を豊かにしたい
- 昔の偏った考え方にとらわれることなく、個人の自由、選択が尊重される社会が望ましい
- 働き方の選択肢が大きく広がって生きている昨今、その時代を生きる私たちの生き方も、同様に広がってきている
- 自分にとって大切なものは何か、自分の価値は何か考え、実現させていきたい。自己実現を目指す人を受け入れる社会を作りたい
- 自分らしさの追求により、若者から高齢者までが自分の興味あること好きなことに没頭することで兵庫の活力があがる
- 学生は時間はあるがお金がない、社会人はお金はあるが時間がない、老後はお金も時間もあるが気力がないと、やりたいことをやるのは困難
- 等身大の自分を受け入れてもらえることはこの上なく幸福なことだと思う
- 自分らしさを意識する教育等の個性を伸ばす教育を目にする機会が増えている
- 仕事も生活の一部であるということを踏まえ、仕事も生活も充実させていく考え方に共感
- 自分の時間を大切にし、自由に使える時間が増えることは多くの人々が望んでいる
- 自分らしくあれる仕事であれば、働くことに対して活力が湧き、作業効率も上がる
- 効率よく働き、自分の時間を持つことは心身の健康につながり、プラスのパワーが発揮される
- 仕事にとらわれ日々の生活に支障が出ると、何の為に仕事をしているのか分からなくなり、組織全体にも影響が出る
- 自分が大切にしている価値を追求できず、過労や生活する環境に左右され、鬱になる人が多い
- 個々を重視する時代への変化に遅れをとることなく、多くの人々のニーズに応えられる
- 新たに人員を増やして、社会的にも雇用を確保することが大切
- 「自分らしさ」というものはなく、あるのは今生きている環境に適応しようと無意識にしている習慣ないし生き方だけ
- AIやロボットの発展、デジタル化が進むと、いろいろな職業が出てきて職業の選択肢が狭まる

## 23 自由になる働き方 28票 (○共感した 13票 (5位)、●共感できない 15票 (5位))

### 多様なライフスタイルに応じ、場所、時間、組織にとらわれずに働きたい

- ・働き方の多様化を特徴とする「23自由になる働き方」は、共感したと共感できないが同じくらいの得票となりました。
- ・頻出語は多い順に「働く」「仕事」「自由」「テレワーク」「コロナ」「場所」「企業」「増える」「時間」「雇用」等です。
- ・頻出語間の関係を見ると、「自由」「働く」「選択」の関連が強く、また「仕事」「時間」「場所」「テレワーク」の関連も強いです。さらに「AI」「テクノロジー」「進む」の関連も強くなっています。
- ・共感した理由として、仕事と生活のバランスを自らコントロールできることや、結婚や育児、病気になった際など多様なライフスタイルに適合できる、農村の過疎対策にも一役買うなどの意見がありました。
- ・共感できない理由として、格差が広がるのではないかと、必要な職種に人が集まらなくなるのではないかと、フリーランスやギグエコノミーは不安定であり、推進すべきではないとの意見がありました。
- ・自由な働き方が広がれば、仕事一辺倒の生活が変わり、自分のライフスタイルにあわせて、仕事を選ぶことができます。しかし、起業や副業、フリーランスなどの働き方に適合できない人も当然います。雇用環境の悪化にも目配せする必要があります。安心して働ける環境、挑戦して失敗しても何度もやり直せる環境を整える必要があります。

順位	抽出語	出現回数
1	働く	48
2	仕事	28
3	自由	25
4	テレワーク	23
5	コロナ	16
6	場所	13
7	企業	12
8	増える	12
9	時間	11
10	雇用	10
11	今後	10
12	職種	9
13	選択	9
14	多様	9
15	現在	7
16	生活	7
17	多い	7
18	難しい	7
19	変わる	7
20	自分	6



## <理由> ○共感した ●共感できない

- 生活の質を高めるために、仕事とプライベートのバランスを自身でコントロールできる
- 仕事とライフワークが両立できる
- 場所、時間、組織にとらわれず、AI等テクノロジーの活用により生産性の高い仕事ができる
- フレキシブルな働き方は当然という認識になり、自らのキャリアプランを描いて歩いていく
- ライフサイクルに応じてより自分の能力を様々な仕事に生かすことができ、より自由に職業の選択ができるようになる
- 結婚や育児、病気になった際など多様な生活スタイルに適合できる社会にすることができる
- 生き方において何を重視するかで働き方を選べれば、人生において充実感や満足感が高まる
- 能力以外でのミスマッチに対して、雇用が流動化し転職を視野に入れた働き方も選べる状況は、一定のメリットがある
- コロナ禍でリモートワークの普及が加速し、今後定着すれば、より働き方の自由が加速する
- 人口集中や二酸化炭素などの環境問題への改善につながる
- 新しいテクノロジーを駆使し、どこでも働ける状態になれば、農村の過疎対策にも一役買える
- 個性を大切にしていこうという声が高まる社会に沿った行動であると思う
- 副業や資格取得など自己啓発に割ける時間が増えるので、本人の成長にもつながる
- 働き方に関しては厳しい位のルールがちょうどよい。経験が大きくものをいう世界である分野では、ひとえに年功序列が悪ともいえない
- 働き方の自由度が高まることで、1つの仕事に対する責任感が薄れてしまう
- 膨大な数の企業に、一貫してシナリオのような

働き方を求めるのは無謀

- 雇用の流動化により、人の入れ替わりが激しくなることで会社組織の伝統・文化の崩壊を懸念
- 働く場所が自由に選択できてしまうことで、職場の仲間作りや、人とのつながりが希薄になる
- 働き方だけでなく自分で働く企業を決める点も自由にしていくべき。就活をもっと自由に、自分らしく進められるようにすべき
- テレワークを経験し、自由な働き方のデメリットも感じた（集中力の持続、職場でしかできない仕事があるなど）
- テレワークを進めるにあたり、様々な場所に多くのコワーキングスペースが必要
- テレワークが活躍できるのは職種に偏りがあり、人々の間に不満が広がる
- テレワークは、職種によっては取り入れてもあまり意味がない
- ギグエコノミーが浸透した場合、自身がうまく順応できるのか不安
- ギグエコノミーやフリーランスなど安定しにくい職を行政側が推進していくべきではない
- マルチワーカーやギグ・エコノミーの安易な推進は専門性も乏しく、さらには広範な知識も持たない中途半端な人材を生むことにつながる
- コロナ禍で、生活の維持が困難になる方が出てくることを認識したので、働き方と生活保障を合わせたシナリオが必要
- 自由になり所得が増えるグループと、働かなくなり低下するグループの差が拡大するのでは
- 働き方が自由な一部の職種に人が集中すると、人材不足の職種も生まれる。必要不可欠な職種がなくなると、社会がうまくまわらなくなる



## <理由> ○共感した ●共感できない

- 移動サービスの選択肢を公共事業として進めることで、活気のあるまちづくりや脱マイカーによる脱炭素社会の推進に繋がる
- 高齢者の運転も危険なので、道路ネットワークだけでなく、公共交通機関を整えることが重要
- 暮らしやすさや環境への負荷軽減に加え、インフラ投資削減による経済的メリットも大きい
- 移動手段が多様化することで、自動車を運転したくないが田舎に住みたい人のニーズに沿う
- 通勤通学が快適になれば、都市部への人口流出も緩和され、人口の偏在化に歯止めがかかる
- 交通網の発達には農村部の観光資源の有効活用につなげることができる
- 高齢者がいつでも自由に、安心して外出することができ、充実した時間を過ごせることを望む
- 子どもからお年寄りまで生き生きと暮らせる社会をつくるには、移動手段の選択肢を増やすことが大切
- 自動運転で、運転手だけが休めないこともなく、家族みんながより旅を楽しめるようになる
- 自動運転の活用により、楽しい老後の実現につながり、人々の活力につながる
- サイクリングルートにより、新たな観光スタイルの確立によって、兵庫五国の豊かな地域特性を再発見が見込まれる
- 淡路から但馬は氷上回廊があり、標高が低い南北路が存在するため、ドローン活用に期待
- 物流の快適性を上げることで地域格差がなくなり人口の偏在化の解消に大きくつながる
- 人口の減少に伴う道路利用の減少を考慮し、必

要とされるインフラの見直しが重要

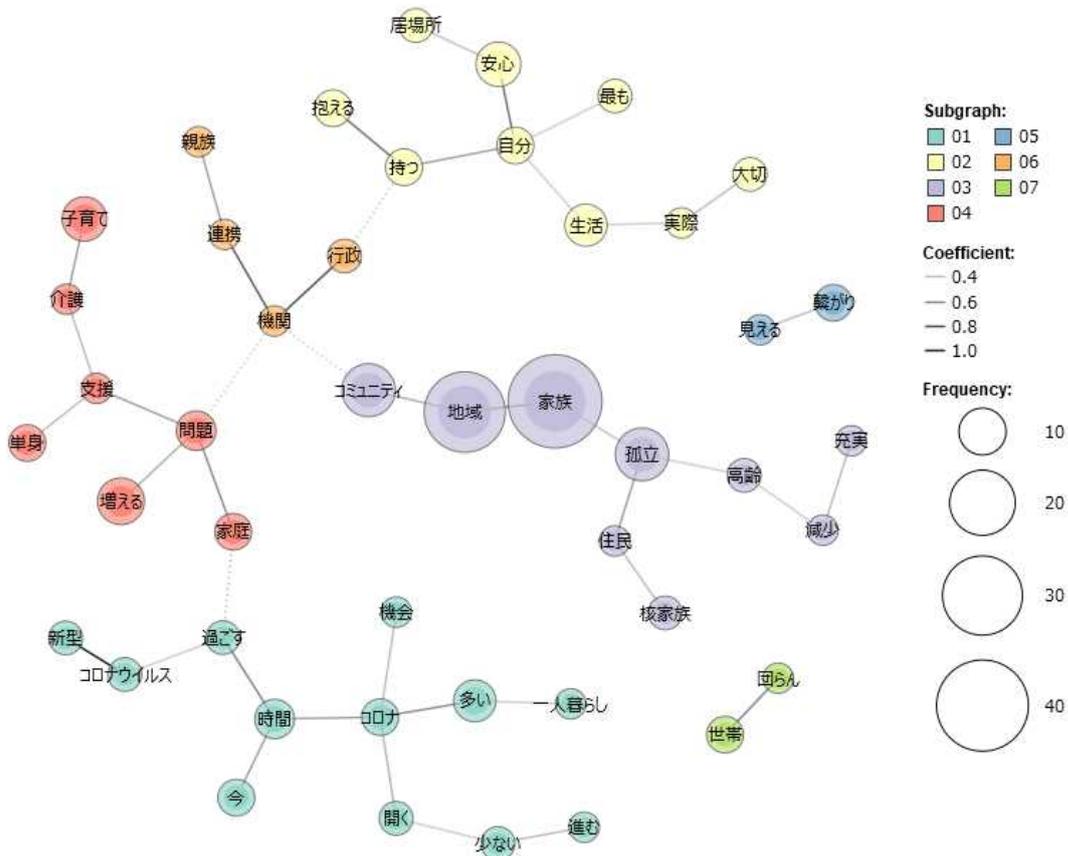
- 観光以外の目的で但馬地域に出入りする際に不便を感じるため、但馬空港の利用拡大や、高速バス・電車の便数増加が必要
- 簡単に移動できる時代だからこそ、魅力のある地域には人は集まり、逆に魅力のない地域はますます活気が失われていくのではないかと
- 高齢化率は田舎の方が深刻であるにも関わらず、都会ばかりが充実し田舎に住む高齢者は孤立するばかり
- 多様な移動手段を自由に選択できる必要があるが、電車やバスは農村部で普及していない
- 人がいない地域での公共交通機関および交通インフラの維持が困難
- 利便性を整えるだけでなく、その地域自体を活性化し、地域内での快適性や魅力の向上も並行していく必要がある
- インターネットなどの発展により、地域から動かないでも問題ない方向に未来は進んでくと感じており、時代の流れに逆行
- 多世代の交流は都市でしか生まれず、地域差がより大きくなる
- 多様な移動手段が普及するのと合わせて、ルールを明確にしておかないと、大きな事故につながる危険性がある
- 車の共有は、レンタカーを利用するのと同様の環境を整える必要があり困難
- 空飛ぶクルマの利用が大衆化すると、空の渋滞がおこるのではないかと
- 空の交通網や、それに伴う地上の整備などの費用を考えると、とても大規模なものになる

## 14 つながりを広げ、深める家族 24票 (○共感した12票 (9位)、●共感できない12票 (9位))

### 人とのつながりを感じられる、孤立させない社会をつくるべき

- ・「14つながりを広げ、深める家族」は、共感と共感できないが同数の得票となりました。
- ・頻出語は多い順に「家族」「地域」「コミュニティ」「孤立」「増える」「安心」「子育て」「生活」「多い」「時間」等です。
- ・頻出語間の関係を見ると、「家族」「地域」「コミュニティ」「孤立」の関連が強く、また「自分」「安心」「居場所」の関連も強いです。さらに「子育て」「介護」「支援」の関連も強くなっています。
- ・共感した理由として、家族のつながりが一番の癒しであるなど家族を大切に思う気持ちや、地域とのつながりがあることで、安心を得られるなどの意見がありました。
- ・共感できない理由として、引きこもりが長期化した高齢者の居場所づくりの困難さや、一度社会から外れてしまった場合に復帰が困難など、実際には、つながりをつくりだすのは難しいとの意見がありました。
- ・家族や地域のつながりは大切だと感じていても、実際には単身者は増え、地域のつながりも希薄化しています。そもそもつながることは煩わしいと感じる人もいます。困った時でも孤立しない社会の構築が必要です。

順位	抽出語	出現回数
1	家族	42
2	地域	31
3	コミュニティ	13
4	孤立	13
5	増える	10
6	安心	9
7	子育て	9
8	生活	8
9	多い	8
10	時間	7
11	問題	7
12	コロナ	6
13	家庭	6
14	繋がり	6
15	今	6
16	持つ	6
17	自分	6
18	世帯	6
19	単身	6
20	抱える	6



## <理由> ○共感した ●共感できない

- 家族と一緒に過ごすことの安心感、人とつながることの大切さ、自分にとって非常に大切な存在は家族であるということを感じる
- 北欧は家族ファースト。そのような文化が残業ゼロ、地域コミュニティの充実などにつながり、世界幸福度ランキング上位の所以だと実感
- 一番身近なつながりであるからこそ家族のつながりが一番の癒やしになるのではないかな
- 核家族同士が開かれる事で、家族のニーズが結びつき、QOL向上やまちの活性化につながる
- 子育てや介護をともに助け合いながら行うことで地域の活性化につながる
- 保護者が身近に相談できる人や場所がなく、子育てに不安や悩みを抱えているケースが多い
- 姫路は祭りなどが盛んであり、そのような催しに町民が自分の居場所を見い出している。歩いているだけで声をかけられ、安心感を覚える
- 地域間による世代を超えたつながりを支援していくことで、共助の強化や支援技術の取得につながり、他の困難事例にも対応できる
- 直接人と接する機会がもてない今だからこそ、何かしらで人とのつながりが感じられる社会を構築する必要がある
- 生活するそばに血の繋がりはなくとも親しく付き合える顔の見えるつながりを持っていることは、日々の安心や安全を育む
- 社会とつながる多様な居場所があれば、単身や社会のつながりの少ない人達にとって安心
- 社会からの孤立は、DVや虐待、引きこもり、8050問題等を加速させてしまう恐れがある
- 家族内、世帯内での暮らしの増加は、社会からの孤立化や「閉じた家族」化を進行してしまう
- 家族とのつながりに価値を見出さない人にも同時にアプローチしていくことが求められる
- 地域やご近所との距離が縮まれば縮まるほど、家族が関わる人数が増え、トラブルが起こる
- ひきこもりが長期化し、高齢となると、「地域での居場所をつくる」ことがさらに厳しくなる
- 単身者のひきこもりを防ぐ見守り対策の充実化をより計画していくべき
- 一度社会から外れると復帰するのが難しく感じられ、そこを改善できる策があればよい
- 十分な資金がない単身者は、多世代が利用するシェアハウスやグループホームを利用できない。どのように地域コミュニティに溶け込み、生身の人間との繋がりを広げるのが見えない
- 都市部では温泉やレストランを併設したまちづくりもいいが、地方部ではインフラの長寿命化など管理の方が重要
- コロナが落ち着けば、お祭りや防災訓練など、積極的に地域イベントを開催し、各家族と地域とをつなぐよう、取組を行う必要がある
- 家族や友人との時間はバーチャルだけでなくリアルでも感じたい
- 周辺に住む人、コミュニティで繋がるより、ネットの繋がりの方が濃くなっていきそう
- 「開かれた家族」とあるが、具体的にどのように連携していくのかイメージがつかなかった



## <理由> ○共感した ●共感できない

- 行政手続きがリモートとなり、簡素化、利便性が向上することはとても良い
- デジタル化、プラットフォーム化によって、様々なことが効率化されそう
- いつでも、どこでも、誰でもという透明で公平公正な行政運営と、更なる効率化が求められる
- 普段の業務を一つずつシステムに組み込むことで簡易なシステムによるサービスが可能に
- デジタル化の先陣を切ってもらいたい
- デジタル化に成功した国の事例を参考に、地域特性に沿った施策を実験的に運用していくことで、全国のプロトタイプモデルになる
- 自治体では費用の回収や継続的な予算確保が難しいため、持続可能性を有した“地に足のついたスマートシティ”の推進が必要
- 脱定住というコンセプトは、過疎化や少子化に直面する自治体が新しいあり方を見いだせる
- 都市から離れて暮らす人も増え、定住を前提としない住民票は今後大きく意味を持つ
- 脱定住やデジタル化は、人口減少や都市集約などによるサービス低下などのマイナス要素を補う施策やサービスの効率化が進む
- 住民の意見や思いを行政が吸い上げやすくなり、ふるさと意識が芽生えやすいのではないかと
- デジタル化を一気に進めても、誰もが使いこなせるとは到底思えない
- デジタル化に馴染むことができなければ、社会活動に参加出来ずに孤立する住民が増える
- 常に処理しなければならない職務が多く、変革に対応した現場体制をつくる余裕がない
- デジタル化の徹底的は、災害に対して弱くなる可能性が高い。公の領域に民間の競争原理のようなものを持ち込むのは格差を生む原因に
- 自治体以外の公共サービスの提供は、利益が出やすいサービス・地域では安い、そうでないものは高くなる
- 定住者の人口移動を流動化することは実感がわかず、地方での多様な文化や技術を受け継ぎ発展させていく考え方と逆行
- 定住を前提としない住民票等の制度は、犯罪の温床になる危険性もはらんでいる
- デジタル化には、個人情報を守る仕組みを整え、データ活用に関して透明化する必要がある
- 高い技術力を誇る研究所や企業が多いにも関わらず活かしきれていない課題を解決すべき

## 8 多文化が入り混じる兵庫 18票 (○共感した 5票、●共感できない 13票 (7位))

多文化交流が進むことで、多様性を当たり前を受け入れられたり、新しい発想や価値観などが生まれるとの意見がありました。一方で、治安悪化や就業機会の減少への不安や、地域の独自の文化が失われてしまうのではないかと意見がありました。

### <理由> ○共感した ●共感できない

- 新型コロナウイルスが収束し、多くの国から兵庫を訪れる方が増えてほしい
- 小さな子供のうちから、文化、言語、価値観の異なる人と交流することで、多様性を当たり前のこととして受け入れることができる
- 多様な文化の交流から新しい発想や価値観なども生まれて、活性化した地域が創造できる
- 多文化が入り混じるコミュニティやサポート体制の充実によってグローバルな兵庫が実現される未来を想像することができた
- 在留外国人の増加率が高いことは多文化共生への理解が深いからではないか
- 人種や言語に影響されることなく会話や相互理解ができ、外国人とともに暮らすという環境が浸透した社会になっている
- 都市部への人口集中や受け身スタイルの学校教育など国内での問題が解決していない
- 犯罪など地域への不安も懸念。外国人がしっかりと生活できるような環境整備も必要
- 兵庫県の優秀な人材の海外への漏出のリスクがある
- 他の文化を積極的に受け入れようとするような姿勢は、文化の多様性の活性化という意に対して本末転倒である
- これまで受け継がれてきた兵庫県独自の文化や歴史が大きく変わってしまうのではないかと
- 他国において移民を受け入れたことによる治安悪化といった報道を目にする機会もあることから、誰これ構わず受け入れることは危険
- 国籍関係なく、くらしや子育て、働く環境など、住み続けたいと思える町になるべく、コミュニティや環境整備がより一層必要
- 外国人に兵庫にきてもらうだけが交流ではない。兵庫の現状、魅力を発信し続け、SNS上での交流会の開催等を実践していくことが重要
- 現段階では受け入れ体制（労働環境、治安の悪化など）が不十分であるため、問題がある
- コミュニケーションの困難さ、文化や習慣の違いによるトラブル、日本人の就労機会が減少するなどの課題がある
- 老若男女が地方で暮らせるように制度を充実させ、その上で多文化交流を進めるべき
- 兵庫だけでなく、国全体で推し進めていく必要がある

## 10 なくなるジェンダーバイアス 17票 (○共感した 7票、●共感できない 10票)

ジェンダーバイアスの解消には、教育が重要であることや、男女問わず価値観は様々ななどの意見がありました。一方で、「女性の…」といった性別を強調する表現に違和感を感じるという意見や、男女の脳や体の違いから得意不得意があるとの意見もありました。

<理由> ○共感した ●共感できない

- 世界に比べて遅れをとっているという現状に、とても残念さと、未来への不安を感じる。兵庫が先駆的に取り組めば他府県の女性から注目を集め移住につながる
- 自分と違う人がいることを当たり前で認識し、互いを尊重する意識を幼少期から身につけ実践していくことで実現可能ではないか
- 会社等で管理職や上司となっている四十代・五十代に対する教育は特に強化すべき
- 男女問わず人の価値観は様々で、家事に重点を置きたい男性もいれば仕事に重点を置きたい女性もいる
- SNS等により男女格差に対する考えを持っている人や性別の多様性に理解のある人が多い
- 支え合い、暮らしていくことが健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会が理想
- 自分の子供を育てることがイクメンと周りから言われるのはおかしい
- 「男女の格差」や「女性の…」 「女性が…」 との表現に違和感がある。従来どおりで画期的とは感じられない。その表現はやめた方がいい
- 「LGBTQIA等の性的マイノリティへの認知が進む」という文言を使っている時点で、性的マイノリティに対して特別視している
- 普段何気ない環境など身の回りには多くのジェンダーの問題が潜んでいるため、小さな事からコツコツと変えていかなければならない
- 家庭を大事にしたい女性には休暇や早退など、家庭のための時間を得られる政策や文化の定着がさらに必要
- まずは企業側に人を育てる余裕やその活動を援助するような法律が必要
- 今まさに人々の課題意識と意識変容が進んでいて、即時着実な推進、支援を行うべき内容
- 人間、さまざま人がいて、それぞれの特徴を活かしていける社会が理想
- 未だに固定的な男女の役割等は消えていないのでシナリオ実現にはもう少し工夫が必要
- 少子高齢化社会で、兵庫県を発展させるために人口を増加させることが必要である
- 男女の脳や体の違いから得意不得意があることを忘れてはならない

7 進化する御食国 16票 (○共感 15票 (3位)、●共感できない 1票)

フードロスへの対応、人と環境にやさしい農業の広がり、地産地消で消費を循環、食べるものに困窮しない社会など持続可能性を意識した意見がありました。

<理由> ○共感した ●共感できない

- 健康に気を遣う人が増えてきており、その中でも食事というものは非常に関心が高い
- 人と環境にやさしい農業の広がりが、人と生物が暮らす自然豊かな共生社会の実現に向かう
- 多様な人々が役割を分けながら農業に関わることは、国内の経済を支える一つの方法となる
- 農地レンタルや週末農業の土地レンタル、収穫物のサブスク事業は農業に係わりたいけど土地がない人に魅力的
- その環境で暮らす動植物を尊重しながら共生することで持続可能な社会の実現に貢献
- 未利用食品を食品企業や農家などから寄付を

- 受け、必要としている人や施設への提供が必要
- 食料を無駄にしないようにフードバンクやフードドライブの整備がもっと広がれば良い
- 食品ロスを出さない計画的な生産・販売と、ハイクオリティの農作物の生産に期待
- 地産地消で消費を循環させながら、一部輸入ルートは確保し、保存などを含め食料難にも対応できる体制を確立すべき
- 様々な形で就農する人が増え、地産地消に関心を持つ人が増え、兵庫の豊かな食文化が発展することに期待
- コロナ禍の影響で職を失い、生活苦に陥る世帯が増加していると考えられるいま、**食べるもの**

- に困窮しない社会**を作り出すことが必要
- 新規就農者でも働きやすい環境を整えることが人材の確保や生産性の向上といった県農業の持続的な発展に繋がる
- スマート農業を進め、**農業との兼業を、より現実的で身近なものにする必要がある**
- IoT技術を駆使した農業の実現により身体的負担の軽減や効率化し、**農業への門戸拡大が必要**
- スマート農業の発展や法人化・大規模化による昔とは違った形の農業が必要不可欠
- 農業を発展させたい土地においては、**農業発展と環境破壊の折り合い**をつけることが大切

## 5 磨かれる五国の個性 15票（○共感した 13票、●共感できない 2票）

五国があることで、自分の理想に適した暮らしが見つかるなど、ひとつの県の中に様々な特色があるのが兵庫県の個性などの意見がありました。一方で、地域特有の文化を残す世代がいなくなり、五国の魅力も伝えることが難しいとの意見がありました。

### <理由> ○共感した ●共感できない

- 豊かな自然に囲まれつつも神戸市のような外国風情のある街並みなど、**ひとつの県の中に様々な特色**があるのは兵庫県の個性
- 同じ県内で場所ごとに特色がこんなにも異なるのは珍しい。5つあれば、その何れかに魅力を感じる人はきっといる
- 地域の人々が地域の魅力を誇り、伝統や自然を保存、活用することは、**兵庫県が世界にただ一つの場所**として内外にアピールする大前提
- 他の都道府県にはない多様な地域から成り立っているという魅力がある
- 地域資源を磨き上げて、これまで気付かなかった良さや、新たな魅力が発見でき、五国それぞれのさらなる成長が期待できる
- 兵庫ならではの5つの文化を大切に、武器とすれば、将来さらに兵庫県の魅力が増している
- それぞれの地域独自の文化や地域性を磨くことでさらに兵庫の新しい魅力が発見できる
- 五国からなるため非常に多様性にあふれており、自然、歴史、町並み、食、文化、産業など様々な魅力がある
- 自然・歴史・町並み・食・文化・産業など、特性の違う五国が存在することで、**自分の理想に適した暮らし**を見つけてもらうことができる
- 各自治体で移住者向けの物件の斡旋や移住後の生活に溶け込みやすくなるようサポートする体制を整えていくことが求められる
- 個性にさらに磨きがかかれば、その地に住む人が**地元を誇り**をもち、より地元を盛り上げていく気運も高まる

- 「五国のそろった兵庫県」として協力し合うことができ、五国間の交流が盛んになることで、観光客や移住者に注目される
- 瀬戸内から日本海にかけて特有の風土を活かしたシナリオに共感

- 各地域の個性を発展させるためには、後継者問題や、文化財や特産品に触れるための移動手段など、様々な解決すべき問題が存在している
- 地域特有の文化を残す世代がいなくなり、五国の魅力も伝えることが難しい

## 22 自然と共にある暮らし 15票（○共感した 13票（5位）、●共感できない 2票）

自然との触れあい子ども達の学びにつながることや、自然環境の理解が深まり保全の取組につながったり、災害対策にもつながるなどの意見がありました。

### <理由> ○共感した ●共感できない

- 自然にふれあって幼少期を過ごすことで私は生物に興味が出て、大学で生物を学んでいた。このように田舎に住むメリットは確実にある
- 環境の整備・保全は、自然を守るだけでなく、アウトドアなど地方に人が集まるという地方活性の面においても、重要である
- キャンプブームの延長線上に、自然とずっと関わってられる暮らしを求める人が増加する
- 川や海で釣りをしたり泳いだり、冬にはスキーにいった思い出が今も記憶に残っている。この楽しさをより多くの県民に感じてほしい
- 自然の中で遊ぶことは、新しい遊びを考えたり、友達と協力して秘密基地をつくったり、生き物をふれあうことで命の大切を学んだりと社会で生きていく上で大切なことが学べる
- 子供の頃から自然と触れ合うことで自然の大切さを身をもって感じる事が出来るので、大人になっても兵庫の豊かな自然を守り育てていく事が出来る
- 五国の自然に触れる機会が増え、様々な学びが生まれるとともに、自然環境への理解が深まり保全の取組につながる
- 近隣の住人と一緒に農業をしたり、同じ取組をする仲間と情報共有するなどして人と関わりながら自然に触れあうようになっていく
- これまで快適な生活のために自然を犠牲にして発展してきたが、これからの発展は自然との調和を図る持続可能な開発が重要
- 子どもころから地域の自然を通して地域愛を育むのは、地域の持続的発展にとって重要
- 自然とふれあうことでその土地に愛着を持ち、その地域の住民同士の交流が生まれる
- 自然と密接な関係を持つ伝統文化や歴史史料の保護といった分野にも目が向けられる
- 自然の維持管理は災害対策にもつながる
- 半農で必要な条件として1年通して穏やかであり続けることがある。天気が荒れるとどうしようもなくなる人がほとんどではないか
- 人口が減る中、週休三日制の拡大は難しい

### 33 開かれた学校 15票 (○共感した 2票、●共感できない 13票 (7位))

自由度の広がりには逆に格差を生む、変化に対応できない子供への配慮が必要、やりたくないことはやらなくて良いという考え方にならないような配慮が必要などの意見がありました。

#### <理由> ○共感した ●共感できない

- 海外の学校で活発に行われているディスカッション等の活動で練習し、自分の意見を持ち、発言・発信していく力は様々な場面で役にたつ
- オンラインによる家庭もしくは本人の希望する場所での授業の参加、生徒との交流ができる環境を整備することで学生の孤立を防ぎたい
- 学びたい科目を個々が自由に選択できることは、個人の経済・資本金格差が出てしまう
- 学びの自由度が上がることにより、これまで以上に一人一人の格差が生まれるリスクもある
- 変化に適応困難な子供にも配慮した環境を設ける必要がある
- 授業のオンライン化やAI化によるディスカッション・グループワーク主体の授業は、塾や予備校などでも実施できるし、社会教育の場でもある本来の学校の趣旨から外れてしまう
- 大学生ならオンラインツールを使いこなせても、小中学生でそれができるとは思いづらい
- オンライン教育には課題や不安が多く、コロナ収束後にそもそも必要なのか
- オンライン教育における教員や家庭への負担を考慮する必要がある
- オンライン教育や体験教育に重きを置きすぎれば、学力を伸ばすことに支障がでる
- 教育の場では対面でのコミュニティがあつてこそ、という場面で育まれるものもある
- 人口減少・超高齢化は、子育て支援や教育システムが充実した特定の地域に子ども・子育て世帯が集中する人口の偏在化を招く
- 新たな試みばかり増えると教育現場での人材に負担を課す。学びの自由度を高めると、選択することが難しかったり、苦手でも取り組んでみる体験が失われる
- 「個性」と「わがまま」の線引きが曖昧になることで、やりたくないことはやらないで良いのだといった考え方にならないよう配慮が必要
- 島国根性の強い多自然地域に転入した際、子どもが閉鎖的な環境に身を置くことになるので、不安や疎外感を感じやすくなる。

### 32 人に投資する社会 14票 (○共感した 10票、●共感できない 4票)

新たな取組を行うにもアイデアや技術を生み出す人材が必要、今の地位を失ったり、今ある能力の価値が急落しても、別の方法で生きていける社会が望ましいなどの意見がありました。既存の人材要件では何が通用しないのかを考えて人材育成すべきとの意見もありました。

<理由> ○共感した ●共感できない

- 多方面から学びを得られる場所の提供や、次世代の意見を取り入れる環境づくりが必要
- 与えられた課題を解決する価値観に沿った画一的教育では今後の社会に対応できない
- いなくてはならないとの正しい評価と見合った給与、社会のために力を存分に発揮できるサポートをする、人に価値を与えられる社会
- 公立中高の先生の人材不足から、教育の質が低下。公立中高の教育への投資が必要
- 社会をより良くするために一人ひとりの能力を向上することが重要
- 新たな取組には、アイデアや技術が必要不可欠。それらを学ぶ人に投資することで、より一層質の高いアイデアや技術が生まれる
- 貧富や地域格差のない教育や能力の開発が活発に行われ、個性豊かに活躍していける社会
- 問題を探す、構想する力は、先の予測が困難な今日では必要不可欠な能力である
- 私立高校授業料実質無償化や高等教育の無償化など人的投資の拡大を今後も続け、より開かれた教育を進めていくことが必要
- 様々な経験や、いろんな分野について学ぶことで、今の地位を失ったり、今ある能力の価値が急落しても、別の方法で生きていける
- 少子高齢化が進み、学校の規模等が縮小していくなかで、学校教育にもっと投資していこうという流れを生み出していくのが難しい
- 具体的にどのように実現されるのかイメージができなかった
- 学校教育の指導方法によっては将来の職業や生活に大きな影響や格差を生みかねない
- 既存の人材要件では何が通用しないのかを考え、それを元にこれからの人材を育成すべき

18 スポーツが育むつながり 13票（○共感した 8票、●共感できない 5票）

性別・年齢・立場の異なる人との交流が生まれる、リフレッシュや健康増進につながるとの意見がありました。一方で、誰もがスポーツが好きなのではないとの意見がありました。

<理由> ○共感した ●共感できない

- スポーツが出来る環境を増やすことで日頃のリフレッシュになったり、人とのつながり、健康管理も出来る
- スポーツを行うことは、仕事の生産性の向上、健康増進、コミュニケーション能力の向上など私たちが生活していく上で必要不可欠
- AIやICTの発達によって仕事が体力的に楽になると、より健康を増進するために体を動かす機会も多くなる
- スポーツを通じて性別・年齢・立場の異なる多くの人と一体感を感じながらつながることが大変有意義である
- 熱中することで普段コミュニケーションをとることがない世代の方とも共通点生まれ交流を深めることが可能
- スポーツは、世代や性別をこえたつながりを生む力がある
- 年齢や障害の有無を問わず交流できるので、地域社会の再生や活性化にも繋がる
- 高齢の方や障害を持っている方が様々なスポ

ーツを楽しめる環境になってほしい

- 運動をあまりしたくないという人たちも積極的に取り組んでいけるような施策が必要
- 実際どのような取組により人とのつながりが広がっていくのか不明
- 誰もがスポーツが好きではなく、他のシ

ナリオと比べて間口が狭い

- 部活動をしながらでもいろいろな活動ができるようにしてほしい
- 社会人・大学生は、スポーツを気軽に感じられるほど関心が高くないのではないか

## 36 カーボンニュートラルな暮らし 13票 (○共感した 1票、●共感できない 12票 (9位))

ミニマリストに関して、新しいものが開発されなかったり、経済的な側面から共感できないことや、そもそも豊かになるのか疑問、面白くないなどの意見がありました。

### <理由> ○共感した ●共感できない

- 他者とモノをシェアすることで人とのつながりが生まれ結びつきが強くなる
- シェアリングカーが現在所有される車に代替するには多くの台数が必要であり非効率
- ガソリン車で走る車やバイクが街から消滅してしまうことは悲しい。環境と先人が作り上げた機械の共生を模索していきたい
- 車社会自体を変える革新的な技術や手法が開発・普及されない限り、カーボンフリーな移動の実現は不可能
- 再利用をする、温室効果ガスを排出しないようにする以外にも経済を動かす視点もある
- モノを持たない簡素な暮らしが増加することでは、経済的な側面からはあまり共感できない
- モノを持たない簡素な暮らしが豊かさになる

のかが疑問

- 国際的な問題なので、各都道府県では限界がある。ミニマリストの生活を送るのは面白くない
- ミニマリストはまだ少数であり、大量買いをする人も現に存在する
- 再生可能な素材と再利用された素材だけを使うものづくりは、製造コストが高騰した場合の買い手の確保、高価格に見合った付加価値の提供も併せて考慮する必要がある
- リユース、リサイクルがメインになり新しい物が開発されずに技術が発展しなさそう
- 再利用して使い続ける未来は、あまり活気があるように感じられない
- 物をたくさん買って所持している人は悪者扱いされないだろうか

## 2 活力を支える健康 12票 (○共感した 10票、●共感できない 2票)

兵庫の医療産業の特色を活かすべき、病院や専門機関が少ない地方の医療の課題に対応すべきなどの意見がありました。一方、都市と田舎の救急医療の差を埋めることは難しいとの意見がありました。

<理由> ○共感した ●共感できない

- 県民の健康を支えることは限られた人口が個性を発揮し、活動することに繋がり兵庫県全体の発展・経済活動の進展に繋がる
- 平均寿命が延びても健康寿命が延びれば社会保障制度の負担も軽減できる
- 医療という特色ある産業を前面に押し出し、大阪、京都とは違ったアプローチで発展すべき
- 住民は医療を享受する体制を知らないこと、地域の病院の深刻な医師不足は明らかな格差ではないかと日々考えている
- 不調になる前の予防的検診と、その検診を通して見つかる初期段階での治療開始が患者さんにとって身体的にも、経済的にも負担が少ない
- 兵庫県には重粒子線・陽子線での治療を受けることができ、他府県よりも医療が進んでいる
- 少子化と高齢化が進む割には病院の数や専門機関が少ない。地方の医療に大きな課題がある
- 製薬企業とタイアップして、専門的な知識をわかりやすく県民に提供し、正しい理解の元に生活習慣が改善される
- 歳を重ね自動車の運転ができなくなっても、自分の好きな場所で生活を続けることができる
- 医療が進み、早期発見率の上昇、医療費がよりいっそう低額になることが県民全体の医療費の負担を減らし、健康の維持にも必要
- 大きな改革を行わない限り、慢性疾患の手術などは差が埋められても、救急医療は難しい
- 予防という観点からの施策を重点化し、その人がその人らしく生きられるように健康寿命の遷延を図ることが大切

4 沸き立つ起業 12票（○共感した 7票、●共感できない 5票）

学生時代から起業のノウハウを学ぶことは重要、都市機能と豊かな自然を併せ持つ強みを活かすべきなどの意見がありました。一方で、「起業してお金持ちになる」＝「幸せ」という考え方は古い、伝統的な店舗等を守るべきとの意見がありました。

<理由> ○共感した ●共感できない

- 学生時代から起業家精神を育む教育や多くの実践機会があれば、柔軟で斬新な発想を試す機会も増え、イノベーションを起こしていける
- アイデアをビジネスに発展させ、生活の糧や自己実現につなげられれば、ワークライフバランスが推進され、自己の強みが最大限社会に還元
- 新しい働き方の創出、起業を支援する体制を整えば、雇用人口が流入する
- 学生時代から起業のノウハウを学ぶことは、独創的な発想を鍛え、人生に役立つ
- シニア層の起業により、高齢化が進む社会の課題に対し、同世代の目線でコミュニティビジネスを展開することができる
- 子どもや若者の発想・発言は財産であり、大人はその勢いをバイアスで止めてはいけない
- 東京よりも大幅に地価が安く、都市機能と豊かな自然を併せ持っている県ということを醍醐味にスタートアップ集積地を創っていくべき
- ある程度規模もある会社の支社や支店を兵庫に招き入れることの方がローリスクで確実に利益の向上や地域の活性化に繋がる
- 地方を拠点とした実体を有する会社の起業を

支援した方が、多自然地域の維持を担い、雇用の創出、一極集中の回避に有効ではないか

- 「起業してお金持ちになる」＝「幸せ」という考え方は古くなっている

●コロナ禍で、古くからの地域の伝統的な店舗等を守ることの重要性に気づかされた

- 実現させるべき優先順位を考えて起業を共感できないで選んだ

### 39 受け継がれる地域 12票（○共感した 4票、●共感できない 8票）

伝統を受け継ぐことで、より地域への愛着が育まれるとの声がある一方で、人口減少による担い手不足や、伝統をそのまま引き継ぐのではなく、時代にあわせて変化させていくべきとの意見がありました。

#### <理由> ○共感した ●共感できない

- 地域コミュニティを強化し、過疎化を食い止めるために重要
- 地域に伝わる祭りなど伝統を生かす取組を進めることで、都市流出していた人々も、より兵庫の地に愛着を持って暮らすことにつながる
- 地域コミュニティを大切にする気持ちが生まれ、安心して生活できる住みやすい地域になる
- 海外で活躍するためには、日本人（兵庫県民）であることへの誇りを強く持つ必要がある。
- 共同体維持のために行われた各種行事が減少し、緩いつながりが主流になる
- ほとんどの伝統文化、芸能は、社会にあった形に姿を変えながら、根底には尊敬の心を持ちながら受け継いでいくことが必要
- 様々な文化が流入することで、長い歴史を通してはぐくまれた文化がそのまま受け継がれて

いくことは難しい

- 地域には就職等を機に初めてそのまちにやっけてきて、住み続ける大人たちも多くいる
- "よそ者"扱いせず寛容に受け入れていく姿勢が必要。受けだけでなく、こちらから獲得するという意味で、祭りの"出張"も良いのではないか
- 少子高齢化や過疎化に歯止めがかからず、地域の行事や文化の継承し、愛着と誇りを持てる地域を維持していくことは困難になる
- 田舎において、独自のルールの強要と、守れなければ疎外されるようなことなく、地域文化を残す手段があればより良い
- 受け継がれてきた伝統文化について、継承者が不足する事態が多数発生。このままでは30年後までに先人たちの営為は途切れてしまう

### 34 未知の領域への挑戦 11票（○共感した 3票、●共感できない 8票）

スーパーコンピュータ「富岳」やSPring-8など、兵庫県に集積する最先端の科学技術基盤への期待がある一方、コスト面も含め、未知の領域に挑戦する前に、目の前の課題への対応を優先すべきとの意見がありました。

<理由> ○共感した ●共感できない

- 世界有数の科学技術基盤と、人の交流が盛んな特徴を活かして大学、企業、研究機関が連携し、人類が抱える課題の解決が期待できる
- 民間企業が宇宙を目指す時代に、富岳利用の敷居を下げ、周辺を特区にして、円滑な技術開発を進めることで、世界有数の研究都市にする
- 高校生の時にSPring-8の機械や専門的知識を説明してもらい研究職に興味を持った。世界トップレベルの先端科学を兵庫から発信すべき
- 開発に伴う海洋汚染や大気汚染を懸念。3Dプリンターによる食料を食べ、仮想空間でアバターとして存在する無機的な姿に共感できない
- まず新しいことをするより、今ある既存のものを改善・守っていく必要がある
- 費用が多くかかり得られる成果は小さいイメージがある
- 既存の技術や目の前の社会課題の解決を横目にさらに未知への挑戦を進めることは危険
- まずは身近な地域問題や環境問題に目を向け、解決方法を探していくことが重要
- 国・地域・企業間での競争率が非常に高く、多額の投資に見合った成果が得られない
- 新たな活動領域を求めるよりも人口の偏在化や過疎化が進む地方の活性化を優先すべき
- 大規模な開発に伴う財政的なリスクや、地球外の空間の使用にかかる紛争リスクは大きい

37 危機に強い地域 11票（○共感した 9票、●共感できない 2票）

阪神・淡路大震災を経験した知見を活かし、防災先進県として、先頭を走って欲しいとの意見がありました。具体的には、被災者が我慢することが当たり前でない避難所運営や、コミュニティを大切にした仮設住宅など先進的な取組への期待の声がありました。

一方、情報が乱立することを懸念する意見もありました。

<理由> ○共感した ●共感できない

- 南海トラフ地震等の大規模自然災害が起きうる状況の中、安心安全に生活していくために必須であり、世界をリードできる立場にもなる
- 防災庁の拠点としての兵庫県は世界の防災対策を先導し貢献していくため
- 人々が安心して暮らし、生活していくためには、強いまちづくりを行うことが最も重要
- わが県の強みである防災をより突き詰めていくことが、他の自治体との差別化を図れる
- 南海トラフ地震に対し、これまで知見を活かし、被害を最低限に押さえ、生活や産業、コミュニティの復旧が素早く行えることを期待する。世界を代表する防災都市となっていてほしい
- 災害発生を前提とした社会構造とすることで、被害を抑えて復旧を早める効果が期待できる
- 被災者が我慢することが当たり前でない避難所運営や、コミュニティを大切にした仮設住宅、災害復興住宅の取組等、全国の見本となるような先進的取組を積極的に実施したい
- コロナワクチンの予約で混乱が生じている。住民もインターネットや進化する技術を使いこなせるような周知をしていく必要がある
- 阪神・淡路大震災を経験した兵庫県であれば、国内外問わず、防災・減災対策をリードできる

- 情報の多さから住民一人一人の判断が遅れてしまったり、自治体側に必要ない情報まで手に入れ、災害業務の肥大化が懸念される
- 人口を分散するには、インフラの整備及び企業の誘致、医療機関の新設等を行う必要がある

### 38 安全を支える強靱な基盤 11票（○共感した 10票、●共感できない 1票）

自然が豊かであるが故に、防災対策は不可欠という意見がありました。一方、地域で支えるインフラについては、コミュニティが希薄化する中では困難との意見がありました。

#### <理由> ○共感した ●共感できない

- インフラの取捨選択と保全費の削減、それに伴う居住地域の誘導は財政への影響が大きい
- 年々脅威の増す災害から安心安全を支える強靱化施策は外すことができない
- ライフラインや道路ネットワークの整備が重要視され、技術革新によるインフラの長寿命化も期待されており、今後の暮らしに欠かせない
- 災害を見据えた計画や、必要なインフラを新たにつくる時代から新技術の活用や住人参画により長く使い続ける時代になっている
- 若年層の参加率を上げるため、企業等を通じて地域防災活動への参加を助長する動きが必要
- 豊富な自然を有している反面、津波や土砂災害などの危険性があり、多様な防災対策が必要
- 新しい構造物を次々と作るのではなく、構造物を長く使い続けることが大切である
- インフラを新設する時代から、長期にわたって使用できるように、定期的な点検や、維持・修繕が必要な時代となっている
- いち早く総合治水を施工した兵庫県であるから、今回もいち早く流域治水に転換し、他の都道府県から手本のように動ければ素晴らしい
- 災害に強いという評価があれば、暮らしたいと思う人が増える
- 「地域で支えるインフラ」は、地域のつながりが薄れ、ライフスタイルや家族構成の多様化が進んでいることを考えると、実現は困難

### 6 ものづくり産業の革新 10票（○共感した 5票、●共感できない 5票）

兵庫の強みである、ものづくり産業や、多様な地場産業への期待の声がある一方、人の手でしか生み出せない製品もあるなど、過度なデジタル化の推進を懸念する意見もありました。

#### <理由> ○共感した ●共感できない

- ものづくり産業は兵庫県の強み。ものづくり技術を更に磨くことが、兵庫県の発展につながる
- ものづくり産業が活力を持つことにより地域経済は活性化し、雇用も創出することで少子高齢化・東京一極集中の問題解決にもつながる
- 信頼性の高い公営の企業・技術マッチングシステムができ、自社のみでは想定しづらい組み合わせの連携に貢献できる
- 製造業におけるAIやIoTの活用兵庫県でも進展
- 兵庫県はそれぞれの地域を活かした産業や地

場産業がある。技術と産業を組み合わせることがとても将来を感じる

- 米中貿易摩擦に加え、新型コロナウイルスの影響で、ものづくり産業は大打撃を受けている
- スマート農業には大きな資金が必要。すべての圃場に取り入れても効率化するわけではない

●デジタル化にも限界があり、「対面や会話」で見いだせないものがある

- すべてを最新技術に頼っていくのではなく、必ず人の手でしか生み出せない製品がある
- デジタル技術・ロボット・AIを扱う人材が増加するとは考えにくい

## 16 最期まで安心して暮らせる社会 10票（○共感した 6票、●共感できない 4票）

血縁者や家族には頼り切れず、地域の人々との支え合いが安心感につながるという意見がある一方で、コミュニティが希薄化する中で、見守り合うことは困難でないかとの意見もありました。また、介護する側の立場に立ったシナリオの必要性に対する意見もありました。

### <理由> ○共感した ●共感できない

- 自分自身だけでなく家族にも今自分が何をしたいかという選択肢を拡げることに繋がる
- 近所の人々との交流、支え合いが、心の豊かさの実現や犯罪抑止効果も期待できる
- 安楽死など終末期医療についても、本人の意思が尊重されれば、自分自身の最期の瞬間を安心して迎えられることにつながる
- 誰かを養う責任をその血縁者や家族だけが負うというのは、これからの社会には限界がある
- 本人や家族が安心して生活することができ、孤立などの問題を解決できる
- 住民同士の結びつきが強く、困ったことがあれば、いつでもお互い助け合うことを大切にしており、高齢者を見守る仕組みが自然とあった
- 少子高齢化の進行により、高齢者へのサービスの供給が今より増加することは考えにくい
- 農業の大規模化により、コミュニティが希薄となり、見守り合うという形が取れなくなる
- 「介護者」の存在についての記述がないのが少し残念
- ICT技術と高齢者の隔たりがあるまま、ICTに大きく頼ることになってしまうのではないかと

## 3 あふれる学びの場 9票（○共感した 7票、●共感できない 2票）

学びの必要性は理解できるが、実際に学ぶ時間を確保することの難しさへの意見がありました。また、学ぶ機会の平等の観点からの、学ぶための費用や知るための広報、学べる場の整備などを具体的に考えるべきとの意見がありました。

### <理由> ○共感した ●共感できない

- 図書館など既存の公共施設を可変的な空間へ増改築・用途を追加し、多世代が集う複合施設として再度設置すべき
- 用途が定められていない休暇を誰もがとることができれば、学びに励む人が増えていく
- 狭い専門分野の人間関係で偏った考えを持つ

ことなく、広い分野のスキル習得と人間交流を可能とする時代が来る

- いつでも何歳からでも学ぶことができるが、**現実**は、**仕事や家事に追われて難しい**。サバティカル休暇制度はととてもよい
- 同じ分野に関心をもった人々とコミュニティを形成するなど、人生をより豊かにできる
- AIに仕事を奪われるということでもあるので、

知識やスキルを持った人材が必要

- 学びの機会**は**家庭環境等に大きく左右**される。学びの場の整備と学びのフォローが重要
- 探しやすさ、認知される広報の方法を考えていく必要がある
- その場に足を運べるのは、**経済的、時間的に余裕のある県民に限られる**。学費、図書・機材、教材の提供の仕方など明確でない

## 12 ユニバーサルな地域 9票 (○共感した 5票、●共感できない 4票)

認め合うことが苦手な日本人にはエンパシー教育が重要であるとの意見がありました。ユニバーサル社会の実現に向けて、単なる段差解消などバリアフリー化ではなく、さまざまな立場の人が住みやすい工夫を模索すべきとの意見もありました。

### <理由> ○共感した ●共感できない

- 「**特別**」が「**普通**」になるために、ユニバーサルデザインが進化し、地域に馴染むことは必要
- 経済的な理由で困難**であっても提供を受けられる支援制度もユニバーサル社会実現に必要
- 「**思いやりには強くて、認め合う事が苦手な日本人**」というのが私の考えなので、エンパシー教育を行うことでより良い社会になる
- 心の平和**があればこそ、人は心身ともに健康でいられ、自己実現の可能性も高まる
- エンパシー教育により**外見上では周囲に理解し難い**特性を持つ障害者も生きやすい社会に
- 変えることができそう**
- オンライン教育だけに頼るのは勉強以外の部分での成長が難しいのではないかと
- ただ段差をなくせばいいというわけではなく、**音声案内システムを導入してみるなど、様々な立場の人間が住みやすい工夫を模索すべき**
- 精神疾患になる人を減少させるため、他のシナリオと関連させ、予防の取組を行うべき
- 考え方を学ぶだけではなく、**リアルでの障害がある人となない人の交流などの工夫が必要**

## 20 自分たちでつくる地域 9票 (○共感した 4票、●共感できない 5票)

行政の施策のみでは効果的なまちづくりを行うことは難しく住民の自治が重要との意見がある一方で、住民の入れ替わりが激しくなることで、地域活動が停滞するのではないかと意見がありました。学生を巻き込むことや他地域の人のサポートの必要性もあげられました。

<理由> ○共感した ●共感できない

- まちづくりは現地で生活する住民の方々の自治が重要であり、行政の施策のみでは効果的なまちづくりを行うことは難しい
- 住民から様々なアイデアが出てきて、目標を共有することで自治体との信頼関係も築ける
- 地域の魅力を生み出し、人の往来を増やすことで、その道路周辺から発達し、住むための生活のしやすさが増し、魅力と住みやすさを兼ね備えることができれば人が増えていく
- 積極的に学生を巻き込むことで、若いうちに地元への愛着を育むことができ、将来的にUターンに繋げることができる
- 住民が自分たちの住む地域をよりよくしていると思い行動したことが近隣の地域に悪影響を及ぼす可能性がある。兵庫県が自治体間の架け橋としての役割を持ち、共助の意識を持った住民主導の自治をサポートする必要がある
- 人の流動化により、住民の入れ替わりが激しくなり、住民同士のコミュニケーションが薄れることで地域活動に消極的になる可能性がある
- 人の流動化により、特定の地域における長期間に及ぶ興味の薄い課題に取り組みなくなる。離れていても参加できる環境整備が必要
- 他地域の人のサポートを広く受け入れ、より多くの選択肢から地域を守っていく必要がある
- 地方には、大学や働き場所がない。Uターンしたくてもできない人を減らすために、ふるさと教育より雇用の創出に力を入れるべき

30 息づく芸術文化 9票 (○共感した 1票、●共感できない 8票)

子どもたちが身近に芸術や文化に触れる機会が必要であるとの意見がある一方で、芸術文化振興に優先して取り組む必要があるのか疑問との意見がありました。

<理由> ○共感した ●共感できない

- 子ども達は、周囲の環境によって、芸術や文化に触れる機会に大きな差が生じることから、行政が身近になる様に働きかけることは大切
- 都市部に居住する20、30代は子育てや仕事で芸術文化にふれる機会が少ない。身近に芸術文化を感じられるような機会・環境の整備が必要
- アートやデザインに比重を置いた教育は多くの県民に対してではなく、学校で興味関心のある人が選択して学習する教育で十分
- 芸術文化観光専門職大学など、地域の特性としていきたい事業をいかに県民の理解を得て地域に根付かせていくか、議論が必要
- 芸術の町として確立されていない兵庫県で、このシナリオを始めるのはリスクが高い
- 伝統も当然受け継ぎながら継承するべきだと思うが、革新の方が大切
- アートや芸術文化は一部の人のみが楽しむものであり、関心の低い人や、生活の中での芸術文化の優先順位が低い人が多数存在する
- アート市場を拡大することで出てくるメリットがあまりはっきりとわからない
- 絵画の素晴らしさや現代美術に対するの価値観に追いつけず、わからない

## 17 広がる縁 7票 (○共感した 2票、●共感できない 5票)

心のよりどころとなる場が大切であるとの意見がある一方で、バーチャル空間でのつながりの危険性や、他者を排除するサードプレイスの形成への懸念などの意見がありました。

### <理由> ○共感した ●共感できない

- 自分に合ったライフスタイルが選択でき、心や時間にゆとりを持つ人が増えれば、バーチャルでのコミュニティや交流が増える
- 様々なコミュニティに所属する中で、心のよりどころとなる場を多く持つことの大切さは実感していた
- サードプレイスにおける、初期メンバーのコミュニティ形成が、他者を排除することにもなりかねない。若者向けに、県民同士でつながれるバーチャル空間を提供し、SNSなどに抵抗がある年配の方にはリアルつながれる空間を提供
- 「つながり」は沢山あればいいというものではなく、居心地のよい「つながり」を持つことが必要。SNSでの「つながり」には注意が必要
- 遠く離れた親、親戚、友人に直接会って面と向かって話をする事ができないのは、非常に残念。楽しさや嬉しさが半減しているように感じる
- シナリオの内容は今現在の状況でも十分満たしているのではないか
- バーチャルでは、違法なサイトにアクセスするように誘導したり、実際に会ったときに男女間で問題が起きる可能性が高い

## 35 地域のエネルギー自立 7票 (○共感した 1票、●共感できない 6票)

水素への期待がある一方で、用途が限定的で、コスト面で利用が広がらないとの意見がありました。また、地域での自立により、非常時に他の地域から支援を受けられなくなることを懸念する意見もありました。

### <理由> ○共感した ●共感できない

- 兵庫県は国内での水素社会推進の先駆者であり、自然エネルギーを活用した発電方式の拡大によりエネルギーの地産地消が可能になる
- エネルギー事業を県内で一括して行うことは効率的であるが、適材適所でエネルギーを生み出し、供給することも必要
- 地域で独立したエネルギーを供給していると、被災した場合、他自治体からエネルギー支援を受けることができない、又は遅れる
- 技術的にもインフラ的にも30年後にここまで水素が活用されているかどうかは疑問
- 水素の用途は限定的
- 水素社会が達成されることは理想的であるが、費用を考えると相当の期間が必要。ただ、完全なエネルギー生産の自立が難しくても、できる限り取り込んでいくことは大切
- 初期投資に膨大な費用がかかり、クリーンエネルギーを使用する市民や企業側の体制整備にも多大な費用がかかる

## 19 進む地域経済循環 5票 (○共感した 3票、●共感できない 2票)

シェアリングエコノミーや分散型の発電に賛同する意見がある一方で、地域通貨の発行には手間やコストがかかる、地域の課題解決には時間がかかるといった意見がありました。

### <理由> ○共感した ●共感できない

- 所有から非所有へ、循環のサイクルを回し、地域性といった付加価値を付け加えれば、地域社会における経済の活性化に繋がる
- 発電機能を分散することで、災害がおきても、他地域からのサポートにより大きな被害が出ずに済む
- 限られたスペースや予算、労働力で多くの人に利益を配分するために、地域限定通貨やシェアリングエコノミーをより促進していく必要がある
- 地域経済循環のためには、既に存在する地域限定の商品券で十分。通貨を作る手間やコストが莫大
- 地域の課題は短時間で解決することは難しいうえに、認知度も現時点で高いとは言えない

## 9 世界に貢献する兵庫人 4票 (○共感した 1票、●共感できない 3票)

世界を知るさまざまな体験や経験を学生の時からさせるべきとの意見がある一方で、世界に目を向ける前に、目の前の課題に向き合うべきとの意見がありました。

### <理由> ○共感した ●共感できない

- 語学だけでなく様々な体験や経験を学生の時からさせるべき
- まずは国内の文化の継承と発展に力を入れるべき。小さな世界都市、豊岡市のように日本国内で才能を発揮する場所づくりが必要
- 世界を見据える前にまだまだ兵庫県も課題があると思うので、まずは自分の地域の課題解決を一番に考えるべきではないか
- 新型コロナウイルス流行が拡大している現段階では、あまり共感できない

## 28 引き継がれる風景 4票 (○共感した 3票、●共感できない 1票)

風景は地元の誇りにもつながるので守り残したいとの意見がある一方で、まち並みは時代に合わせて変わっていくものだとの意見がありました。

### <理由> ○共感した ●共感できない

- 効率化やミニマリストなど無駄が排除されていくのが現在のトレンドではあるが、風景や景観のように今の流れとは逆行するものを大切にしたい
- 風景はそこに住む人の心を穏やかにし、地元の誇りとなる

○自分の地域を再確認し、より兵庫のまちが好きになるためにも、今ある風景を守り残すことは、とても重要

●昔のまち並みは昔の暮らしや文化に合わせて作られていたもので、現代を生きる人々の生活には合わない。伝統的な風景が広がっていくとは考えづらい

## 29 甦る豊かな自然 4票 (○共感した 3票、●共感できない 1票)

自然は人が生きていく上での基盤であり、守っていくべきとの意見がある一方で、コスト面を懸念する意見がありました。

<理由> ○共感した ●共感できない

- どれだけ社会が情報化しても、人類が自然環境と切り離して生きることはできない
- 人が生き続けることや、様々な地域文化が発展し続けることの基盤には、豊かな自然が必要
- 海やその生態系を守り、豊かな自然をこの先何十

年先も見て、感じたいと強く思っている

●自然を復活させるという内容は素晴らしいものだと思うが実際そこに費用をかけることを優先させる必要はない

## 27 ともに創るまち 3票 (○共感した 2票、●共感できない 1票)

住んでいるまちを自分たち自身で作りあげることで地域に愛着を持てる、地域外の人も含め、多様な意見を交わしながらまちづくりを進めていく必要があるとの意見がありました。

<理由> ○共感した ●共感できない

- 日々暮らしていく生活空間や街、地域を住民主導でより豊かにしていくことで、地域に愛着や誇りを持つことにつながる
- 住民のアイデアをまちづくりに反映させるための場がもっと充実し、まちは自分たちで自由に作り替えられるものなのだとか多くの人知れば、創造

の好循環に満ちた、飽きのこないまちが形成され、人々の愛着と元気が満ちた街になる

●活動に参加する人も、しない人も納得できるように地域改善を行うには、地域の人だけでなく第三者が、人間関係も含めた地域の環境改善のために意見を出し、妥協点を探ることが必要ではないか

## 31 広がる生活文化産業 0票 (○共感した 0票、●共感できない 0票)

該当なし。

### Ⅲ MY未来シナリオ

#### 1 個性の追求（63 シナリオ）

仕事だけではなく「趣味を謳歌」「ゆとり」「こじんまり」など多様な暮らし方が選べる未来を望む人が多かったです。また、コロナ禍もあり、医療技術の進化や医療提供体制の充実など安心して医療を受けられる社会の実現への関心も高かったです。

##### <自分らしさを追求できる社会 関連>

- 1 夢のある暮らし
- 2 普通の人生
- 3 今と変わらず仕事をしている
- 4 自由気ままな生活
- 5 誰もが暮らしやすい兵庫
- 6 平凡な未来
- 7 普通の社会
- 8 趣味を謳歌できる兵庫
- 9 一人時間の拡大
- 10 ゆとりのある生活
- 11 充実した生活
- 12 多様な暮らしを選べる社会
- 13 充実した暮らし
- 14 若者が集まり住む豊かな生活環境
- 15 いつまでも人が中心の社会を
- 16 パーソナルなファッションを楽しむ
- 17 希望するライフプランを実現できる地域
- 18 自分らしさを追求できる社会
- 19 誰もが自分のしたいことをできる社会
- 20 個性が尊重される未来
- 21 多様な選択肢の組み合わせがある社会
- 22 AIとの共存
- 23 いつでもどこでもつながれる社会
- 24 便利すぎないものもある世の中
- 25 効率化の中の非効率

##### <活力を支える健康 関連>

- 26 医療技術の進化
- 27 すべての人に安心な医療を
- 28 自らの健康・医療情報を活用できる社会
- 29 潤滑な医療提供体制

- 30 医療職の充実と満足
- 31 進む医療技術
- 32 病院・施設の選択肢の見える化
- 33 医療技術の革新
- 34 健康でつながる社会
- 35 データ活用による自己管理の進展
- 36 「人類筋肉補完計画」
- 37 便利な世の中でも自ら考え行動する
- 38 余裕のある医療提供
- 39 充実した医療福祉体制
- 40 感染症対策の強化
- 41 医療の発展と企業誘致による成長
- 42 健康寿命の延伸

##### <あふれる学びの場 関連>

- 43 いつでも誰でもどこでも学べる社会
- 44 チャレンジし続けることのできる社会
- 45 リスタートを受け入れられる社会
- 46 人生を通じた学び

##### <磨かれる五国の個性>

- 47 兵庫の魅力を味わおう
- 48 安心して住み続けられる地域
- 49 自分のまちが一番だといえる未来
- 50 兵庫五国の温泉天国
- 51 淡路島全体の活性化
- 52 新五国
- 53 魅力のある五国の推進

##### <ものづくり産業の革新 関連>

- 54 AI導入の推進
- 55 県内産業構造の変革

##### <進化する御食国 関連>

- 56 兵庫県の食と農業を守り広げる

57 Made in Hyogoの食材は安くて高品質！  
58 まるごとテーマパーク淡路島  
59 ひょうごから全国へおいしさを届ける  
60 農林水産業への参入拡大

61 食品廃棄ゼロ社会  
62 日常にあふれる農業  
63 世界に誇る日本の兵庫

## <自分らしさを追求できる社会 関連>

### 1 夢のある暮らし

家族ができて子供たちは成人。両親の最期を看取り、夫婦だけの生活が再スタートする。そのタイミングで海外移住したい。

現代日本では多過ぎる情報に振り回されてしまい、自分自身の軸を見失いがちだ。

リモートワークで仕事は継続しながらも生活の拠点は海外に移す。ノルウェーやフィンランドは時間の流れがゆっくりで落ち着いており興味がある。しかし、どちらも寒いので暖かい国も捨てがたい。

ある意味この移住も挑戦だと思う。環境を変えるという意味で挑戦し、何歳になっても現状に満足しない人でありたい。

### 2 普通の人生

このまま県職員として働き続け、大きな事故に遭うこともなく普通の人生を送ってみたい。

離れたところに住んでいる友人ともバーチャル空間で会えるようになっていて遠くへの移動も楽になっているので、休日も充実している。親が要介護になっても、介護用ロボットや身体をアシストする技術が普及しているので楽に過ごしてもらえる。

地元の淡路島では農業がますます発展している。スマート農業が発達し、手間のかかる作業は機械が担っている。ベテラン農家のノウハウがAIに蓄積され、若い人でも農業を始めやすくなっている。私は県職員として地元はもちろん県全体の農業の発展に携わってみたい。

### 3 今と変わらず仕事をしている

2050年は子供が新社会人として働いている頃だ。私は今と変わらず職業訓練指導員として兵庫県の求職者支援に携わっていたら幸せだ。

現在抱えている問題が解決の方向に向かっていると思えばよいと思うが、正直厳しいだろう。私が生まれてから景気はずっと停滞している。県全体として大きな災害もなく現状より少しばかり景気が回復していればと思うし、子育て支援などの行政サービスが充実した環境になっていれば良いと思う。

### 4 自由気ままな生活

一人ではもったいないくらいのマンションに住み、料理もできるようになり、部屋はいつも綺麗で、できることなら猫と暮らしたい。

その歳になっても自分のやりたいことをすぐに行動に移す、そんな生活をしていきたい。旅行に行ったり、好きなアーティストのライブに行ったり、自由に気ままな生活を送ってみたい。

### 5 誰もが暮らしやすい兵庫

忙しいながらも家族と幸せな日々を過ごしていれば良い。仕事では部下をまとめ、より一層責任感を持って職務を遂行していきたい。

子供はもう独り立ちしているだろう。妻と穏やかに生活し、休日はドライブをして兵庫のいろいろな場所を巡ったり、訪れた先でその土地の名産物やおいしい料理を堪能したい。

住んでいる地域には街と緑が共存し、子供からお年寄りまで暮らしやすい環境が整備されてほしい。その土地の歴史や文化、風土が地域住民主導で保存・活用されているようなまちづくりがなされていることを願う。

## 6 平凡な未来

元気に働き、休みには妻と旅行に出かける。子どもが孫を連れてお盆と正月に帰ってくる。そんな平凡な未来であってほしい。

## 7 普通の社会

未来においてこうありたい、こうあってほしいと願うものは特にない。今で十分だ。頑張らなくて良い。当たり前にある環境や人たちを大切に、皆が元気に生きていける。そういう普通の社会が未来にもあれば良いと思う。

## 8 趣味を謳歌できる兵庫

兵庫県はアウトドア好きにとってこの上ない地域だ。釣り、ゴルフ、キャンプ、シーズンスポーツなどを趣味に持つ人々が快適に暮らせ、同じ趣味を持つ人とも交流できれば、さらに兵庫県に住みたい人が増えると考えた。

これらの趣味には車が必要になるが、そのための道路整備、EV車購買奨励のため、購入金支援、ステーションの充実化なども組み込む。

同じ趣味を持つ人同士の交流の場として、キャンプ場を整備し、マッチングの場とする。作ったキャンプ飯を共有したり、そもそも同じ趣味を持つもの同士なので、会話は弾む。

こういった娯楽の面でも兵庫県は他都道府県より先を進んでほしい。

## 9 一人時間の拡大

テレワークや自粛により、自宅で家族と過ごす時間やバーチャルで人とつながる時間が増加した。自宅での一人時間が増加した人もいれば、減少した人もいるのではないかな。

自宅に代わる一人時間を楽しめる場所として、都会別荘（マンスリーマンションのシェア）やキャンプ場、バーベキュー場等の貸し切れる新たな場所が拡大してほしい。

一人限定ではなく整備することで家族や仲間が集まる場所にできる。多様な地域特性がある兵庫県だからこそ地域に沿った新たな場所

ができるのではないかな。

## 10 ゆとりのある生活

掃除や料理など様々な日常の作業をロボットやAIが行い、人々が生活にゆとりを持つ。

共働きが増え、家事時間が負担となるので、家事ロボットなどを活用する。日々の献立を考えるAIシステムにより健康的な食生活の維持など健康管理を行うことができる。

時間にゆとりができるので、個々が好きなことにかかる時間が増え、心も健康的になることができる。

## 11 充実した生活

私は、程々に生活し、死ぬまで趣味を愉しみ、種々の経験を送れる生活を理想としている。

生活スタイルは家庭の形態によるので流動的だが、未永く一緒にいたいと思えるパートナーと出会えたら、相談して、決めていく。

サービスが充実した都市部、安心して暮らせる郊外、どちらとも享受できるような場所に住みたい。様々なサービスのうちには医療・交通などの生命維持に重要なものもあれば、文化的な充実度合いのことも想定している。

仕事に生きるというよりも、仕事以外のことでも生活を充実させ、ともに暮らすパートナーたちと交流しながら生きていくことを望む。家族とご飯を食べ、風呂に入り、布団で寝られることができれば私はそれで幸せだ。

一方で、60歳以降になっても、経済力を維持するため、投資や個人年金を活用を考えたい。

健康的で文化的な生活を送れなくなれば、日々苦痛を感じてしまう。死に際は自分で判断し、過度に苦しむことなく最期を遂げたい。

## 12 多様な暮らしを選べる社会

自分らしく生きるためテクノロジーを駆使して自由時間を増やし、仕事に意欲的に取り組むことができる社会を作っていく。

事務作業や単純作業はAIに取って代わられ、

職をなくす人も出てくるだろう。自由時間が増えても、趣味がなく、無駄な時間を過ごすことになる人もいるだろう。そうした人々が自分に合った仕事や時間の過ごし方を見つけられるようにするため、様々な仕事や体験を気軽にできる社会にしていく。

例えば2050年にはテクノロジーが進化し、農作業が気軽にできるようになっている。農業に限らず、従事している人口が減少しつつある職業も同様のことが考えられる。

いろんな体験を通じて、興味のある仕事や趣味を見つけることができ、一人ひとりが充実して生きていける社会にしていく。

### 13 充実した暮らし

ワークライフバランスが実現し、誰もが充実した生活を送っている。

仕事が忙しいときにも、リフレッシュする時間を設けることができれば、仕事とのメリハリがつき、集中し効率を上げることができる。労働時間を削減する取組を行うことも効果的だ。そうした取組をすることで、それぞれの趣味や子育てなど自分の時間を作ることができる。

ワークライフバランスの実現には、企業や個人がそれぞれ改善を行うことが大切だ。

### 14 若者が集まり住む豊かな生活環境

#### <豊かな生活の実現>

新鮮な農産物が入手しやすい環境が整い、地域の農家と交流する機会があり、地元食材に興味を持つ人が増えている。

また、ワークライフバランスが確立し、個人の時間を十分に得ることができる環境が整う。自由な時間が確保できれば、趣味や願望など新しいことに挑戦する機会につながる。

#### <若者の県内定住環境整備>

県内学生に対して、トライやるウィークやインターンシップなど県内企業の職場体験や学習機会を増やすことで、県内企業への興味や関心が芽生え、就職意欲にもつながる。

県内での就職希望者に対しては、就職活動やインターンシップ挑戦に対して、金銭面や情報面でのサポートを強化する。

### 15 いつまでも人が中心の社会を

2050年も人が主体であり続ける社会を望む。

近年テクノロジーで人々の生活は大きく変化したが、一抹の不安もある。AIやロボットは知能で人を上回る。人が生み出した技術をうまくコントロールしないといけない。

あくまで生活の主体は人だ。生活を豊かにするために、技術の手を借りることは大いに賛成だが、技術に頼りすぎ、人が生活の主体ではなくなることは防がないといけない。人口が減少を続けるこれからも人を中心に社会は回り続けるということを忘れてはいけない。

### 16 パーソナルなファッションを楽しむ

スマートフォンでスキャンし、3Dプリンタで服を作れるようになれば、どんな人でもサイズぴったりの服が手に入るようになる。

好みにデザインすることができるようになり、性別や年齢にとらわれず、ファッションを楽しむ価値観が浸透してほしい。

これまで既製品から探すのに苦労していた人たちは便利になるし、業者にとっても在庫を抱えずに済み、環境にも優しい。手足の変形や、肢体不自由の方にとっても、生活しやすく、ファッションを楽しむことが可能になる。

### 17 希望するライフプランを実現できる地域

AIを用いたライフマッチングアプリが開発され、生活データから、希望する生き方を実現する地域での生活プランを提案する。

これにより、理想と現実のニアミスを軽減し、ありたい姿を実現できる地域を選べるようになる。また、子育て世代の受け入れが進み、関係人口の増加にもつながる。

## 18 自分らしさを追求できる社会

コロナ禍で人々の幸福感は稼ぐことよりも各人が大切と考える価値を実現することへ移り始めていると感じる。2050年は各人が大切と思う価値を追求できる社会になってほしい。

ICT化が進むなかで自然と触れ合う機会が減ってきた。自然豊かな兵庫で自然の大切さを感じながら生活していきたい。

## 19 誰もが自分のしたいことをできる社会

自分のしたいことを自分の好きなタイミングでいつでも始める環境が整っている社会。自分がやりがいを持って働ける職につけることや、長時間労働をなくすことで趣味や新しいことにどんどんチャレンジできる社会。

## 20 個性が尊重される未来

マイノリティと呼ばれる人々の考え方が当たり前になってほしい。

そのためには、様々な人と出会い、意見を交わせる環境が必要になってくる。

例えば、学校や家でオンラインの合同授業やレクリエーションが可能になれば、国境を越えたつながりを簡単に作れるようになる。

今よりもたくさんの人と出会う機会が増え、自分や他人の個性を知ることによって、人々の持つ価値観も変わる。一人一人の個性や価値観が尊重される未来になってほしい。

## 21 多様な選択肢の組み合わせがある社会

「自分らしさ」と「つながり」を両立させたい。自分を出しても他者に迷惑が掛からず、他者を尊重しても自分が出せるように、多様な選択肢の組み合わせがある社会であってほしい。

例えば、医療従事者は、在宅勤務が難しく、職場に近いところに住むことが望ましいという現状がある。医療に携わりたいが、在宅で仕事をしたいという人にとって、そういう働き方ができる選択肢があれば、自分らしい生活と働き方ができるようになり、「ストレス社会」とい

う言葉もなくなるのではないか。

## 22 AIとの共存

反復学習をするAIに多くの仕事を任せるようになっていく。人間がやるよりもAIがやることでリスクは減り、短時間で正確な仕事ができるようになる。このようになると、県でも職員の必要性がなくなっていく可能性がある。

AIと職員が役割分担をし、職員のワークライフバランスを考えた勤務ができればよい。

## 23 いつでもどこでもつながれる社会

テクノロジーが進化し、テレワークはよりスムーズに、自動運転は人やモノの移動をより活発にする。そして時間を生み出すことができる。自分のために使える時間が増え、自身の生活を充実させられ、自分らしさを発揮しやすくなる。

また、場所を選ばず仕事や勉強ができるようになれば、今過密状態にある都市部の人々が田舎に流れてくる可能性がある。そうなれば、田舎の過疎化や少子高齢化にブレーキをかけられ、人口はバランスよく遍在するだろう。

## 24 便利すぎないものもある世の中

テクノロジーの進化は急速で、新たなものが次々と生み出されるため、ついていくことに疲れている人は多い。便利すぎて便利でないという矛盾を感じている人も、少なからずいる。逆に退化することによって、便利になるという視点を持つことも必要である。

新たな技術が誕生し続ける限り、それを享受する人とそうでない人が生まれていく。自身がそうでない立場に置かれたときに便利すぎないものもある世の中であってほしい。

## 25 効率化の中の非効率

現在社会では効率化を求める傾向にあるが、効率を求めるばかりでなく時に非効率だが行いたいこともある。

人との接し方には、今やどこでもマニュアルが

あり、基本的にどの人でも同じ対応をする。だが、マニュアル通りに淡々とやり過ぎれば効率はいいかもしれないが、そこに相手方の納得はあるのか。このようなことがいろいろな場面で出てくる可能性がある。時には時間を割いて非効率なことも展開することが大切と考える。

## <活力を支える健康 関連>

### 26 医療技術の進化

医療技術が進化し、病気やケガによる死者数が減少。健康寿命が更に伸び、介護負担が大幅に減少。最期まで自分らしく生きることができる社会になる。医療現場では機械化が進み、専門職の負担が軽減。体のケアだけでなく心のケアまで余裕を持って取り組むことができる。

### 27 すべての人に安心な医療を

まず、すべての地域で、中学生までの医療費無料を実現する。

次に、病院の混雑を緩和するため、遠隔医療を普及させる。その一方で、対面でじっくり話を聞く医療機関を増やすことも必要だ。

また、医者数を増やすためには、担い手となる人材が必要だ。優秀な人材を集められるよう大学医学部の学費を下げる必要がある。

### 28 自らの健康・医療情報を活用できる社会

各医療機関の処方や検査データなどがオンライン上で集約されるようになり、自らの医療情報を閲覧できる仕組みが整っている。

健康アラート（異常値が出たら医療機関の受診促進）や、オンライン診療、通院時の待ち時間解消などのサービスにも利用されている。

今後は健康であることが価値になる。「健康であれば保険料が安くなる」など、健康・医療情報を利用したサービスが普及し、医療費削減にもつながるエコシステムが形成される。

健康社会を築くシナリオが、活力ある兵庫県を作ることの土台になると思う。

### 29 潤滑な医療提供体制

地域医療連携ネットワークのシステムが普及し、迅速な患者情報の提供など、救急医療現場で大いに活用されている。

地域医療の問題解決も進む。このネットワークにより、コメディカルが1人1人の患者により質の高い医療を提供できるようになる。コメディカルの患者理解が深くなれば、医師などコメディカルスタッフの負担緩和にもつながる。

医療情報を共有しタイムラグの少ない潤滑な医療を提供し、地域完結型医療を実現するためにも上記設備の導入・普及を実現したい。

### 30 医療職の充実と満足

病院に勤務する看護師や介護士が自由に副業を行えるようになっている。そうすれば、様々なことで社会と関わっていけるようになるし、経済面の不安も減るのではないかな。

医療職不足の解消にもつながり、看護・介護の質も向上し、利用者により満足してもらえるサービス提供につながると思う（働いている際、マンパワー不足により行いたいことを十分に行うことができず、最低限のサービスの提供しか行えなかったことがあった。）。

### 31 進む医療技術

癌などの病気や感染症、けがに対して、薬のカプセルを服用することで治してしまう。

### 32 病院・施設の選択肢の見える化

急な病気の時に何科に受診すればよいのか、どこの病院にどんな先生がいるのかなど、安心して医療を受けるにはどうしたらよいのか迷った時にネットワーク（AI等）を利用して自分（家族）と病院を簡単にマッチングし、いくつかの選択肢の中から、安心して選択できる仕組みができあがっている。

また、家族が介護施設に入所する時に、どの施設がよいのかなど、分かりづらく迷うことも多くある。そんな時にネットワーク（AI等）を

利用して施設をマッチングしてくれる仕組みがあると安心できる。

### 33 医療技術の革新

医療提供体制の一層の充実が実現している。

一つ目は、ロボットの導入。人手不足や対人接触リスクを解決する一つの手段であり、ロボットの発展は医療の革新につながる。

二つ目は、医療現場の拡大。将来可能性のある事態に備えて、医療現場（病院）を拡大させる、または非常用として扱える場所を作っておくなど急な災害への対策を整えておくことが重要だ。

以上のようなシナリオは、コロナ禍を経験した私たちの「次代への責任」であるとも思う。

### 34 健康でつながる社会

生活必需品にAIが搭載され、行動パターンや日々の生活から採取したデータを基に病気や健康状態を予測し、本人・家族・医療管理者へ報せる。病気になる前の予防や、家族・地域・医療による見守りの仕組みができていく。

### 35 データ活用による自己管理の進展

#### <個人の健康を支える>

過去の治療歴、服用中の薬、体調の経過表など本人の健康状態を知るために必要なデータを常時関係職種が共有できる仕組みがある。

最期まで自宅で過ごすことが当たり前になり、急変時は自動で主治医や救急に情報が行き、迅速に対応できる仕組みがある。

慢性疾患で食事・運動管理を重視しなければならない人には、具体的な改善点や小さな目標設定を一緒に考え、病気と生活の両立を支える。

#### <住民の声に対してすぐに対応する地域>

SNS等を活用し、住民の要望で多いものに対しては改善策をすぐに考え、実践へと移せる仕組みがある。実践後、データを分析し何が課題で、どんな成果があったのかを情報共有でき、更なる改善に向けて多方面から意見を集め、今

後に反映させていく仕組みがある。

### 36 「人類筋肉補完計画」

100万年以上の間、人類は遊牧民や狩猟採取民として生活してきた。その時代を人類は、人間本来の体のしなやかさと筋力を最大限に活かして、生き抜いてきた。

2050年は狩猟採取の時代とはかけ離れているが、地球温暖化、気候変動など新たな脅威に立ち向かわなければならぬ。そんな脅威に対して人類は肉体的にも精神的にも強く、しなやかであるべきではないか。

2050年の未来にむけて、いつまでも健康で若々しくいるために全人類が運動習慣や食に対する知識を身につけ、人間本来の身体機能を活かせる社会であればよいと考える。

### 37 便利な世の中でも自ら考え行動する

30年後は今以上に便利になり、ネットやロボットが普及し、人の力は一層求められなくなる。しかし、何でもネットや機械に頼るのではなく、自分の力で考え、行動することが大切だ。

例えば医療の発展により、ほとんどの病気は治るようになっているかもしれないが、毎日の食事や運動に気を遣って、医療に頼らなくても健康に過ごせるようにしたい。

### 38 余裕のある医療提供

これからも平均寿命は伸びていく。喜ばしいことではあるが、医療面から考えると後期高齢者の増加に対応するのは現状のままでは難しい。医療体制をさらに充実させる必要がある。高齢者の方が安心できることはもちろん、後期高齢者の親を持つ人の不安を和らげることにもつながるだろう。

### 39 充実した医療福祉体制

今後も高齢化率が上昇し、医療や介護を多く必要とする人が増えていく。それに伴い、医療費や介護費の増加、医療従事者の不足、生産年齢人口の減少が予測される。

そのような状況の中でも、医療の質を下げず、子供から高齢者まで充実した医療を受けられるようにする。病院や介護事業所等が連携し、対象者が介護サービス・医療サービス両方を適切に受ける、在宅医療を希望している方が医師や看護師など医療従事者による訪問医療を受けるなど、一人ひとりにあった必要な医療福祉サービスが受けられるようになる。

また、兵庫県は広く、各地域が抱えている医療に関する問題が異なる。神戸では病床数の増加が問題視される一方で、但馬では生産年齢人口の減少による人材確保の困難化が問題になっている。各地域の課題を解決し、摂津、播磨、但馬、丹波、淡路それぞれの地域に住んでいる人々が、住み慣れた地域で自分にあった医療福祉サービス等を受けられるようになる。

#### 40 感染症対策の強化

感染症対策を今以上に強化し、感染を食い止める方法が確立されている。特に県民の方々に効率よく情報を届けることができ、県民の方々への対応がスムーズに行えるようになっている。具体的な提案はできないが、これからもっとよく考えていきたい。

#### 41 医療の発展と企業誘致による成長

兵庫県の南部と北部で医療連携を図ることで、災害が起きた際にどちらかが医療体制を整備している状況を作り出せる。大地震発生時に有効な役割を果たし、また他の地域へのロールモデルになると考える。

大小を問わず企業誘致をすることも必要だ。特定の地域に本社機能を移転したら税の優遇措置を図ることで、移転のハードルを下げるができる。税収は、移住者が増えることでバランスを取ることができると思う。

医療の充実と、企業誘致。この2つの柱で成長していくことが、私の考えるシナリオだ。

#### 42 健康寿命の延伸

健康寿命を延ばし、県民一人ひとりが健康で個性を持って活動できる地域社会を作る。

##### 1) 成人期からの健康サポート

企業とのコラボヘルス、市町村・保健所での健康診断・保健指導を行い一人ひとりに合わせた健康作りをサポートする。

##### 2) 健康情報のデータ化の促進

職場健診や患者調査から得られる罹患疾患の種類、市町村・保健所で行う健診等の情報を総合データとしてまとめ兵庫県の各地域における健康課題を究明し、その地域にあった保健指導を計画し実施していく

##### 3) 持続可能な経済活動の維持

県民の健康を守ることで働きたい人が働き続けることのできる地域を実現していくことで兵庫県全体の経済活動の維持を図る。

#### <あふれる学びの場 関連>

#### 43 いつでも誰でもどこでも学べる社会

誰でも自由に視聴・投稿できるサイトがあり、活発に利用されている。無料なので貧富の差が生じず、オンラインなのでそれぞれの生活リズムに合わせて受講できる。不明点を気軽に問い合わせることができ、質疑応答でさらに理解を深められる。このようにして、県全体の教育水準が上昇する。

#### 44 チャレンジし続けることのできる社会

日本社会は変化しつつあり、事実上、新卒のタイミングで人生を決めることを余儀なくされるという状況は変わっていくだろう。

大学や短大での教育も変わり、複数の分野を専攻して幅広い知識を形成することや、卒業後直ちに就職するのではなく様々な経験することに充てるギャップイヤーを経る人が増える。このように社会が変わることで、人々はいつまでもチャレンジすることができ、いくつになっても生き生きとし続けることができるよ

うになると思う。

#### 45 リスタートを受け入れられる社会

人生100年時代が到来し、一つの組織だけでなく複数の組織で働く時代になっていく。

DXが進み、多くの産業でリモートワークがスタンダードになるなど働き方が大きく変わる。それらに対応した職業訓練や新しい仕事への転換のハードルを下げる仕組みなど、リスタートする人を受け入れる社会づくりが進む。

#### 46 人生を通じた学び

すべての人々が職を複数持ち、副業を行って生活するようになっていく。そのために生涯にわたって学習していく社会を作り上げる。

副業により、異なる価値観や考え方を取り込むことも期待でき、産業の高次化も期待できる。

生涯を通じて学べる機会を持つために、専門性を持った熟練者がリタイア後、学校を開くなど、義務教育以外の場での学習の循環を作る。

学びを習慣化していくことで自身の視野を広げる機会を持つことができ、積極的に仕事に取り組んでいけるようになる。

### <磨かれる五国の個性 関連>

#### 47 兵庫の魅力を味わおう

どんな人でも美味しい食事や観光等のリフレッシュが必要だ。県内に観光名所や名産品が数多くある。これらのPRをして、地元住民だけでなく他県の方々にも兵庫県に興味を持ってもらい、移住してもらえればと考える。

#### 48 安心して住み続けられる地域

生命の危機を感じることなく、快適に暮らし続けられる地域であるための要点は2つある。

一点目が、過去の歴史を踏まえたまちづくりである。「兵庫五国」と呼ばれる歴史や、阪神・淡路大震災からの復興の経験が、未来の兵庫県を形作る中で重要だと感じる。

二点目は、最先端技術を取り入れたまちづくりである。スーパーコンピュータ「富岳」を中心とした最先端技術を基に、より安心安全で快適なまちづくりを目指し、日本だけでなく世界をリードできる場所になってほしい。

#### 49 自分のまちが一番だといえる未来

姫路は資源に恵まれ、住みよい街だと思うが、「姫路なんて何も無い（お城しかない）」「いつも神戸ばかり」といった発言をよく聞く。

このような状況から、姫路だけでなく、県内すべてのまちの住民に「ここに住んでいる自分を好きになってもらいたい。そして、他のまちの特性にも目を向けて、認め合う「良い」ライバル関係になり、自分のまちの愛着心をさらに大きくしていくことで、まちづくりに参加する人が増え、まちの文化を引き継いでいく人が増えていく未来が望ましい。

#### 50 兵庫五国の温泉天国

「癒しの国」日本の温泉が世界から注目され、その中でも「兵庫県の温泉が一番だ」と言われている。姫路から城崎温泉へ新幹線が開通、城崎-湯村のバス網も発達し、双方の温泉街が行き来しやすくなっている。各温泉街が観光客で賑わい、Wi-Fi環境をはじめ、外国語案内や宗教の違いへの対応も整っている。

#### 51 淡路島全体の活性化

淡路島と本土を結ぶ交通手段に電車やリニアなど頻繁に行き来が可能な選択肢が増え、より安価に行き来ができるようになる。

島と本土の人の行き来と物流が大幅に増え、島内人口も増加し、地域経済が活発化。新規で様々な店舗が出店し、地域の食材を活かした店舗も増え、地域農業の活性化にもつながる。IT技術の進化により作業負担の軽減や作物の品質向上が進み、農業の活性化に貢献。

県や国が主体となって農業技術の導入を積極的に推進することで、新規参入の敷居も低

くなり、農業経営者の若返りを目指すことができる。淡路島の産業全体が活性化される。

## 52 新五国

但馬は芸術の街、播磨は医療の先端を走る街、丹波は世界に誇る農業の街、淡路は日本のサテライトオフィスの街、摂津は異文化の街として新たな魅力創出につなげる。

但馬、播磨、丹波、淡路、摂津の新たな魅力が生み出され、より一層他県に負けない誇れる「ふるさと」になっていくのではないかな。

## 53 魅力のある五国の推進

五国がそれぞれ個性を持った地域として発展することで、移住者、関係人口が増加し、少子高齢化に歯止めがかかっている。

移住希望者へのサポートを充実させることや暮らしやすい地域の基盤をつくっていくことが重要である。

## <ものづくり産業の革新 関連>

### 54 AI導入の推進

生産効率の向上が見込まれるも、初期費用や維持管理費の面からAIの導入を断念する企業が多い。利用者側も、どの分野にAIを活用できるかわからない。こうした状況のままでは、今後時代の変化に耐えられず、倒産する企業が多く発生すると考える。

県による資金面の補助や新技術提供企業の育成を通じて、新技術を活用した競争市場を生み出すことが必要であると考えます。

### 55 県内産業構造の変革

重厚長大産業ではなく電子部品産業中心の産業構造への転換による持続的成長の実現

#### <二次電池の国内一大生産地帯へ>

- ・駆動用二次電池の市場規模は今後20年弱で約7倍に成長するとされている。
- ・プライムプラネット社の拠点がある北播磨地

域を中心に二次電池の一大製造地帯が形成  
・周辺の中播磨、西播磨、東播磨へ二次電池のユーザーや関連部材の製造メーカーが集結  
⇒内燃機関からモーター駆動への転換に伴い、海外に進出していた県内企業の国内回帰も加速し、県内生産比率が向上

#### <ロジック半導体のR&D拠点>

- ・半導体市場は30年後に現在の2倍となる100兆円産業へ成長すると予測されている。
- ・ポートアイランドが半導体ベンチャーの集積拠点になり、国内装置メーカーとの協業で最先端製造技術の開発競争に参加するまでに
- ・大手自動車、電気メーカー出資で日本版ファウンドリも誕生し、県内に生産拠点が立地

#### <従来産業との調和>

- ・電子部品産業が新たな基幹産業へ
  - ・電気自動車の国内製造比率が内燃機関車以上となり、鉄鋼などの素材需要や国内設備投資の増加により重機、工作機械の需要も伸長
  - ・従来からの重厚長大産業も追い風を受け成長
- ※台湾TSMCが茨城に研究開発拠点を設立するなど既に出遅れているため、官民一体で県内産業の革新を急進的に進める必要がある。

## <進化する御食国 関連>

### 56 兵庫県の食と農業を守り広げる

多様な気候風土、変化に富んだ地形から生まれた兵庫県の食と農業を守っていききたい。

担い手については、職業として農業を選択する若者を増やすのは難しいので、退職後に農業を始める選択肢を積極的に広める。

また現在、山菜の味を知らない人が増えているが、山菜は四季を感じることができる地場の食材で、栄養価も高い。兵庫の豊かな山菜の食文化を残していくため、山菜を使った料理教室、学校での山菜狩り体験、給食での山菜提供など、小さい頃に山菜を知る取組を行っていく。

## 57 Made in Hyogoの食材は安くて高品質！

兵庫県は御食国と呼ばれるほど食材が豊富で、養父市の農業特区や様々なスマート農業の取組などアドバンテージもある。この強みを活かして様々な食材の品質向上をしながら、量産化を推進し、手頃な価格での提供を実現。

食に対する健康志向が高まる中でMade in Hyogoの食材は安いのに最高品質と名を馳せることになり、これに従事する人たちのやりがいにもつながり、地域に活力が生まれる。

## 58 まるごとテーマパーク淡路島

淡路島が自然とアクティビティの両方を味わえるオンリーワンの地域になっている。

北淡路にはショッピング施設やテーマパークが集まり、南淡路は農業生産が盛んで、絶景のドライブコースや自然を満喫できるキャンプ地やアスレチックなどの施設が充実。

淡路島への移住者が増え、人口流出が穏やかになり、地域が活性化。農業従事者の数も増え、更に農業が盛んな地域へと成長している。

## 59 兵庫から全国へおいしさを届ける

兵庫県には、ブランドが確立されたものだけでなく、そうでなくても市場価値のある「おいしい」農林水産物がたくさんある。

そうした県産農林水産物が、高度な流通ネットワークにより全国各地で、鮮度のよい状態で販売や試食が可能となり、最先端のネットワーク回線を利用したオンライン販売やリモートでの料理教室の開催で、その「おいしさ」を全国・世界の多くの人に伝えられるようになる。

未ブランド化の商品も広く認知されるようになり、「おいしさ」を知った消費者サイドからも商品のブランド化を望む声が届くようになる。このような流れの中で、兵庫県で一次産業を就業してみたいと考える人、兵庫県の農林水産物を誇りに思う人がさらに増え、兵庫県が「おいしい」日本の立役者となる。

## 60 農林水産業への参入拡大

地球環境の変化に伴い、畜産物の病気や水産物の漁獲量、漁獲物の変動が起きたとしても、農林水産業を始めようとする人への支援や指導が行き届き、安心して農林水産業を行える環境が整っている。

水産に関しては、漁業者による漁獲の規制以外に、種苗生産や環境保全に対する支援が行われており、資源保護が行える状況にある。

## 61 食品廃棄ゼロ社会

食品廃棄が存在しない社会。賞味・消費期限が近い食品は県内で衛生的に分配される。期限が切れた食品は肥料として再加工され県内の食糧生産に利用されることで、地産地消の一助となり県内での食の循環を促す。

また廃棄がゼロとなることで焼却処理が無くなり、地球環境の保全にもつながっている。

## 62 日常にあふれる農業

- ・道の駅や市役所の駐車場を緑化型にする。雨水貯蓄型緑化コンクリートなど、土地に合わせた緑化を進めていく。
- ・地元組織と市町、県の連携で、中山間地域や山村地区に、お試し農業体験が出来る施設を作り、実際に農業体験をしてもらうことで新しい人が入っていきやすい環境を作る。
- ・森林公園内に農場をつくり、簡単な農業学校を開催。身近に農業に触れ、相談できる場所を作って農業へのハードルを下げる。
- ・小中学校の校舎建替時は、グリーンカーテンの強化、エアコンがなくても風通しの良い構造や、光が十分に入る構造にし、地球温暖化対策と合わせて緑に触れる機会を増やす。

## 63 世界に誇る日本の兵庫

価格競争が進む一方で、品質が良く信頼できるものが重視されるようになり、その中で、兵庫県の農林水産物が一つのステータスになる。世界的に日本の農林水産物の質の高さに注

目が集まる中で、ブランド作りや食の安全性で頭一つ抜けた兵庫県が日本の食づくりをリードする地域として認知され始める。兵庫県が日

本の食の有名な産地として世界の人に知られるようになり、県産品の付加価値が高まる。

## 2 開放性の徹底（43 シナリオ）

偏見のない、風通しの良い、多様な考え方が受容されるといった、「多様性」に関して触れるシナリオが多く見られました。また、AIやロボット、VRなど技術革新による生活の変化にも関心が高く、社会課題をうまく技術で解決する未来を望む人が多かったです。

### <多文化が入り混じる兵庫、世界に貢献する兵庫人 関連>

- 1 低くなる国境
- 2 活発な国際交流社会
- 3 人種を越えた、共生できる社会
- 4 世界に先駆けて課題を解決する社会

### <なくなるジェンダーバイアス 関連>

- 5 マイノリティなき兵庫県へ
- 6 多様性の開花
- 7 多様性を尊重した社会の実現
- 8 固定観念にとらわれない社会

### <活躍するシニア 関連>

- 9 高齢化社会への対応
- 10 いつまでも活躍できる社会
- 11 高齢者が生き生きと活躍できる社会
- 12 エイジレス社会
- 13 定年退職後の高齢者が経営する相談屋
- 14 老後を楽しむ地域
- 15 高齢者も現役の未来

### <ユニバーサルな地域 関連>

- 16 偏見のない社会
- 17 ボーダーレスな世界
- 18 バリアフリーをもっと身近に
- 19 多様性を認め合える社会
- 20 障害に左右されない社会

21 多様な考え方の受容

22 さらにユニバーサル化

23 ストレスのない生き方をサポート

24 自由と平等、夢を叶えられる社会

25 風通しの良いみんなの兵庫

26 ポジティブで明るい社会

27 笑顔の絶えない社会

28 モラルを守り、既存の価値観に縛られない社会

29 思いやりのある兵庫人

### <バーチャルが拓く可能性 関連>

30 技術革新による時間や生活の充実

31 近未来的な社会

32 感情を汲み取るAI技術による生活様式

33 AIとの協働社会

34 すべてがつながる社会

35 情報を選べる社会

36 デジタル技術の真の普及と社会課題解決

37 VRの現実化

38 オンライン県民

39 情報技術を活用した社会

40 ありとあらゆるものがつながるまち

41 その人に合った情報化社会

42 バーチャル世界

43 ロボットの活用

## <多文化が入り混じる兵庫、世界に貢献する兵庫人 関連>

### 1 低くなる国境

世界の一体化が進み、国籍という概念が重要でなくなる。パスポートなしで自由に他国に出入りできるようになる。また、VRや翻訳の技術が発展し、家にいながら好きな国の教育を受けることができる。生活の中でも外国人との関わりが増え、高性能な翻訳機を介し、彼らとスムーズな意見交換ができる。その結果、多様な価値観への理解が広がると共に、アイデアが生まれたり、イノベーションの機運が高まったりする。

過疎地域においては、地域の担い手として外国人が違和感なく受け入れられ、必要とされている。

### 2 活発な国際交流社会

交通機関の発達により、より安価で、より短時間で国外へ行ける環境が整い、国際交流の場が非常に活発な未来になってほしい。

日本は外国にいくハードルが高く、不自由のない社会ができあがっているが、海外に出て新しい体験をすることで自分の価値観が変わり、多くの選択肢が自分の中にできる。そのようなチャンスも多く作れる環境を整えることで、今後様々な人のQOLが上昇していくのではないかな。

### 3 人種を越えた、共生できる社会

出身や人種などに縛られない社会を実現したい。学校教育や啓発運動により価値観の変化を促し、住民の理解を広めたい。標識や看板への外国語の併記をさらに進めることで、日々の生活に支障をきたすことなく安心して日常生活を送れる環境づくりを進める。社会制度の面でも、教育や健康管理だけでなく、働く場所の自由、表現の自由などを積極的に認める制度の構築が必要。

人種に制限されることのない社会を実現することができれば、人口減少による問題の解決につながることや、国際社会に対する貢献により官民に関係なくメリットが生まれる。

## 4 世界に先駆けて課題を解決する社会

兵庫県が世界に先駆けて社会課題を解決する地域としての地位を確立した上で、課題へのアプローチを国内の他の地域、ないし世界に拡散したい。研究機関や民間企業と連携し、すでに存在する人口問題や都市・地方問題、産業の問題を深く分析、仮説を見出し、検証することが重要である。それと同時に、未知の課題に立ち向かう人材を今後育成する必要がある。最終的には、「多くの社会課題を持つものの果敢に現状を打破する力強い県」というブランドを構築できれば、県内外の人にとって兵庫県は魅力的な県になる。

## <なくなるジェンダーバイアス 関連>

### 5 マイノリティなき兵庫県へ

多様な愛や家族の形が当たり前認められる社会になってほしい。多様な愛や家族を支える代表県として兵庫県が日本全国のみならず世界にも発信できるように、法規の整備や職員と県民への理解促進を図る活動を行っていききたい。

2050年までに多様な性や多様な愛の経験者採用を進めていくと幅広い県民に寄り添える対応ができる。

### 6 多様性の開花

社会の発展が進むにつれ、人々はその多様性を認識するようになったと考える。LGBTはその代表であり、今まさに婚姻や生活の場面でその認識を広げようとしている。働き方や教育、精神・身体的な部分でも、今はまだ一律的に扱っているものも今後は細かく個人の特性への対応が行われるようになるべきだと考える。

県職員としても一人の人間としても、様々な人に対する理解を深め、柔軟に寄り添い対応できる人間になりたい。

### 7 多様性を尊重した社会の実現

女性の社会進出、多様な性の認知など日々変化している現代で多様性を認め合い支え合える社

会の実現が理想である。自分らしさをもった生き方を実現するためには、ひとりひとりの理解と協力が必要である。相手の立場にたったの思考や環境整備が必要不可欠となるであろう。自分はどのように暮らしていきたいか、そのためにはどのような行動をとるべきかを自分自身と向き合いながら考えていける環境が、この先の希望あふれる兵庫県につながるのではないか。

## 8 固定観念にとらわれない社会

コロナ禍の中、人々の価値観やライフスタイルは多様化し、個性や多様性が重視される社会になってきた。しかし、固定観念は根強く残り、個性を容易に主張できる環境は整っていない。固定観念に囚われすぎると、社会の変化に柔軟に対応できない。大切なことは、人々が自分らしさを追求し、自己実現を図ることである。固定観念に囚われない生き方を選択する人が増え、個性や多様性が受け入れられる社会を実現したい。

### <活躍するシニア 関連>

## 9 高齢化社会への対応

### <高齢者のデジタルデバインド>

公的な施設や情報網を利用して、多くの方にデジタル社会に対応できる人を増やす必要がある。

### <働き世代の介護問題>

負担を軽減していくためには、それぞれの人に合った制度や補助を充実させる必要がある。

### <情報社会化による現実社会の人との関わりの希薄化・働き世代の心身のケアや介護によるプライベート・人間関係の喪失>

高齢者とその働き世代がともに活用できる複合的なサードプレイスを創る必要がある。

## 10 いつまでも活躍できる社会

人口減少・超高齢化社会による生産人口の減少から社会基盤の脆弱化は避けられず、AIの活用やオンライン化によって少ない人員（労力）でより大きな効果や利益を得ようとする時代へと変

遷していく。これにより限られた稼働年齢層への社会・経済的な負担が蓄積する一方で、これまで日本社会の発展に寄与してきた非稼働年齢層の社会的役割が失われていく。医療技術による健康寿命の維持と、加齢により失われた心身機能を補う科学・工業技術との調和によって、1人でも多くの高齢者等が社会基盤を支え、持続可能な日本社会を実現して欲しい。

## 11 エイジレス社会

年齢にとらわれることのないエイジレスな社会。就労意欲のある高齢者、学習意欲のある高齢者等が現役世代と変わらぬ環境を享受し、障壁なく活躍することのできる社会。

## 12 高齢者が生き生きと活躍できる社会

少子高齢化が進み、高齢者の健康寿命を延ばし、社会参加を継続できる制度の確立が望まれます。先端医療技術分野の強みを生かし予防医療にさらに力を入れ、高齢者が知識や経験を若い世代に伝えながら仕事や活動を続けられる社会を実現できれば兵庫はますます魅力的になると考えます。

## 13 定年退職後の高齢者が経営する相談屋

高齢者の一人暮らしが増えている現状を踏まえて【自分の得意なことを活かして働きたい高齢者がお店を経営する。】人生経験を通じた暮らしの相談に応じることで、地域の【結縁】から生まれる【地縁】家族として、助け合い支え合える地域社会につなげることが出来るようになる。今後家族や地域から孤立して社会的に排除された人が増えることなく、周りには家族のようにサポートしてくれる人がいる社会になる。

## 14 老後を楽しむ地域

老後を楽しむことができる兵庫にしていくというのが私の未来シナリオです。体を動かすことや趣味を持つこと、友人、知人との会話等で生活を楽しむことは体と心どちらも健康にしてくれ

ると思います。地域の人々のつながりをつくる機会や新しい趣味にいつでも出会える環境ができあがり、誰もが老後を楽しむことができるような将来が私の未来シナリオです。

## 15 高齢者も現役の未来

急速に進化するテクノロジーによって人類の可能性は大きく広がり、我々が現在認識している現代の高齢者と、30年後の高齢者への認識は大きく異なっているのではないかと私は想像した。

例えば、ゲノム編集による老化治療や身体強化により、球速160kmのボールを投げる80代の野球選手や、100歳での出産・育児など現代では考えもしなかったことが起こりうるかもしれない。その結果、様々な年齢層の人々がともに活動し、お互いに高め合うことのできる未来の社会になるのではないかと私は想像した。

## <ユニバーサルな地域 関連>

### 16 偏見のない社会

性的少数者や、障がい者、妊婦など、社会で偏見や差別に苦しむ人が、自分らしく、自由に生きられる社会になる。

具体的には、同性カップルの結婚を認めること、障がい者が社会で活躍できる環境を整備すること、マタニティハラスメントを防止することなどが考えられる。偏見を解消するために、学校の授業で積極的に学ぶ機会を与えたり、地域で性的マイノリティへの理解を深めるイベントを開催したりすることで、多くの人たちに認識してもらおう工夫を行う。

障がい者や妊婦に対しても、無関心ではなく、理解しようとする姿勢を持つ人々が増えるよう、多様な生き方を支える制度や環境を整えていく。

### 17 ボーダーレスな世界

現在でも性別、障害、外国人、部落地域に対する根強く差別は残っています。障害の有無や、性別に関わらず、その人1人ひとりに向き合い、そ

の人に合った働き方ができるようにまず「差別」が存在することを認識するところからが始まりだと思います。様々なサポートシステムが充実していく必要があるのは勿論のこと、人々の認識を変えていかないと差別がなくなることはないと思います。

兵庫県が誰もが住みやすい街となることで、未永く定住する人が増えたり、国内外を問わず人が集まり、県内の人口減少、少子高齢化問題の解決につながっていく可能性があると思います。

## 18 バリアフリーをもっと身近に

バリアフリーを当たり前と思える（悪目立ちのしない）空間作りを目指す。

物理的なバリアフリー（段差のない空間、手すり）だけでなく、コミュニケーションのバリアフリー（手話、筆談などの会話）を広げる。（筆談用ボードの設置・聞かなくても見て分かるような表示など）

## 19 多様性を認め合える社会

近年、民族問題やジェンダー問題、趣味嗜好の多様性、一人ひとりが主張できる社会になってきた。人は自分と違ったり、少数派に対して、違和感を覚えたり、排除しようとする傾向があると思う。そこで、少数派を排除するのではなく、認め合うことで全ての人々が肯定され、豊かな暮らしができるようになるのではないかと考えた。そのためには教育や、様々なネットワークを通して多くのことを学ぶ場を設け、理解する必要があると思った。

## 20 障害に左右されない社会

### <障害者が不自由なく過ごせる環境の整備>

どのような場所・場面であっても障害を持っている人が不自由を感じず、健常者と変わらない生活を送れる環境が整っている。障害者が、障害を持っていることを理由にできることが狭まることのない環境が整っている。

## <障害者についての理解>

義務教育の過程で障害について学ぶ時間が今以上に多く取られており、誰もが障害についての理解を深めている。また、誰もが障害を持っている人に対してどのように対応し、どのように接すべきかを理解しており、お互いに助け合うことができている。

### 21 多様な考え方の受容

これから生きる人々には、多様性を受入れる社会に適應することが求められている。国籍、性別、年齢といった具体的な事項だけでなく、日々変化する各個人の考え方、生き方へのこだわりといった抽象的なものを尊重する時代になってきている。

組織に属して働くことが主流であったこれまでとは異なり、SNSの普及やクラウドファンディング等の拡大に伴い、個人が個人として自分のやりたいことをダイレクトに実現できるようになってきた。人々が自分の考えを信じ、お互いを尊重し合って高めあうことで、より良い社会の実現に繋がるであろう。

### 22 さらなるユニバーサル化

今現在のユニバーサル化の状態では高齢の方や障害を持っている方が暮らしにくい場所の方が多いと考えます。特に先天的に障害をもって生まれてきた子供を育てる親の方々はかなり苦労をされていると考え、そういった方々もより暮らしやすい未来にする為に体の不自由な方に向けた施設のさらなる増加や、言語障害を持っておられる方に配慮した店舗の増加、大きな声を出しても迷惑にならない環境などの増加といった未来シナリオを考えます。20～30年後では高齢者の方や障害を持っている方が不自由のない生活を送れることを願います。

### 23 ストレスのない生き方をサポートする社会

#### <ストレスを溜めない人生設計、日々の選択>

AIを活用し今までの人生でストレスを感じた瞬間、うまくいった出来事、うまくいかなかった出来事、得意不得意を分析し、その人に合ったライフプランの道筋を示す。

#### <溜まったストレスを発散できる場の提供>

ビックデータやVRなど発達したテクノロジーを用い、その人に合った最もストレスが緩和されるアプローチを施す。

ストレスをできるだけ感じないような社会づくりを県民全員で意識共有し、県民全員で助け合っ、県民全員がストレスなく安心して暮らせる社会である。

### 24 自由と平等、夢を叶えられる社会

様々な文化や宗教、背景を持った人が集まって同じ社会に生きられ、誰もが差別されずに、自由に生き、夢を叶えられる社会

- ・宗教の多様性を受け入れられる
- ・国籍や出身に関係なく、誰もが自分が住みたい場所に住める
- ・ユニバーサルデザインが普及
- ・障害が障害と感じなくなり、誰もが安心して生きられる社会

### 25 風通しの良いみんなの兵庫

理想の兵庫の実現のため、老若男女問わず幅広い意見を取り入れられるよう、ひとりひとりが発言しやすい環境をつくる必要があると思う。

### 26 ポジティブで明るい社会

一人ひとりの個性を認め合い、楽しく明るい社会になっている。学校や職場でのいじめやソーシャルネットワーク上での誹謗中傷がなくなり、年間の自殺者数も減っている。

AI化によって、教育のシステムが変わり、個人を尊重し、考えて行動するようになる。一人ひとりの良さを見つけ、互いにほめ合うことによって、自分自身の価値を認識し、生きることの喜びや社会への使命を持って行動している。使命を果たし、社会貢献をすることで、さらに一人ひとりの価値が上昇し、また一歩よりよい社会へと循環している。

き、明るい社会が形成している。

## 27 笑顔の絶えない社会

誰もが個性を発揮し、互いに認め合い、自分自身及び関わる人々を愛し幸せに暮らせる社会になる。幸せを感じると笑顔になれ、笑顔が広がると幸せも広がっていく。

LGBTQIA や障害について学び、「普通」という概念を導きださなくなっている。人は、みんな違ってみんないいという考え方が浸透することで個性を認め合える。誰もが自分の存在価値を見だし、日々を懸命に楽しく過ごすことができる。

働く際、自分の能力に適した職につき、自分に合う環境で自分らしい働き方ができる。仕事にまみれて自分らしさを失うことなく、ワークライフバランスを保ち日々を充実させることができる。充実感を得ると、自然と笑顔があふれる。

## 28 モラルを守り、既存の価値観に縛られない社会

私は「モラルを守れる社会」という将来シナリオを考えた。相手の顔が見えないネットでも思いやりの心を持ち、モラルを守れるように家庭や学校で十分に教育できる環境を作るべきだと思う。また、実社会でもグローバル化が進み、人種や性別、宗教、職業など様々な視点における問題がより顕在化してきたと思う。そのため、今一度モラルについて考える機会を作り、よりよい社会を作るための議論をする必要があると考える。

さらに、「既存の価値観に縛られない社会」という将来シナリオも考えた。現代は科学・技術の進歩がめざましく、便利で豊かな社会になってきている。そのため既存の価値観にとらわれたままでは社会の発展について行けず、衰退につながる可能性がある。既存の価値観に縛られるといった安定ではなく、変化を恐れず柔軟な思考ができ、それが反映されるような社会を目指せる必要があると私は考える。

## 29 思いやりのある兵庫人

幼少期から道徳などの教育を積極的にを行い、相

手を思いやることのできる人間を育成することで、よりあたたかい兵庫県（地域）につながり、また未来の兵庫の治安を守ることもつながるのではないかと感じました。

## <バーチャルが拓く可能性 関連>

### 30 技術革新による時間や生活の充実

技術革新によりVR・AI・ロボットを活用して仕事や学び、観光などあらゆる方面において自宅で体験や実施ができるようになっており、自由に時間を有効活用できている。

#### <仕事>

仕事内容もインターネット上で完結できる内容となっており、テレワークやAI活用により職場へ出向くことなく、仕事もロボットが補助している。住まいも職場近くに住むことなく住みたい場所に住み自宅で仕事をする。

#### <観光・ショッピング>

VRを活用して現地に行っているかのような体験やショッピングも実際に手に取っているかのような体験ができる。

### 31 近未来的な社会

様々な機械の進化、発明により、生活の質が格段に向上する。

デジタル化が進み、スマホなどでその場になくても人の健康状態などをチェックすることができる。

### 32 感情を汲み取るAI技術による生活様式

AI・ロボット技術の発達により、ヒト・物をさらにつなぎ合わせる社会であってほしい。人はあれをしたい、これをしなければならぬ、などの行動の前提となる感情をAI技術が行動様式からくみ取り、支援や自動的に行ってくれるものを想定している。具体的には「次は〇〇を検索したい。」「この表をグラフにしたい。」などの思いをAIが受け取り、次に関連するような作業や考えを自動で処理する技術を考えている。

### 33 AIとの協働社会

AIによって人間の仕事が奪われる中でAIに支配されるのではなく、AIではどこか物足りない人間の温かみをAIには難しい家族との会話等、ゆっくりと家族との時間を社会になるようAIと共生・協働できる社会。

### 34 すべてがつながる社会

一人一人に情報端末が普及し、それはその人に応じたAIを備えている。それによって仕事や生活などが情報端末とともにある人生となっていると考える。

人間が頭で思い浮かべたことや考えたことを情報端末が読み取り、文字に起こすことができる。または映像として映し出すことができる。人間に応じた健康管理やリスク低減など人間が生活する上で様々な情報を提供し、提供された情報をもとに人間が主体的に選択できる。

このように情報端末が人間の生活をサポートすることによって、生活がより便利で豊かなものとなる。情報端末が人間にとって欠かせないツール（パートナーのような存在）となり、その中で人間と情報通信技術が共存した社会であってほしい。

### 35 情報を選べる社会

近年SNSが普及し、幅広い世代がそれを利用している。しかし、その弊害として、若者が犯罪に巻き込まれたり、災害時にフェイクニュースが流されたりと、SNSを使う人間のモラルが問われることも増えている。最低限必要な情報の確保をしつつ、自らで情報を選べる社会が望ましい。

### 36 デジタル技術の真の普及と社会課題解決

進化していくデジタル技術を、住民誰もが必要最低限使いこなせるようになっていたら望ましいと思う。生活に役立つ情報技術は、年齢問わず習得しているような社会になってほしい。研究開発という観点では、最先端の情報技術を活用することは、分野問わず発展に重要である。でき

ることが増えれば新たなアイデアが枝分かれ的に生み出されるため、環境・資源・エネルギー問題などが合理的かつ現実的に解決されるサイクルが完成できると考えられる。

### 37 VRの現実化

iPhone等を見ずともインフラに危険度、避難所、災害多発地域であるかなどが投影され、住民の災害リスクを少しでも減らせるような仕組み。

### 38 オンライン県民

ITの発展に伴い、地方にいても都市部と変わらない働き方が発達したことにより、この先地方への人口の流入が多くなると考えられます。

まず、ネット上で県の基本情報は世代別などで案内を変更したり、県内を仮想現実（VR）技術で観光をしたりしてもらえるようにします。さらには、拡張現実（AR）技術と並列して運用することで、使用者の実体は他県もしくは他国でも、県内在住の方と行動がともにできるようになり、VR空間内で消費生産活動も行えるようになるのではないのでしょうか。

実際の県と、仮想空間上の県をつなぐことによって、VRの県をもう一つの県の形として扱うことで、場所に縛られることなく、より県民の活動の活性化につながるのではないかと考えます。

### 39 情報技術を活用した社会

情報技術の発達により、バーチャル空間での活動が活発となる。例えば、仮想世界での旅行やスポーツ、アトラクション、世界中の人々との交流などである。特に、仮想世界であるので現実世界と二つにする必要がない点が面白い。

また、電子決済が当たり前となる。例えば、カフェ等の店においては、席に着いて商品を注文すれば自動的に会計が済む。

### 40 ありとあらゆるものがつながるまち

パソコンでは、キーボードを打たなくても、自分の必要な情報を瞬時に出し、それに基づいて人

間が行動しながら判断していくことができる世の中になってほしい。

今から食べる食事は本当に安全かどうかや、スマートフォンをかざすだけで正確なカロリーや栄養バランスを教えてくれるようなシステムをネットワークやコンピュータのデータベースから構築できるようになるなど、色々なところでダイエットや健康維持のために役立つ食情報を教えてくれる世の中になってほしい。

#### 41 その人に会った情報化社会

近年、アナログのものは少なくなり、デジタルのものが短いスパンで開発されている。

そのため、社会の情報化に取り残される人がいるのも現実だと思う。また、社会の高齢化により、そのスピードについて行けない人は増えると思う。

そこで、すべてをデジタル化するのではなく、その人にあった選択ができる世の中になればと思う。もちろん、そうすることで時間や手間は増えると思うが、本当にすべての人が過ごしやすい、焦りを感じない世の中にするためには、情報化を選択できる未来になればよいのではないかと思う。

#### 42 バーチャル世界

私自身が考える近いうちに実現しそうだと思う

ったのがバーチャルが生活の一部になっていることです。現在でさえ、VRゲームだったり、オンライン会議などが当たり前になってきており、YouTubeではVTuberと呼ばれるCGやオリジナルキャラを使って活躍しているとテレビのニュースで見たことがあります。

今後、技術が発展することで世界を仮想で観光することが可能になれば、外に出歩けない方や、体に何らかの障害がある方でも、誰もが利用できる日常が来るのではないだろうかと思いました。

#### 43 ロボットの活用

ロボットの活用として、まず頭に浮かんだのはドラえもんです。

私は、ドラえもんのような喋れて、一緒に食事、交流ができる人間味あふれるロボットが必要であると考えています。なぜかというと、一人暮らしの高齢者の寂しさ、不安、子供たちに会いたい等の気持ちを少しでも減らしたいからです。そこで、一人暮らしの高齢者に家族的な存在であるドラえもんのようないつでもどこでも一緒にいてくれるロボットをプレゼントしたいと考えます。ロボットを活用する一番の目的が、高齢者の寂しさ、不安を取り除くことであるので、コミュニケーションが自然にとれるロボットが出来ればよいと考えます。

### 3 つながりの再生（57シナリオ）

安心して子育てができる社会、歳を重ねても、孤立せず、安心して介護が受けられたり、見守りあう社会、人々がいろんな形でつながりあえる未来を望む人が多かったです。

#### <つながりを広げ、深める家族 関連>

- 1 誰一人取り残さない兵庫
- 2 幸せの多様化
- 3 幸せな家庭
- 4 遠くにいてもつながる家族
- 5 個人、家族に重点をおいた暮らし
- 6 誰もが自分らしさと繋がりを感じられる

#### <楽しく子育てできる社会>

- 7 男女関係なく子育てがしやすい地域にする
- 8 明るい未来の街
- 9 子供が安心安全に成長できる社会
- 10 子育て・仕事が両立できるまち「ひょうご」
- 11 子育て地として選ばれるひょうご
- 12 子育てしやすく、災害に強いまち
- 13 より楽しく安心して子育てできる社会
- 14 子どもに優しい、心にゆとりを持った社会
- 15 誰もがなりたい自分を想像し実現できる
- 16 「産む」「産まない」「結婚」が選べる社会
- 17 介護・育児がしやすい環境
- 18 地域一帯子育て支援
- 19 安心して子どもを育てられる社会
- 20 合計特殊出生率が2.1になった社会
- 21 地域で育てる子どもの未来
- 22 子育て環境の整備
- 23 子ども達が公園で遊ぶ社会
- 24 きめ細やかで手軽な子育てサポート
- 25 育児先進県
- 26 子育てしやすい未来
- 27 少子化に歯止めがかかる

#### <最期まで安心して暮らせる社会 関連>

- 28 田舎の多世代共存化
- 29 無理のない老老介護

- 30 社会的孤立をなくす
- 31 老後快適社会
- 32 高齢者の孤独死を減らすために
- 33 みんなで支える介護
- 34 みえる化が進む社会
- 35 福祉が、より身近でより便利になる
- 36 離れて住まう介護
- 37 安心して長生きできる社会
- 38 安心して暮らせる老後
- 39 お互いに見守り合う社会
- 40 介護ロボットの普及

#### <広がる縁 関連>

- 41 新たなテクノロジーで古き良きつながり
- 42 ひとりひとりを尊重するが独りじゃない
- 43 つながりの再生
- 44 つながりあう小さな町(コミュニティ)
- 45 地元民のためのホームコミュニティ
- 46 みんなが仲間である社会
- 47 ペットをより幸せに
- 48 リアル・バーチャルのコミュニティの融合
- 49 誰もが溶け込めるコミュニティ
- 50 人が触れ合う社会
- 51 近隣地域間の交流が絶えない住まい

#### <スポーツが育むつながり 関連>

- 52 スポーツが盛んな街作り
- 53 地域全体で行う生涯スポーツの教育

#### <自分たちでつくる地域 関連>

- 54 地域のつながりと防犯対策
- 55 つながる地域住民
- 56 防災とコミュニティ
- 57 あたらしい民主主義の社会

## 〈つながりを広げ、深める家族 関連〉

### 1 誰一人取り残さない兵庫

以前にも増して人のつながりが希薄化し、地域でSOSを発信している人がいても気付けないことがある。そのような状況だからこそ、社会的弱者と言われる外国人・高齢者・障がい者・母子（父子）家庭等の弱い立場にある人々やLGBT等のマイノリティを取り残さない社会を実現したい。社会的弱者が一方向的に支援等を受けるのではなく、困った時は誰もがお互いに手を差し伸べられ、助け合える社会を構築しなければならない。

### 2 幸せの多様化

自分自身が結婚してもしていなくても、幸せを感じられるような、柔軟な価値観が共有される地域になっている。

家族のそばで暮らす人も、離れて暮らす人も、家族がいない人も、それぞれがつながり、地域の中に居場所があると安心感を得られる。

### 3 幸せな家庭

自身も2050年には幸せな家庭を維持していきたい。子どもができれば子ども中心の生活になる。育児、教育等を経験し、子どもが独り立ちして孫ができていく。何よりも、全員が健康であることが一番である。

また、テクノロジーの進歩で、様々な分野でリモートワークが進み、勤務地に縛られない暮らしをしている。皆が多様性に富んだ兵庫県の好きなところで働き、充実した家庭生活を送っている。

### 4 遠くにいてもつながる家族

家族とは、それぞれ好きな場所に住んでいても、お互いのことを思い合い、頻りに連絡を取り合っていたい。また、どんなに遠くても簡単に行き来できるような社会になってほしい。そうすれば、もっと住む場所の選択肢は増える。

そして、今後このような未来を実現するためには、家族一人ひとりが心身ともに健康に過ごして

いなければならない。家族みんなでつながり、健康に暮らせる社会をめざしたい。

### 5 個人、家族に重点をおいた暮らし

仕事により場所、時間に制約される生活を変え、個人、家族に重点を置いた生活を送りたい。仕事はオンラインで行うことが主流になり、働く場所の自由化が進む。医療・福祉職など物理的なオペレーションを必要とする職種も、遠隔操作ロボットの活用が進む。

子どもを持てば、例えば、自然体験を行える場所へ移り住み、自然を肌で感じ、子供の発育、発達に良い影響を与えるような場所に移り住みつつ、仕事を続けていくことが希望である。

### 6 誰もが自分らしさと繋がりを感ぜられる

年齢や性的指向、出身国や信仰する宗教などに関わらず、誰もが自分らしく生きられる環境が兵庫県で実現している。子どもの頃から、関心を持ったことを学ぶ機会が充実し、1人1人が夢を持って過ごしていて、働き方や生き方について自由に選択できる社会である。

また困難を抱えても、地域での支え合える関係が構築されている。子育て等の悩みも、周りの人たちと話して解消でき、虐待の件数が減少している。人々はネットリテラシーが身に付け、SNSは県民の生活をより良くするために活用されている。兵庫県の多様性溢れる地域性が国内外から関心を集め、兵庫出身の人々が生涯兵庫県で過ごしたいと思い、県外からの移住者も増えている。

## 〈楽しく子育てできる社会 関連〉

### 7 男女関係なく子育てがしやすい地域にする

兵庫県が男女関係なく子育てをすることができる地域になればいい。父子手帳を兵庫県全体に配布することで父親の子育てに対する意識が向上し、子育てを学ぶ良い機会になる。

男女が育児で協力し合うことで、より良い子育てをすることができる。その環境をアピールする

ことで人口減少抑制のきっかけになる。

## 8 明るい未来の街

成人するまでの子供の医療費を無償化する。同性結婚や夫婦別姓を認める制度を確立する。そのための財源確保には新たな税の創設も考えられる。県民の負担を考えると難しい一面もあるが、子ども達が未来を創っていくため、当たり前前の投資と感じる。

## 9 子供が安心安全に成長できる社会

子供を安心安全に産み育てられる社会の実現は不可欠。近年では公園で子供がのびのびと体を動かして遊ぶこともできず、部屋の中で遊ぶことも多くなっている。子育てをする親も共働きが多く、子供の面倒を見ることができないことも多い。子供が周りを気にすることなく外で遊ぶことができ、子供が外で遊んでいても親が不安に思うことのない社会が望ましい。

また共働きの家庭の子供が孤独感を感じないように保育所などで受け入れる体制づくり、さらには共働きをしなくても済むような子育て支援をするなど、子供が健やかに成長できる社会になってほしい。

## 10 子育て・仕事が両立できるまち「ひょうご」

兵庫県が、日本で最も子育て環境が充実した県として知られ、合計特殊出生率が2.0を超過している。ひとり親家庭への支援は勿論、各家庭に対しても教育や生活、食料品に関する経済的支援が十分に行われ、多子を産み育てることに県民は躊躇しなくなっている。

仕事に関しては、高速通信環境によって、日本の国内外を相手にしたテレワーク勤務が県内どこでも可能となり、兵庫県は職住融合地域として世界的に名の知られた県となっている。

また日本各地の若年層から、移住先の第一候補として挙げられる地域となっている。人口の自然増・社会増により経済の好循環が生まれ、子どもたちをはじめとした、活気のある豊かな暮らしが

実現している。

## 11 子育て地として選ばれるひょうご

出産による女性の離職は未だ解決していない問題の一つ。この問題解決の一つの手段として、現金給付や現物給付を進めるのではなく、保育の担い手の資格制度の要件緩和など、県独自の規制緩和した認可制度を創設することで、2050年には、民間企業の保育サービス参入により需要に供給が追いつき、子育て地として兵庫県が選択されるようになる。また、波及効果として、雇用の増大、法人・県民税などの確保度など、県民だけでなく、県財政運営にも一定のプラス効果を生むと考えられる。

## 12 誰もが子育てしやすく、災害に強い安心して暮らせるまちづくり

働く世代は特に子育てに多くの不安を感じている。収入に関係なくあらゆる層が子育てしやすい環境を作るため子育て補助金、子育てのための施設、医療体制の充実、女性だけでなく男性の育休取得推進、教育機関のさらなる整備が不可欠。さらに、収入によって子育てに差が出ないようにするため、地域全体で働きながら子育てする世代をサポートできる制度を創設する。また、阪神淡路大震災を経験している兵庫県だからこそ、災害対策にさらに力をいれ、安心して暮らせるまちづくりを進めていきたい。

## 13 より楽しく安心して子育てできる社会

男性でも女性でも関係なく子育てできる社会をつくる。まず男性の育休取得率の向上のため、職場の空気を変える。子育て世代と言われる20代後半から30代の職員の上司や先輩が、育休を取ることに對してより寛容にならなければならない。また男性の長期的育児休暇を充実させ、配偶者の出産のサポートしやすい社会をつくる。また、安心して子育てできることと同時に、安心して子育てしなくてもいい社会にもなってほしい。晩婚化や生涯未婚率が注目されるが、個人の選択として、結婚しないことや結婚しても子どもを作らない

ことがより当たり前に受け入れられる社会になってほしい。

#### 14 子どもに優しい、心にゆとりを持った社会

今の日本は子育てしにくい。家庭の経済的負担をより小さくすることが絶対の課題である。また、近年は教師の仕事量の圧倒的な多さから、生徒1人にかかる時間が減少しており、共働きの家庭等では子育てに余裕が持てない親も増えている。日本社会の働き方改革等を進めて、より良い子育て環境をつくることにより、兵庫の発展に繋がってほしい。

#### 15 誰もがなりたい自分を想像し実現できる

男女問わず子育てや介護に関する休暇の取得が当たり前にできる社会になってほしい。家族全体でバランスを見ながら子育て・介護ができるよう、リモートワークの普及により自宅にいながら仕事ができる環境づくりが進むことで働きやすい世の中となることが理想である。仕事と生活のバランスを家庭内で考えやすい社会が実現することで、生涯をかけてなりたい自分ややりたい仕事が想像でき、兵庫を支えるすばらしい人材が増え、活気あふれる兵庫を目指せるようになるのではないかと期待している。

#### 16 「産む」「産まない」「結婚」が選べる社会

民間企業においても、産休代替や、病欠などの社員に対する人員の補充が当たり前に行われている社会になってほしい。子供を持っている社員が休みやすだけでなく、独身者には、他の人の欠勤などに対応した時に別途手当が支給され、希望者は事情に関わらず時短勤務や残業免除を受けられる。また、若者の単身者の貯蓄の優遇や新婚生活支援が充実している。男女ともに、派遣・契約社員などの不安定な非正規雇用の増加は食い止められ、年齢問わず、希望者が正社員になれる社会になっている。

#### 17 介護・育児がしやすい環境

自分の大切な人たちに楽しい生活を送ってもらえるように、介護施設はより個々の願いを反映した自由なサービスを提供している。お風呂の回数の制限がなく、希望があれば同伴なしで一人でお風呂に入れる。また、歩くのが困難になってきた人のためにも、おいしいレストランなどの宅配や出張サービスが進んでおり、遠出をしなくても様々な楽しみがある環境が整っている。

育児も、親だけで抱え込んでしまうのではなく多くの人に支えられながら行っている。ヤングケアラーといった子どもたちが悩みを解消できるように、より学童保育の受け入れが広がる。また、介護施設や保育などに携わる人たちの賃金も上がり、質のいいサービスが提供されている。

#### 18 地域一帯子育て支援

昔のように地域全体で血縁関係を気にせず子育てをしていくことのできる社会になってほしい。現代の子育て世代は、両親ともに働くことが求められ、子供に十分向かい合うことが難しくなっていく。地域全体で子供を育て、教育していくことができれば安心して子供を育てることができるようになる。主には高齢者にその役割を担ってもらい、勉強から人生経験など様々なことを受け継いでいければ良い。これにより、例えば、高齢者の見守りを兼ねたり、孤立化を防ぐことができる。相互に足りない部分を補い合う社会が実現できる。

#### 19 安心して子どもを育てられる社会

兵庫県が公表する令和2年度の「市区町別主要統計指標」をみると、兵庫県全体では人口がマイナスになっているにもかかわらず、明石市は人口が増えていることが分かる。

人口が増えると税収入も増える。税収入が増えることで、社会教育施設の充実や政策のために利用できる費用も増え、より充実した社会になる。明石市の医療費や保育料支援などの取り組みを目標に兵庫県全域で子育てがしやすい県として

発展していけば、県全体の人口も増え、人が増えると雇用も生まれ、永住しやすい県になる。

## 20 合計特殊出生率が2.1になった社会

2050年には合計特殊出生率が2.1になる。さらに、それを維持するためにさまざまなアクターがそれぞれの得意分野を活かし努力している。

人口減少の抑制には、社会増をめざすのも一つの手かもしれないが、県内総人口は変わらないために各地域間で人の奪い合いになるかもしれない。移民を受け入れるにしても社会制度上多くの問題があるし、社会増のために移民を受け入れようとする地域に人が定着するような長期的な魅力があるとも思えない。であるならば、必然的に自然増を達成するしかない。

## 21 地域で育てる子どもの未来

自分の生まれ育った地域には、人口減少下でも、医療や子育て環境の充実により、若い世代も多く住む今の姿のままでいてほしい。また住み慣れたまちに住みながらも、遠くに住む友人や、丹波、淡路に住む家族に、いつでも会いに行けるより快適な交通環境がある。児童館や保育園などが近くにあり、進学の実績の多い地域で働きながら子育てしやすい環境が望ましい。また子ども達が通う学校は、今よりもっと課外学習が盛んになってほしい。さらに、災害時にも助け合える地域のつながりの強いまち、子育て面でも安全なまちに住みたいと思う。子育てが落ち着いてからは、地域の子どもへの学習支援や子ども食堂などの活動で地域とつながってほしい。

## 22 子育て環境の整備

出生数の減少に対する対策が重要。1つ目は、豊かな自然のなかで、安心して遊び、学べる環境の整備である。地域密着型の公園づくりが必要。2つ目は、保育施設の充実、教育機関の多様性の確保。預り保育施設の不足は全国的に問題となっている。また、これから変化していく社会で活躍できるような、子供の学びの場の選択肢が数多く

ある地域であってほしい。

## 23 子ども達が公園で遊ぶ社会

無人であつたり、高齢者しかいない公園を見ると寂しい気持ちになる。少子化や地球温暖化、娯楽の多様化が原因であると考えられ、50年後にはさらにそれが進む。50年後、活気溢れる公園で、孫と遊ぶことが夢である。

## 24 きめ細やかで手軽な子育てサポート

ファミリーサポートなどの子育て支援を充実させたい。顔を知っている近所の人たちや、同じ子育て世帯など時間に余裕のある地域の人たちが、「夕食のお裾分け」「保育園の送迎」「公園に連れて行く」など、細かい内容ごとに支援を申し出ることができるようなサービス体制をつくる。支援を求める方も、困ったときに求める支援で検索をすると、その日支援を申し出ている人を見つけることができるアプリなどを用いたものである。予想がつかないような課題が浮かび上がっているかもしれないが、時代に合わせた支援が届けられるよう、柔軟な発想が必要であろう。

## 25 育児先進県

その名の通り、男女の区別なく育児のしやすい社会であってほしい。2050年には自分の子ども世代が、子育てに関わる。金銭面・仕事面で子育てのしにくい環境であって欲しくない。今以上に男女関係なく希望すれば必ず育休が取得できる環境・様々な働き方が認められる環境になってほしい。現状、育児面の不安が少なからず出生率の低下に繋がっていると思う。行政としては、補助金や休暇制度の充実により、企業が社員の育児と仕事の両立に前向きになれる社会をつくっていく必要がある。

## 26 子育てしやすい未来

出産前・出産後の、家庭と仕事の両立に悩む人々への支援を充実させる。オンラインを利用した相談室が拡充し、家政婦やヘルパーといった家

事手伝いを手軽に利用することができる。例えば、子育てする人に1つの宿泊施設に住んでもらい、家政婦が掃除や料理などをまとめてやるのはどうか。子育てをしやすい世の中にするために、忙しいとき、疲れ・ストレスがたまっているときに、プロの力を借りやすい状態にすることで、子育てに対するマイナスなイメージが軽減され、出生率の増加につなげていける。

## 27 少子化に歯止めがかかる

40年連続で低下する出生率が増加に反転。育休取得推進、子育て支援金給付など、子供を産まれた後のサポートを行う仕組みづくりはもちろん、不妊治療の保険適用、里親委託の推進、LGBTカップルに、子供を持つ選択肢を持ってもらうなど、子供を育てたい人のところに子供を授けられるような社会をつくる。子供を社会全体で育てるという意識を持ち、子供を持ちやすい、育てやすい社会をつくる。

## <最期まで安心して暮らせる社会 関連>

### 28 田舎の多世代共存化

若者の都市への流出は、仕事が地方にないことが一つの要因である。また、高齢者が地方で暮らすためには、介護サービスの充実に加えて、買い物など生活上の利便性も必要である。このため、地方の介護サービスと、大型スーパーとを連携させる。スーパーへの送迎だけでなく、必要なものを高齢者の自宅まで届ける宅配サービスの実施など、若者の仕事を地域に創出し、高齢者への支援をすることで、多世代が地方で住むことができるようになる。

### 29 無理のない老老介護

今後さらに高齢化社会が進んでいく。医療が発展し平均寿命が延びることで老老介護という問題が今以上に増えていく。無理のない範囲での老老介護ができるよう、AIやロボットがどんな人でも分け隔てなく利用できる社会であってほしい。

## 30 社会的孤立をなくす

社会的に孤立すると、最悪の場合孤独死に繋がる。年々離婚率も高くなっており、社会的に孤立している母親がうつ状態に陥ると、児童虐待が起こる可能性も考えられ、一人でも多くの人を孤立から救うことが必要。兵庫県でも、30年前と比較して、1世帯あたりの平均人員が約77%も減少しているが、インターネットや携帯電話などの通信機器の発達によって、会ったことのない遠方の人と友好関係を築くことが可能になっている。

## 31 老後快適社会

将来、老人が安心して自宅で過ごせる時代がくる。ロボット技術の発達による遠隔医療などを駆使して高齢になっても安心して暮らせる地域をめざす。さらに、ドローンを活用した航空配達や、無人宅配車により、自宅からいつでも買い物ができるようになる。娯楽についても、バーチャルを活用した座談会などを設ける。

## 32 高齢者の孤独死を減らすために

核家化が進行する今、高齢者の一人暮らしが年々増加しており、高齢者の孤独死もまた増加している。高齢者の異常をできるだけ早く離れた家族や第三者に伝えることが大切である。

今の技術で、高齢者が使う家電にセンサーを取り付け、それが一日中反応しなければ家族に連絡が届くシステムがあるが、家族が離れていることを想定し、独自の組織に連絡をすれば自宅訪問で様子を確認するシステムを民間だけでなく行政でも主体に動いていけば孤独死の増加を抑えられるのではないか。

## 33 みんなで支える介護

介護の役割は、家族に期待されることが多く、妻、嫁に依存する割合が高い。施設に任せたくとも金銭面から諦め、親の介護のために仕事を辞めざるを得なくなることもある。だからこそ、地域社会全体で高齢者を支える仕組みが必要である。

第1は、介護現場の環境改善である。労働者のや

りがい意識に甘えるのではなく、この仕事でしっかり生活を営めるといふ労働環境整備が大切である。第2は、相談できる環境整備である。社会コミュニティが希薄化するなか、気軽に相談できるプラットフォームの作成、日頃から交流できるようなイベントの開催などの対策が考えられる。

### 34 みえる化が進む社会

生活や育児、介護、病気など困りごとの相談先がすぐに分かる仕組みが必要である。地元を離れて就職する若者、単身赴任のサラリーマンなども増えるなかで、万が一の事態が起きた時、相談する場所がないと、問題が進行してしまう危険性もある。問題に対して気軽に相談できる体制づくりにより、住民の不安もなくなり、住みやすい社会をつくることにもつながる。

### 35 福祉が、より身近でより便利になる

行政の行う福祉サービスにおいて、ICT化が進むことで、煩雑な書類による手続きがなくなり、県民がより手軽にサービスを利用できるような仕組みが整っている。また、介護や保育の現場における補助ロボットの導入、相談業務などにおけるAIの活用が進み、現場での負担軽減・人手不足の解消が実現する。さらに事務作業に割く費用・労力が削減されることで、サービスそのものに掛けられる時間が増加し、県民のサービスに対する満足度が向上する。

### 36 離れて住まう介護

好きな場所で老後を過ごせるような在宅医療や在宅介護の環境が整っている。さらに、医療や介護を提供する家族等が、自宅や職場から対応することができて、介護を理由とした同居や離職、休職などがなくなっている。また病院や老人ホームにいても、VRなどを利用して自宅と変わらない生活環境を体感できている。

### 37 安心して長生きできる社会

ネットワークの発達により、いつでも高齢者の

状態を見守り、何か起こればすぐに家族に連絡し、対応を行うサービスが普及しはじめている。2050年にはロボットが介護したり、センサーを使って見守るというやり方にも抵抗感がなくなっているのではないか。また、自動運転や配達サービス、テレビ電話などのさらなる発達により、高齢者がひとりでも安心して充実した生活を送ることができる社会になっている。

### 38 安心して暮らせる老後

老後の心配がない未来になっている。生涯現役という選択ができることは重要だが、引退を選び介護等にかかる費用のため老後の貧困に陥るケースも増加している。現役時代の貯蓄も関係しているが、介護や病院にかかる費用、娯楽や旅行にかかる費用の支援、インターネットが苦手な人への無料授業など様々なサポートがあり、老後の自分の時間をより楽しんでいる。シニア世代の孤立を防ぎ地域のネットワークを強化するためにもインターネットは必要不可欠であり、新しい発見や出会いをICT技術が支えている。

### 39 お互いに見守り合う社会

高齢化が進むなか、地域内で互いを見守り合うことのできる社会を目指したい。地域独自のインターネット設備を利用し、高齢者の状態などを地域住民が気にかけることにより、何かあった際にも迅速に対応することができる。また、日頃かの交流も増え、地域内での関係性も深まり協調性が高まる。

### 40 介護ロボットの普及

2050年には国民の3人に1人が高齢者になる。同時に少子化も進んでおり介護職につく人の減少が見込まれている。兵庫県として、介護ロボットの普及を促進し、少ない働き手の中でも介護業務が円滑に進められるよう環境整備をする必要がある。

## <広がる縁 関連>

### 41 新たなテクノロジーで古き良きつながり

古き良き人間同士のつながりは、地域によっては破綻しかけている。それはそこに人がいなくなったから、人とつながる余裕がないからである。この30年でどれだけ技術が進んでも仮想現実には仮想のままであるし、これから起こる社会問題に立ち向かえるのは他ならぬ現実のつながりである。人が人とつながる余裕を取り戻すには、関わり合う時間を設けなければならない。最新の技術は人間の仕事を奪うと言うが、むしろ、働く以外の時間が増えることによって、人は他のことにより注力できるようになる。テレワーク等で移動が必要でなくなるならば、なおさら余暇が生まれ、つながりを育む時間となり得る。最新のテクノロジーはSNS含むバーチャル的な新時代のつながりに加えて、旧来の人間同士のつながりさえも生み出す鍵となり、よりよい暮らしを実現できる。

### 42 ひとりひとりを尊重するが独りじゃない

個人が自分のしたいことをできるという個人が尊重される未来である一方で、ずっと独りではなく、時には誰かと過ごせる未来であってほしい。自身は、2050年には今の親ぐらいの年齢になっている。そのとき自分がしたいこと仕事、生活ができていれば幸せである。親は退職後の生活を送っているが、自由に使える時間を、今までできなかったことも含めて存分に楽しんでほしい。できれば、直接会うことでも良いし、スマートフォンを通じてでも良いが、友人や仕事仲間との交流を続けてほしい。

### 43 つながりの再生

人は、人とのつながり、家族のつながりが大切であり、繋がり場所を増やすことが大切である。県内の様々な場所で色々なイベントを開催すべき。スポーツや音楽、美術やゲームなど、人は様々な趣味を持っている。その中でいつでも気楽に参加できるイベントを月に一度つくることで、

様々な人脈ができる。共有できる趣味だからこそ、会話も弾み、人との距離が一気に縮まるのではないか。人と会話をすることで、様々なアイデアが膨らみ、それが何かしらの形で経済に貢献できるのではないか。カップルが誕生し、結婚率も増加するのではないか。

### 44 つながりあう小さな町(コミュニティ)

廃校や歴史的建造物をおしゃれにリノベーションした大規模なコワーキングスペースを設置する。1つの拠点に様々なフリーランス、ビジネスマン、クラフトマンが集まり、イノベーションが創出される。また、施設の一部には飲食店やヘアサロン等の生活に必要な店舗も併設され、施設が小さな町として機能し地域コミュニティがつけられる。その中で地域に根付いたビジネス・人材の育成に取り組む。

また、廃校付近は自然が豊かである。昼間は働き、夜は自然を感じ、テントを張ってアウトドアを楽しむ等1日の中に自分らしい癒やしを感じられる瞬間をつくる。県内各地にこのような場所がつけられ、それぞれがオンラインで繋がっている。県外からの利用者とのつながりも強まり、日本各地で創出される新ビジネスに多くの兵庫県民が関わり、自由で豊かな働き方に注目が集まっている。

### 45 地元民のためのホームコミュニティ

地元で暮らす人々がふらっと立ち寄ることができ、交流できる場所をつくる。普段は田舎のおばあちゃん家のように、和室でテレビを見ながらお菓子を食べたり談笑したりできる。ペットもいれば、家族のような一体感ができるのではないか。また時々イベント等も開催されれば楽しいだろう。古民家をリノベーションすることで、こうしたあたたかい空間を創れる。自身は社会人になって、地元に残っている友人が少なくなり、地元で誰かと繋がれる場があれば良いと感じるようになった。第二の家のような居場所があれば、うれしい。

#### 46 みんなが仲間である社会

将来、人と人とのつながりが多く、孤独を感じない社会であることを望む。災害が起こったとき、必ず地域住民との助け合いが必要になる。地域住民とよりよいコミュニケーションを取りながら、スムーズに助け合いができるよう普段から、地域コミュニティを大切にしたい。

#### 47 ペットをより幸せに

ペットを愛する人が今よりも過ごしやすくなればいい。具体策の一つは、ペットの幼稚園の行政化である。ペットへの適切な教育を図り、ご近所トラブルの減少やペット同士の関わり合いの機会の増加等を目指す。二つは、勤務先へのペット同伴の要件緩和である。実際に導入している、あるIT企業では、癒やされるやストレスが減ったなどプラスの意見が多いという。三つは、ペット税導入である。ペットを飼う人へのサポートの充実を図るとともに動物愛護活動など動物たちの幸せの増進を図りたい。

#### 48 リアル・バーチャルのコミュニティの融合

自由に動き回ることが出来ない高齢者や子育て世代が、SNSなどを活用することでバーチャル空間でつながることができる。バーチャルの世界でつながるために、使用方法のレクチャーなどの機会を通して周囲の人との交流が生まれ、身近な人々とも自然につながりを深めることができる。

#### 49 誰もが溶け込めるコミュニティ

自分と似たような価値観を持つ人、同じような境遇にある人と交流を深めることは、自分とは異なる価値観を持つ人とふれあうことと同じくらい重要である。さまざまな理由で社会から孤立してしまった人に、共感しあえる人と出会う機会を与えることで、社会に馴染めないかもしれないという不安を取り除き、社会参加に前向きになれる環境をつくりだせる。ひきこもりやニートの社会参加を支援する仕組みが質・量ともに充実し、社会に自分の居場所がないという辛い思いをして

いる人々が、新たな居場所を見つけることができる体制が整っている。

#### 50 人が触れ合う社会

この10年で誰もがスマホを持ち、すぐに情報を得ることができる時代になった一方、人々が直接的に接する機会が減少している。会わなくても会話できる、コミュニケーションがとれる、接さなくても楽に楽しめる世界が広がってしまっている。また、コロナ禍で、人と人との接触が制限され、ますます世界が狭まっている。しかし実際は、直接人と触れ合うことで経験、勉強できることの方が多い。人の表情や感情の微妙な変化は実際に会わないと理解できない。面と向かって話をすることの重要性を再認識しなければならない。これから情報化社会は加速していくが、人と支え合って生きていることをふとしたときに再認識できる時代であればいい。

#### 51 近隣地域間の交流が絶えない住まい

近隣同士の仲が良く、助け合い、情報交換ができる地域であってほしい。例えば、バーベキューや花火大会などの行事を近隣同士で楽しめる地域、和気あいあいとし、楽しく相談ができる雰囲気のある地域が望ましい。

#### <スポーツが育むつながり 関連>

#### 52 スポーツが盛んな街作り

スポーツは体力の向上やストレスの発散、生活習慣病の予防など、多くのメリットを持っている。スポーツを核としたまちづくりを進めるためには、スポーツが健康を維持し、楽しい者であるということを周知する必要がある。また、実際に県民に体を動かしてもらえるような取組も必要。

#### 53 地域全体で行う生涯スポーツの教育

例えば、少子化、過疎化が残る地方の小学校の体育の授業で、地域の高齢者とともにスポーツを楽しむ環境をつくり、人数不足の解消、異世代と

の交流など幅広いメリットを創出できる。また、身体能力が伸びていく時期である中学校、高等学校では、他校や地域のプロ・アマスポーツチームに協力をしてもらうことで質の高い指導を行うことができる。さらに、プロと接する機会が増えることで、「するスポーツ」だけでなく「観るスポーツ」にも興味を持たせることができる。

## ＜自分たちでつくる地域 関連＞

### 54 地域のつながりと防犯対策

昨今、子どもたちが被害にあう犯罪が増えている。保護者は「知らない大人」との接点を減らすことでリスク回避しており、子どもにとって親や学校の先生以外の「地域の大人」と繋がる機会が減少している。こうしたなか、保護者や地域ボランティアのコーチが見守る安全な状況下で、年齢問わずスポーツが行える環境を整えられれば、子どもにとっては、健康維持や同年代のコミュニティ構築を図るだけでなく、親や学校の先生以外の大人と接することで礼儀や言葉遣いを学べる機会になる。また大人にとっては、運動不足の解消に加え、子どもたちを含めた地域住民とのつながりを深めることができる他、防犯対策の向上にもつなげられる。

### 55 つながる地域住民

過疎化が進む田舎、マンション等が多い都会、どちらでも住民同士が交流し支え合う社会が築かれている。住民や企業が連携し、各地域の問題をアプリ等でリアルタイムに共有することで主体的な地域づくりが進んでおり、行政は広域的なサポートに徹している。また、美しい景観の保全活動や、町内掃除が定期的に行われることで、よ

り住みやすい地域になるとともに、住民のコミュニティが広がり、高齢者や子育て世代、単身者などすべての人たちが、安心して暮らすことができている。災害が起きた際にも連携し、避難や住民による救助活動が行われ、被害の最小化が図られている。

### 56 防災とコミュニティ

開かれた地域社会で地域の人たちがコミュニケーションをとりながら豊かな生活を送っている。「共助」の精神が育まれ、地域のつながりが災害が起きた際にも生かされている。さらにネットワーク技術を活用した安否確認なども、コミュニティで運用され、より安心・安全な社会が築かれている。

### 57 あたらしい民主主義の社会

若者は今の政治に「民主主義」は感じにくい。自分たちの政治要望は、選挙で代表を選ぶことでしか実現できないし、選挙では理想論を掲げても、実際には何が変わったか実感がもてないことが多い。もちろん電子投票など、投票率を上げる施策も必要であるが、個人それぞれが「自分も政治に参加している」、という当事者意識を感じられる仕組みが必要である。例えば、デジタル技術を用いて住民の声をリアルタイムに拾い、政策に反映させる仕組みはぜひ実現してほしい。また税金についても、公共版クラウドファンディングのようなものをつくり、住民は納付する税金の使途・金額を選べるということができれば、納税にも納得感が生まれ、「この道は自分の税金でできた」というように、地域への貢献意識や帰属意識の向上にもつなげられる。

## 4 集中から分散へ（87 シナリオ）

田舎でも活気がある未来や、自分で働き方や住む場所を選べる社会の実現、移動手段の多様化、格差のないデジタル化など、どこでも豊かに暮らせる未来を望む人が多かったです。

### <都市と田舎の共生 関連>

- 1 格差のない社会の実現
- 2 人の温かさを感じられる暮らし
- 3 分断を生まない共生社会づくり
- 4 繋がる人とまち
- 5 PCの普及・高速ネットワーク社会
- 6 神戸新都心
- 7 若者が離れない地域
- 8 「住みやすい地方」へ
- 9 活気あふれる兵庫
- 10 地方分散している社会
- 11 多様な生き方ができる社会
- 12 帰りたい、住み続けたいまちづくり
- 13 都市と田舎の距離がなくなり、過疎地域のない兵庫
- 14 ストレスフリー化社会
- 15 田舎でも活気のある町に
- 16 活気のある田舎
- 17 都会からの移住者の帰化
- 18 兵庫県永住支援
- 19 地域格差をなくす
- 20 点在するコンパクトシティ
- 21 コンパクトシティ
- 22 人口減少対応型地域
- 23 農福連携
- 24 人口増加で活気あるまち

### <自然と共にある暮らし 関連>

- 25 自然共生五国 兵庫
- 26 自然・農業と共生する兵庫
- 27 自然と共生する町
- 28 活気づく地方
- 29 自然豊かな兵庫
- 30 豊かな自然環境の有効活用
- 31 都会に自然環境学習の場を

32 自然と共生する自由な暮らし

33 適切な距離を保って自然と親しむ

### <自由になる働き方 関連>

- 34 やりたいことができる町
- 35 職住融合社会
- 36 人材・技術の集約地
- 37 どこでも働ける仕事
- 38 地元兵庫に永住するための雇用について
- 39 多様なライフスタイルが認められる社会
- 40 兼業と休暇制度
- 41 働きやすい日本
- 42 AI、ロボットを活用し、自由に生きる
- 43 今まで以上に働き方改革が進む
- 44 多様な働き方とワークライフバランス
- 45 自分で働き方を決める社会
- 46 職業選択をし直せる社会
- 47 ライフワークバランスの確保
- 48 AI等による人間の仕事の高度化

### <軽くなる住まい 関連>

- 49 ひょうごでいきる
- 50 住所をもたない生活
- 51 自由に暮らすことのできる社会
- 52 次の暮らしへの一歩
- 53 家の住み開き
- 54 住む場所を縛られない社会
- 55 自由に選べる居住地

### <快適になる移動 関連>

- 56 移動時間の短縮
- 57 環境汚染をせずに発展
- 58 田舎から直接都市へ
- 59 高齢でも田舎で暮らしやすい環境
- 60 兵庫県内と他県を結ぶ交通網の形成
- 61 新技術による社会づくり
- 62 兵庫県の空港政策

- 63 便利で頑丈な地元
- 64 県内どこへでもアクセス
- 65 豊かになる移動手段
- 66 移動先進都市
- 67 自動運転車社会の実現
- 68 距離のないまち
- 69 コンパクトシティ
- 70 移動手段の充実
- 71 様々な「場」へのシームレスな切り替え

#### <進化する自治体 関連>

- 72 デジタル化の徹底化
- 73 協働を超えた、協創社会
- 74 情報化社会に取り残されない社会作り

- 75 電子化された社会
- 76 デジタルでつながる社会
- 77 住民のための大きな地方政府
- 78 どこにいても同じサービスを受けられる
- 79 どの地域からでも公共サービスを
- 80 「レス」の推進
- 81 人に寄り添うデジタル地域
- 82 マイナンバーカードのさらなる多機能化
- 83 幸せの五国 兵庫
- 84 キャッシュレスでスマートな社会
- 85 デジタルデバイドをなくす
- 86 全デジタル化する兵庫
- 87 格差のない情報化・デジタル化社会

#### <都市と田舎の共生 関連>

##### 1 格差のない社会の実現

2050年の兵庫県は、格差を看過せず、実態を正面から受け止める社会、生活環境や家庭環境で格差がある人々に財政、教育、生活等あらゆる角度から手を差し伸べ、努力する人が誰でも報われるような社会になっており、UJIターンが増え、活気のある豊かな県となっているだろう。

##### 2 人の温かさを感じられる暮らし

科学技術の発展とともに、自宅にいながら様々なことが可能になるが、生活の利便性が向上するとともに、人とのつながりが希薄になっていくことが危惧される。そのため、人とのつながりが途絶えないようにコミュニケーションツールや移動手段の発展によって人とコンタクトをとる際の障害が低くなった社会。

##### 3 分断を生まない共生社会づくり

医療を重視するのか、経済を重視するのかという問題を、冷静に中立的な立場で考えられる行政活動が必要である。多種の業界が分かり合える社会を構築していきたい。

次に、都市と田舎との共生である。多方面で田

舎の魅力を高めていきたい。単に自然が豊かだからという理由だけでは人々の活動拠点にはならない。文化や教育、医療の水準など、多方面での魅力がなければ都市への人口流出は続くだろう。

最後に、多世代社会の共生である。多世代が政治・経済あらゆる分野に参画し、相互理解を深めていきたい。

##### 4 繋がる人とまち

場所を問わないビジネスによって、人と人の繋がりが深まり、道路ネットワークなどの基盤が充実し、まちとまちが繋がる環境になっている。

デジタル化で利便性が向上し、ビッグデータの活用で、施策の最適化が進行し行政サービスを住民が受けやすくなることで、人もまちも繋がる。

##### 5 PCの普及・高速ネットワーク社会

パソコンを1人1台所有し、どこにいてもインターネットにつながるようネットワークシステムを構築する。そうすることで、元々兵庫県に魅力を感じている人達は大都市圏に移住せずにリモートにより働くことが可能となり、人口流出を抑制できるのではないか。

##### 6 神戸新都心

都心へ向いてきた人々の流れが地方へと向き

始め、人同士の交流もオンライン上で出来る今日であるが、街には街の魅力があり、人と人がふれ合うことの魅力も必ずあるのではないだろうか。神戸という街が人々に憧れ続けられる魅力を持った街となり、知識、文化そして人が集う街になってほしい。

### 7 若者が離れない地域

地元根付いた大学などの教育・研究機関の運営や、都市での学びを生かせる職場を紹介する機会を設けるなどの必要がある。

また、兵庫県の豊かな自然環境と立地の利便さなどの暮らしやすさについてもさらにアピールする必要がある。これらの魅力を伝えることで、今後の社会を支える若者の都市圏への流出を防ぎ、よりよい兵庫県になる。

### 8 「住みやすい地方」へ

そこに住み続けてもすぐに都会にアクセスできるという感覚は、そこに定住どうかに当たって重要な決め手になり得ると思われる。

自然が魅力の地方に、飲食店や地場産業の店などを積極的に出店する補助をし、県はSNS等でアピールすることなど、人を呼び込む方策も考えられる。人が増えれば地域の活性化へ繋がっていく。

都会の利便性を取り入れつつも、自然の空気が吸えたり混雑しすぎていなかったり、また各々地方の特色などをベースにしたまちは、「住みやすい地方」として魅力的な地域になると考えられる。

### 9 活気あふれる兵庫

せっかく兵庫5国を推しているのだから、それぞれに首都のようなものを認定し、発展させれば面白くなるのではないかな。

兵庫県内の経済発展の為に企業を誘致することが大きい。そうすればその周りには人が増え、それに伴い娯楽なども発展するはずだ。

そして、都会と田舎の共存の為に交通網も重要です。中部から北部は車以外の選択肢が少なく、住んでいる地域以外とは関わりが薄い。そのよう

なことをなくすためにも身近に感じさせるものがこの先できていけばいい。

### 10 地方分散している社会

例えば、農地や土地を多く持つ地方などでは、農業体験を組み込んだ教育施策を展開する。

さらなるプラスの点を説明するのが重要である。例えば、生活してゆく上で、仕事に「定時」などの概念がないという点や、うまくいけば東京や大阪のサラリーマンと比較して高給取りになれる、など打ち出そうと思えば様々な利点がある。

### 11 多様な生き方ができる社会

地方への人の流れが加速しているが、東京で学んだり働いたりすることが悪ではない風潮になっていて、自分の生きたいように生きていけるようになり、お互いを尊重できる。

学校では、柔軟な発想が養われる授業が増え、生きていくために必要なお金に関する授業が増えるなど、日本の未来を担う若者にあふれている。

### 12 帰りたい、住み続けたいまちづくり

若者が帰りやすいコミュニティの創設、交通網や商業施設の整備による住みやすいまちづくり、同一地域内での格差の解消、地域間の連携などの施策を早急に行う必要がある。これらの施策によって、人口も増え、高齢者も若者もいきいきと生活ができる田舎が増える未来を望んでいる。

### 13 都市と田舎の距離がなくなり、過疎地域のない兵庫

都市と田舎間の交通網が発達、ワークスタイルの多様化、生活基盤が充実して、田舎の良さをそのままに老若男女問わず不便なく生活ができます。また、子育て支援や老後の生活支援など、誰もが安心して生活できる制度が充実し、人口が分散することで過疎地域がなくなります。人口は減少から増加に転じ、兵庫全域で活気あふれる光景を見ることが出来ます。

## 14 ストレスフリー化社会

リモートワークの普及や交通の発展により、通勤・通学の時間の削減が可能となり、働き方や住む場所を自由に選べ、時間に余裕を持てる

ビッグデータを活用した渋滞や店舗の混雑具合を予測したサービスの拡大により、待ち時間によるストレスが緩和される

「ストレス指数」が企業評価の1つに用いられ、企業はストレスフリー化に向けた努力を行う

## 15 田舎でも活気のある町に

田舎でも活気のある町になるように様々な工夫がされているので、将来ではこれらの観光資源に興味をもってもらい、足を運んでもらったり、定住する人が増えるようになって欲しい。

交通の便が悪い印象である田舎でも技術の進歩で交通網が発達すればより、都市と田舎の共生がやりやすくなると思われる。

## 16 活気のある田舎

若者が暮らしたいと感じる田舎とは田舎で会っても不自由なく生活ができるという点が大切である。まずは雇用を生み出すことが必要である。企業を誘致する、テレワークなど場所を問わない仕事を促進するなどのことを行うことが大切である。また子育てのしやすい地域作りをする。

このようなことを行い、活気のある田舎が増えていく兵庫県になっていけばいいと考える。

## 17 都会からの移住者の帰化

都会から引っ越ししてきた者が、地域のコミュニティにもすぐに溶け込めるような制度（移住前のオンライン面談、生活体験）により、移住した先で孤立がなくなる。

また、引っ越してから地元住民のサポートを受けられたり、先に移住した者との交流制度を整えることで、スムーズに田舎暮らしに移行できるようになるであろう。

## 18 兵庫県永住支援

県外から兵庫県への転入者を対象に持ち家を考えられている方へ住宅建設費用を補助する。

兵庫県は現在よりも地方部が発展し、転入者のみを求めるのではなく、転出者の人数を減少させる取組にも繋がる。仕事も増えるという仕組みに変化していくと思われるので、新卒の大学生等も転出せず、県内で職に就くことが可能となる。

## 19 地域格差をなくす

地方の活性化のために地域同士のつながりを作るとともに、地方にも様々な店の開拓や公共交通機関の便数増加等の交通の利便性向上などにより活性化を図り地方も大事にしていきたい。

## 20 点在するコンパクトシティ

医療面や生活圏がある一定の地域の中でまとまっており、年代も分散しているようなまちを県内に点在してつくっていく。

新型コロナウイルス感染拡大により、在宅ワークやリモート授業が一気に普及したため、必ずしも職場や学校に近い場所でなくても普段の生活ができるようになってきた。地域に愛着をもってそこで暮らしていく環境を配備していきたい。

## 21 コンパクトシティ

これからの時代は、これまで以上に環境に配慮して生活しなければならないが、コンパクトシティでは、公共交通機関やカーシェアリングの利用者を増やすことができ、環境にもやさしいまちを創ることができる。

海外での事例などをもとに、誰も暮らしやすい都市機能と自然が共生するまちをつくりたい。

## 22 人口減少対応型地域

行政により求められることは、人口増加のための施策ではなく、人口が減少したとしてもそれに対応し、活力を維持できる地域づくりである。そのためには、一人一人の生産性の向上が必要。

したがって、今後は人への投資を重点的に行う

べき。例えば、効率性向上のためIT活用を促す施策、挑戦する起業家への支援、未来を支える子供達への教育環境の充実、病気になり社会復帰できない方に対しての医療的支援等が挙げられます。

### 23 農福連携

高齢者、障害者や生活困窮者などが実際に社会で活躍することを通して自信や生きがいを持ち、自分らしく働くことを実感できます。

また、スマート農業やロボット技術の導入が進展し、障害者も簡単に作業ができたり、高齢者の労働負担を減らせるテクノロジーが世の中に出回り、簡単に使える社会を期待します。

これらの取組が広がり、食糧自給率が向上し、世界的な人口増加による食糧危機のリスクなどに備えられ、輸入に頼らない供給ができる。

### 24 人口増加で活気あるまち

#### <自然をいかしたサテライトオフィスの増設>

豊かな自然に囲まれた場所にオフィスを構えることにより、ストレスフリーで仕事をする事が出来る。オフィス内も休憩スペースやカフェなどを設置し、快適な空間を整える。

#### <デジタル体験やVRを使用した遊びの場を充実>

最先端の娯楽施設により、子供や若者が住みたいまちが実現する。

自然と娯楽により、働きやすく、住みたいまちになる。働く人や子供、若者が興味をもつ空間をつくることによりその家族の移動も促すことに繋がり、人口が増え、活気あるまちを実現する。

#### <自然と共にある暮らし 関連>

### 25 自然共生五国 兵庫

2021年の県内の自然の状況を正の面・負の面のそれぞれのカテゴリで評価し、正の部分の強化及び負の部分の大幅な改善を目指す計画を策定する。そして、その計画を基に都市部・農村部での自然環境振興を目指すことを目的にしている。

自然環境振興の例として、科学技術の振興・発

展を目指すため全国から研究者を誘致し、兵庫の豊かな自然をテーマしつつ快適に研究ができる環境の創出を目指すことがあげられる。

また、新しい形式での生活を推進するために、県全域で快適なネット回線の普及及びアフターコロナ後の新生活を実践する県民に住居の手配や無利子での融資等を実施する。

これらを基に発展と自然が共生した新たな兵庫県を創造し、日本で最も暮らしやすい都道府県を目指すことを最終目的とする。

### 26 自然・農業と共生する兵庫

日本の縮図と言われる兵庫はその中心として、五国の特色ある豊かな自然を大切に活かし、農業もより活性化させ、若い人たちに農業を仕事の選択肢の一つとして考えてもらい、豊かな自然と食を維持し、地産地消を目指し安全な食を安定的、長期的に供給していける兵庫であって欲しい。

### 27 自然と共生する町

#### <農林業の発達>

高齢化で次世代の後継者が不足している田畑や果樹園等を県・市町で連携して買取り、他業者や若手に業務を委託する。これによって後継者問題が解決している。また国や県と連携し市町の特産物を作り全国展開で売り出している。

#### <自然を使った教育>

都市部ではなかなか行えないような、自然学習(体験学習等)を増やすことで地方部ならではの教育が行えると子育て世代からの人気が増える。

#### <自然を通して地域連携>

祭りや地域の活動を通して地域連携を行うことで子育て世代の負担も軽減。

### 28 活気づく地方

農村での農業体験やマルシェなどの活動が拡大することによって、都市から多くの人々が来るようになり、活気が出てくる。それによって新たなビジネスチャンスとして新たな取組が生み出

され続ける好循環が生まれる。

田舎にいても大きなチャンスが得られるようになり、活動が増えることによって、それぞれの地域の特色が強くなる。

### 29 自然豊かな兵庫

学校の授業で植林体験や稚鮎の放流など自然に触れ合う授業の量を増やし、子供の頃から自然の大切さや自然が生活の身近にある事を直接自然と触れ合うことで感じてもらえたら良い。

また、空き地等を体験農園や貸し農園畑、農作物の直売所にし、自分で育てた野菜や花を売る事ができるようにすれば子供からお年寄りの方まで楽しく農業に励むことができ、今よりも緑豊かな町を築いていけるのではないかな。

### 30 豊かな自然環境の有効活用

川遊びや川辺でBBQをしている人、数少ない公園で子供が遊んでいたなどの現状を踏まえ、もっと自然を活かした施設（レジャー施設や公園等）をつくって、賑わいのある場所が多くなってほしいと思う。

### 31 都会に自然環境学習の場を

「尼崎21世紀の森」といった人工的に森を造る取組が行われている場を自然環境を学ぶ場として積極的に活かしていきたい。例えば、森に育つ植物やそこに生息する生き物、それらが環境の中で持つ役割や保全の重要さなどを体感しながら学ぶ。小・中学校に農業用フィールドを設けてより実践的な体験ができる環境作りを実施する。

これらの実現によって子どもたちが地方の自然や農村に興味を持つことはもちろん、豊かな環境を持つ地元を好きになってほしい。

### 32 自然と共生する自由な暮らし

仕事は続けたいけど居住地が変わってしまうことで仕事を辞めざるを得ないときによりテレワークが進み、住みたいところでやりたい仕事ができればより良い人生につながると思う。

また、今まで失った自然を取り戻すために、SDGsの取り組みを推進し、自然との関わりの中で、自然環境の保全再生と美しい景観の維持、生物多様性の確保などを推進していきたい。

### 33 適切な距離を保って自然と親しむ

幼い頃から適切な知識や経験に触れることのできる環境作り、各自治体の野生動物への安易な餌やりを禁止する条例や先日改正された自然公園法のような適切な規則の制定、そしてこれらの普及啓発が重要である。

自然とただ触れ合い親しむのではなく、これらとの適切な距離や節度ある付き合い方を県民自ら模索実践し、心身共に安全で豊かな生活を送ることができる県を目指すべきである。

### <自由になる働き方 関連>

### 34 やりたいことができる町

#### <選べる仕事>

自分の生産性にどのやり方が合っているのか選べる（自宅で職場でカフェで等）。AI・ロボット・オンラインが充実して、その場にはないとこの仕事はできないというものはなくなっている。

勤務時間もどの時間が生産性が上がるのかを個人ごとに可視化して、それに合わせて仕事ができる。兼業も副業も制限なく行える。

#### <選択肢の拡大>

情報を道具として捉えて使いたい時に使えるようにしておく。プログラミングを小学校の授業に加えたように、必要なものは取り入れる。

### 35 職住融合社会

職場ではなくともこなせるような仕事は、在宅で行うというような働き方や働く場所の選択肢を増やすことができるようになって欲しい。

都市部・地方部の移動をより簡易で迅速に行える交通方法を作ること、仕事や居住場所の選択肢が増えるのではないかな。

自身のライフステージに合わせて、居住場所や住居を変えると同時に、選択肢の幅が増えると、

自分がしたい生活を実現しやすくなり、より豊かな生活が送れる。

### 36 人材・技術の集約地

先進技術の発展により、事務や農業などは労働力の多くを機械が担っていく。経営者は浮いた時間を活用してより効率的に業務改善を行ったり、新しいビジネスの創出に時間を割ける。単純労働従事者が減ることで人々は新技術の研究や行政に注力するようになり、豊かな発想による技術開発、民意をよりくみ取った政治が可能になる。

少ない労働力で経済が回ることにより基本所得制が導入されはじめ、生活水準の底上げが行われる。人々が子育てに専念できる環境が整っていき、人口が増えることで、優秀な人材の輩出が加速していく。

### 37 どこでも働ける仕事

結婚しても、出産しても、やりたい仕事を継続できるように、在宅勤務を拡大させていく。

ICTやIoTを活用し、世界中どこにいても仕事ができるようにする。家庭で過ごす時間が今よりも長くなることで、育児の時間も持てるようになり、少子化問題を打破する糸口にもなる。

現在職場で実施している仕事の進捗状況の確認や共有は、AIが蓄積したデータ等を分析し適切自分自身が今日やる仕事を適切に判断する。そうすることで効率よく仕事をすることができ、残業を減らすことができる。

### 38 地元兵庫に永住するための雇用について

#### <仕事面>

県民運動のイベント等地域活性化における業務の一部を県から起業者へ委託し、雇用と地域参画・協働を創出し、子育て世代やシニア世代など時間があうときに働き収入を得る。自身の住み慣れた地域の活性化のため働くことで賃金がもらえること、関わることを自然とできる環境が常態化になれば地域コミュニティの再構築に繋がる。

#### <子育て世代>

知り合い同士だけではなく、地域全体での助け合いをするためのコミュニティ強化も重要。

#### <シニア世代>

シニア世代が若年層に対して詳細（何の経験があり、何を教えることができるのか）をリストアップし、若年層が聞きたい事を選択できる。シニア世代の雇用をも創出でき、さらに地元へ根付いたコミュニティも再構築できると考える。

### 39 多様なライフスタイルが認められる社会

AIの発達により雇用が減少してくる可能性があるため、ワークシェアリングが進んでプライベートを充実したい人は週3日の勤務などができるように環境が整えられていくと良い。

教育においても、インターナショナルスクールや、フリースクールなど現況の学校になじめない子の為の教育施設はあるものの、学校卒業と同じような資格が得られないことが多い。この点を改めれば海外に通用するような人材を増やすこと、また、特殊な能力を身に付けた人材などが育つ可能性も十分に考えられる。

### 40 兼業と休暇制度

職務専念義務は有事と組織として命令があった時のみの雇用形態が一般的になればいい。

子育てや介護時には集中して休み、余裕のある独身時期や扶養家族がいなくなった時期に、孫育てやボランティアを積極的にしつつ、自身のやりがいや生きがいのためにも働きたいだけ働けるような時代が来て欲しい。

### 41 働きやすい日本

書類のデータ化や女性の社会進出、少子高齢化、働き改革等総合的に少しずつ改善して欲しい。

新たな価値観や技術を持った県職員も増えてきている。新たな価値観や技術で、この行政の改革・刷新を進めていく。

## 42 AI、ロボットを活用し、自由に生きる

日本の人口減少は抑えられなかったが、それを補うAI、ロボット技術の幅広い分野での活躍により、経済活動は問題なく行われている。

「生きていくために働く」のではなく、より自分らしく、より自由に「人生を楽しむ」事を一番の目標とする社会へと変化を遂げた。

## 43 今まで以上に働き方改革が進む

### <週休三日制>

働き方の選択が増え、子育てや介護などでこれまで仕事を断念せざるをえなかった人も続けられるほか家族の時間を大切に出来る。

### <テレワーク>

通勤時間が長い人にとっては非常に嬉しい。家で出来るような仕事であればできる限り在宅勤務を取り入れる企業が増えることを願っている。

## 44 多様な働き方とワークライフバランス

雇用の流動化の結果、産休や育休、心身の不調からの復帰が容易になるなどの効果が期待できる。また、高齢者が経験を生かす形でピンポイントでの仕事をこなすなど、現在あまりない働き方が生まれる可能性がある。

兵庫県は五国の多様性を活かし、それぞれの地域でモデルとなる働き方や生活様式を提示することで、人生の段階や個人の志向による多様なニーズに応えていく。

## 45 自分で働き方を決める社会

「企業や団体に就職する」という進路の描き方は当たり前のものでなくなり、起業やフリーランスで生活する人口が増える。

就職活動期の学生をはじめとして、自分の描く進路を見直し、自己の市場価値を最大化できる働き方とは何かを熟考する価値観が根付く。

## 46 職業選択をし直せる社会

物理的にやり直しができないことも多い世の中で、ひとりひとりが生き生きと生きていくため

にも、職業選択をやり直せる機会を社会が作ることは、結果的に社会のためにもなる。

## 47 ライフワークバランスの確保

休暇の取り方の多様化・長期化により自分の時間が確保されることは、趣味や家族・友達との時間に充てることができ、リフレッシュすることでより一層仕事に励むことが出来る。

仕事と家庭の両立のために、家事の代行サービスやベビーシッター等のサービスの普及があれば、子育てへの負担や不安が解消されると考える。

## 48 AI等による人間の仕事の高度化

技術が更なる発展を遂げる未来においては、人間が行う業務はより高度化する。単調な雑務などはすべて自動化され人間はそれを行うシステムや機械の管理を行うだけになる。人間が行うべき業務は洗練される。

今までは仕事になっていたことが機械化によりなくなることで多くの人々が職を失う危険性を伴う。これには、「人に投資する社会」の実現により少しずつ解決されていくことだと思ふ。

## <軽くなる住まい 関連>

### 49 ひょうごでいきる

都会と地方の自然を両方持っている魅力を全面に出し、どちらのニーズにも対応できる点を訴求する。また治安の良さや家族で住みやすい街作りを進めている点もアピールし、比較的若い家庭の流入を促進する。一度県外に出た人も改めて兵庫の魅力に気づき、戻ってくるような人の流れを構築できれば良い。

### 50 住所をもたない生活

今後、流動的に選択肢を広げて生活および仕事が出来るように、引越しが気軽にできるシステムがあれば良い。県内で住む場所を変更しやすいように予め家具などを備えた家を用意したり、シェアハウスの施設を増やすなどして人だけが移動することで住む場所が変更できるようなシステム

ムができれば良い。

### 51 自由に暮らすことのできる社会

仮想通貨や株など特定の職場を必要とせず収入を得る人が昔に比べて増えてきている。ネットショッピングの充実や公共交通機関の充実化により、住む場所の自由度が上がっていると感じる。

自身が住みたいと思った町に住み、インターネットなどを通じてやりたいことを自由に選べる社会が広がっていく。

### 52 次の暮らしへの一歩

兵庫県内だけでなくそれぞれが行きたいと思った場所で、すぐに生活ができる社会になってほしい。引っ越しに対する一歩が軽くなることで、他県、他国からの転入者も増えるでしょうし、そこで定住という選択する方もいる。

また、マイナンバーを活かして引っ越しの手続きを窓口に行かずにできるようにしたり、企業と連携して「引っ越したいけれど、職場から離れすぎるのが不安」という方の背中を押せるようにすることで、今は田舎というと少し閉鎖的なコミュニティなイメージがありますが、全ての地域が全ての人に開かれた場所になってほしいです。

### 53 家の住み開き

核家族や単身世帯が集まって住むことができるコーポラティブハウスのような集合住宅に、親族や友人と集う人が増えます。また、そのコーポラティブハウスには、ジムや図書館、カフェのようなコミュニティスペースがあり、人が外へ出かけなくても仕事や余暇に利用します。

また、地域内で住み開きをすることで、コミュニティの幅を広げることができます。

場所を選ばず仕事ができ、住みたい場所に住めるからこそ、家族で住むことを選択し、またその中で家族以外とのコミュニティの場もあれば社会との繋がりも持てる。

### 54 住む場所を縛られない社会

旅先で仕事したり、定期的に住む地域を変えることもできる。より自由に働くことができるため、働くということに対する考えも変わっていき、様々な人が働ける社会へと変化していく。

### 55 自由に選べる居住地

通信技術の発展と多様な働き方の実現により、場所を選ばず働くことができる仕組み、環境を整える。

県内各地域に企業のサテライトオフィスの設置を推進し、サテライトオフィス街（衛星都市の位置づけ）を作り商業施設の誘致も図ることで、居住地の選択肢を大幅に増やし、都市部に集中している人口を分散させる。

都市部との衛星都市の往来や、衛星都市間の往来を快適化することにより、サテライトオフィスでは賄えない場面にも迅速に対応できるようにするなど、都市部との連携を密に行える環境を整えることで衛星都市のデメリットを感じさせないようにする。

## <快適になる移動 関連>

### 56 移動時間の短縮

移動時間が短縮され、遠方の場所でも短時間でいける社会となってほしい。現代の社会では、ネット環境の発達によって遠くの人ともつながれる社会となっているが、対面でもすぐに遠い人と会える環境となることを期待したい。

### 57 環境汚染をせずに発展

空飛ぶ車の開発やドローンの安全性を確保し空の領域に進出する。今ある自然を残しながら短時間で地方に住まわれている高齢者に会いに行くことが可能になる。緊急時でも立地の悪い場所でも空から駆けつけることが可能である。

ネットワーク導入により情報の共有や24時間の見守りができ、安心して生活することができる。

## 58 田舎から直接都市へ

兵庫県の北から南へ行きやすくするため鉄道及びバス等の交通機関の増加に加え、一部を自治体運営にし低価格とする仕組みがあればより田舎から都市へ行きやすくなる。

また、物理的な移動に加え、高齢者向けのインターネット教室を積極的に行うと共に「視覚的な観光」ができるツールの積極的な推進があれば手軽に簡易な観光が自宅で行える。

## 59 高齢でも田舎で暮らしやすい環境

今後、自動運転技術の発展や公共交通機関の増加により自宅周辺以外の街へ出やすい環境を整えることで、高齢のかたも活発に活動し移動しやすい環境になる。また、公共交通機関での移動手段が多くなることで、高齢での都市部からの移住も行いやすくなる。

## 60 兵庫県内と他県を結ぶ交通網の形成

道路整備が進み、兵庫県北部から神戸まで約1時間で行くことが可能となり、兵庫県北部から都市に出かけるだけでなく、県内外の都市から但馬に多くの人々が来て、但馬の魅力を知ってもらう。

道路交通網の形成によって、但馬の産業の活性化を図る。但馬は、都会に比べて、広大で安い土地があるので、大企業にとっても、魅力的な地域となっている。

## 61 新技術による社会づくり

過疎地域を活用し新技術の実証の場にしていきたい。例えば、無人運転は人の多い街中では制約も多く、事故や渋滞につながる可能性もあり、積極的な実証は難しい。しかし、過疎地域で実証の場を作成するとそれらの影響は少ない。

また、研究機関や大学を過疎地域に作ることで、それらの地域に経済面や税収面でも還元することができる。

## 62 兵庫県の空港政策

神戸空港の国際化により、より外資系企業等が

集積し、まだ空き地が多数あるポートアイランド、都心三宮、神戸駅周辺等に拠点を構えることが考えられる。

神戸空港へのアクセスを改善するには、案として、阪急神戸線の地下化と延伸を提案したい。具体的には、王子公園～神戸三宮を地下化し、阪急新神戸駅を設立する。そこから、既存のポートライナーの鉄道橋を流用し、三宮～神戸空港までを、阪急の路線とする。

また、但馬空港に関しては、利用促進のためには、北摂や阪神間住民の山のレジャーでの利用促進を図ることを提案したい。

地の利を生かし、外国人やエリートビジネスマンが喜ぶような施設を開発できれば、移動以外の需要を発掘できるかもしれない。

## 63 便利で頑丈な地元

自力での移動が困難になった高齢者などは集落内にいながら各種行政・金融サービスを受けることができ、医療・通信技術の発展+拡張現実により集落内でも診察を受けることが可能になる。

集落ごとに熱供給システムや省水力発電などを完備することで、エネルギーの自給率が向上。災害などの緊急時には集落独自で一定のエネルギーを確保することで、本格的な救助の開始までの住民の生存率が向上している。

## 64 県内どこへでもアクセス

県内どこへでもアクセスが簡単になると、県土の広い兵庫県の魅力を存分に味わうことができるようになる。交通網の発達には様々な文化が存在する五国の魅力をより身近なもの他県民にもPRしやすくなる。交通網の成達は県民の生活だけでなく、経済面にも大きな影響があると考えられる。

東京にも負けず劣らずの交通網を整備することができれば、兵庫県はさらに発展していき、大阪や東京への人口流出の歯止めになると思う。生活面でも経済面でも今以上に快適で発達した兵庫県に私はずっと住んでいきたい。

## 65 豊かになる移動手段

安心安全で、経済的かつ地球にも優しい豊かな移動手段が実現されている。具体的には、車の完全自動運転化やクリーンエネルギーの利用、空の道路などが挙げられる。現在、高齢ドライバーによる事故が増加しており、高齢化の進む中で、今後もそうした事故は増加すると考えられる。自動運転化が進めば、事故の減少、時間の有効利用、エネルギー消費の低い運転など、多くのメリットを享受できるのではないかと。

## 66 移動先進都市

鉄道において、AI技術及び自動運転技術の活用により、運行管理の効率化と乗車料金の大幅な引下げが実現するとともに、車両技術の向上により、運行速度がUPすることで、都市部と地方の往来が盛んになり、地方と都市部の双方が活性化する。

また、自動車において、既存の道路も走行可能で低空飛行も可能な自動運転車専用の交通網が整備され、気軽に様々な場所へ移動することが可能になり、居住地の多様化が進む。

## 67 自動運転車社会の実現

2050年には、自動運転車が普及してほしい。人が運転しているとどうしても事故や、あおり運転などのトラブルが発生する。また、生活に必要なため、高齢になってもなかなか免許を返納できない方も多くいる。こうした問題をなくすためにも、早く自動運転車が普及し、日常生活や仕事での事故のリスクをなくしてほしい。

## 68 距離のないまち

離れていてもコミュニケーションをとれる環境（ビデオ通話システム等）を、30年後には、だれもがより使いやすいツールが開発され、また、それが広く公平に普及しているといい。

交通手段及び機能の発達により、長距離も安価ですばやく移動できる手段が充実し、それがどの地域にも偏在なく行き渡り、会いたい人といつも会えるような環境であれば、安心して暮らせる。

## 69 コンパクトシティ

今までの社会は、「今ある地域」をこれからもどう維持していくかが中心になっていたかと思いますが、これからは社会インフラの老朽化や生活サービスの維持、自然災害や感染症の猛威にも耐えうる地域の実現のため、点在している地域から一箇所へ地域の集約を行ったコンパクトシティが今後、地域の姿ではないかと思えます。

## 70 移動手段の充実

すべての車がGPSで管理され、自動運転で目的地を設定すると一度も停止することなく目的地に到着できるようになるといい。車も所有するのではなくタクシーのように呼んで、使いたいときに目的に合った大きさのものを使えるようなシステムができるといい。

車での移動が困難な距離については、小型飛行機を多く導入して、地方空港などを活用し、小回りのきく運用をしていくとよい。

## 71 様々な「場」へのシームレスな切り替え

様々な「場」への移動や切り替えの時間的、精神的なコストを無くしていくことで、より人々の生活が豊かになる。

場所の切り替えは、今後モビリティの発達や都市と田舎、自宅と仕事場の脱固定化によってよりシームレスになっていく。

バーチャルな場の切り替えにおいては、VR等のデジタル技術が発達することで、同じ場所にいないがらの場の切り替えがより快適になる。

## <進化する自治体 関連>

### 72 デジタル化の徹底化

コンビニなどで簡単に手続きを済ませられたり、ネットワークシステムの情報連携によってオンライン申請の際に入力の手間を省いたり行政手続の簡易化がより一層推進されれば良い。

介護ロボットの導入で人手不足を解消につな

げたり、事務作業のうちの自動化できる領域をAIに置き換えることで業務の負担を軽減したりと、コストの削減に結びつけることが可能である。さらに、マーケティングにおいてビッグデータ分析を用いてデータ間の相互関係を見つけて売上を伸ばすといった、人員確保以外の場面でもAIは大きな役割を果たす。

### 73 協働を超えた、協創社会

現在の協働に関する取組が、さらに加速して、今よりもっと官民の垣根のない状態になっている。例えば、自治体の新規事業に関する会議について、会議室や紙ベースの事前資料はなく、オンラインで誰でもどこからでも、思いつきでも参加できる。何がヒットするかはわからない世の中で、住民と自治体の壁がないラフな会議をこなしていき、ブラッシュアップしていく。その結果がリアルな地方自治につながっていく。

### 74 情報化社会に取り残されない社会作り

情報に疎い若者や高齢者は情報化社会から取り残され、便利なものがあるのにも関わらず不便なまま暮らすことにならないよう、説明会を行ったり、一度体験してもらうなどを行うことにより少しずつでも使いこなせるようになる。

### 75 電子化された社会

仕事の大半がコンピュータによって業務量が大幅に減らすことが可能となった社会。手紙などの郵便物はすべて電子メールでやりとりするようになる事で配送作業が減るなど、アナログな作業で時間のかかっていたものを効率化。

### 76 デジタルでつながる社会

社会がすべてデジタルでつながり、自分が出歩きたいとき以外に出歩かなくてもよいことを目指す。例えば、仕事をしたり、買い物をしたり、市役所などで書類を発行したりなど、すべてが自分の家でできるような便利な社会ができてほしい。足腰を弱くした高齢者の方や、地方に住んでいる方の生活を後押しすることができる。多様な

生活スタイルを支えることにもつながる。

### 77 住民のための大きな地方政府

広大な県土と多様な住人によるニーズをかかえる県だからこそ、住民サービスの質を上げていくために行政職員の数を大幅に増加し、地域住民との関わりを増やし、その声を行政改革に大胆に生かしていくボトムアップ型の行政組織を作る。

### 78 どこにいても同じサービスを受けられる

子供が少ない地域でもICTを活用するなどして日常的に多くの人と交流できるような学習方法が行われ、どのような地域でも教育の格差はなく同等の教育が行われている。

設備の有無等で都市部でしかできない経験も同じように体験し習得することができる。部活動や習い事などの選択肢も増え、子供たちが自分が本当にやりたいことを選択することができる。

高齢者でも簡単に活用できるようなシステムで家にいても診察を受けることができたり、日用品等の購入ができ、生まれ育った場所でこれまでと同じように生活することができる。

### 79 どの地域からでも公共サービスを

- ・美術博物館の展示をVRで閲覧できるサービス(料金はオンライン決済)
- ・図書館の本をスキャンし、データで閲覧→介護施設や県立学校などにID・パスを発行し、ログインすれば自由に閲覧。一般の登録者は、著作権の切れた著作物をオンライン上で見れる。

### 80 「レス」の推進

キャッシュレスやペーパーレスなどが普及することによって、働き方改革や資源の有効活用など様々なメリットがある。キャッシュやペーパーをレスすることによって接触も減少し、また人々のストレスも少なくなるのではないかと。

### 81 人に寄り添うデジタル地域

足の悪い高齢者が外出したいときは、スマホで

ボタン一つ押せば自動運転の車が迎えに来てくれたり、寝たきりの方が自分でロボットを操作しカフェで接客したりなど、今までできなかったことや難しかったことが、デジタル技術を利用することで簡単にできるようになる。

### 82 マイナンバーカードのさらなる多機能化

将来的に、運転免許や保険証、履歴や資格、キャッシュカードなど、すべてマイナンバーカードで済ませることができればとても便利になる。

### 83 幸せの五国 兵庫

兵庫県はAIやICTの導入により、スマートな自治体となり、財政健全化を達成し、子育て支援や教育に予算を回したことで、若い世代の人口が増加し、活力のあふれる街になっている。若い世代が増えたことによる税収の増加により、シニア世代が安心して生活を行えるサポートが実現。

五国からなる兵庫県の多様性を尊重し、都市と田舎がバランスよく存在し、自然とともにある暮らしを実現でき、自然環境の保全を進めたことで災害等に強いまちづくりに成功している。県民の幸福度や満足度が日本一の県になっている。

### 84 キャッシュレスでスマートな社会

キャッシュレス化があらゆる分野で進み、現金

を使うことで生じる社会的コストが減る。業務は効率化され、お金の流れが透明化される。

兵庫は空港と駅を結ぶアクセスの改善により、世界に開かれた窓口となることを期待。換金の手間が省ければ、外国人観光客の消費も増える。

### 85 デジタルデバイドをなくす

都市部、地方の差がなく、どこでもインフラが整備されている。端末が高価なものでなくなり、誰でも手にすることができる。ITに関するスキルを習得する機会が誰にでも与えられている。デジタルネイティブではない高齢者でも、簡単に利用できる端末、システムが普及。

### 86 全デジタル化する兵庫

民間、公的機関を問わずすべての団体が扱う書類、手続きをすべてデジタル化し仕事の効率化を図る。私生活においても本、手紙などすべてをデータ化することにより、紙資源の利用を抑えることで、環境とコストの削減に良い影響を与える。

### 87 格差のない情報化・デジタル化社会

情報提供側はもちろん、受け手への情報端末、ネットワークの普及、情報・デジタル教育の向上による知識・理解の普及が実現し、どこにいても、どの年代でも利用できる情報に格差がない。

## 5 美の創生（15 シナリオ）

兵庫の豊かな自然を守り、人間にもその他の生物にも住みやす未来、地域の文化・芸術から得られる豊かさを感じながら過ごす未来を望む人が多かったです。

### <ともに創るまち 関連>

1 人々が憩える快適なまち

### <甦る豊かな自然 関連>

2 木のぬくもりが身近にある生活

3 人と環境の共存

4 動植物との共存

5 土地利用の好循環

6 兵庫県の海をより豊かに

### <息づく芸術文化 関連>

7 地域特有の文化と自然の学び交流

8 「温故知新」がもたらす豊かさ

9 セカンドライフを充実したものに

10 兵庫県下での文化・体験の共有

11 音楽があふれる県ひょうご

### <広がる生活文化産業 関連>

12 生業の継続による生きた景観となって地域で根付く

13 原点回帰の観光政策

14 インバウンド旅行客数

15 修学旅行誘致 No.1

### <ともに創るまち 関連>

#### 1 人々が憩える快適なまち

居心地が良く、歩きたくなるウォークアブルシティになってほしい。街を発展するためには、建物を建てるなどハード面での開発も必要だが、コロナ禍で、外に出て歩きたい、密閉されていない空間でのびのびしたいという欲求が高まっている。これからも一定の距離感を保ちながら安全に活動ができることは、ニーズが高いと考える。

また、地方でうまく密集を回避するための価値を形成できたところが選ばれていく世の中になるかもしれない。このことが地域活性化につながる可能性もあると考える。

### <甦る豊かな自然 関連>

#### 2 木のぬくもりが身近にある生活

県産木材の積極的な利用を推進する。兵庫県は、県内の約7割の面積を森林が占め、利用期を迎える木は人工林の75%にもなる。木材を積極的に使用することは、森に手を加えることになり、結果として森林保全に繋がる。兵庫県産木材を活用し、都市部でも木材に触れる機会を高めると共に、林

業の活性化を期待する。

#### 3 人と環境の共存

サツキマス、サクラマスは川の源流部に住むアマゴ、ヤマメが海に降り再び川に帰ってきたサケ科の魚である。この2種は水質が綺麗であること、川と海が行き来出来ること、川、海ともに生物相が濃く餌となる魚やエビが豊富であることが生息の条件である。つまりこの2種が生息する環境は川、海ともに生物にとって住みやすい環境である。兵庫県と大阪府の境にある淀川は日本でトップクラスのサツキマスの漁場であった。しかし現在では漁獲量はほぼゼロになり絶滅寸前まで追い詰められている。原因として河川の工事や水質悪化が考えられる。水害などから守る為、河川の工事は仕方ないが魚道を作るなど共存できる方法もあるはずである。未来では人間にもその他の生物にも住みやすい環境をつくりともに共存できる街になっている。

#### 4 動植物との共存

動物、植物などとの触れあいを通して、人々の生活がより豊かになっている。誰もが正しい知識

のもとで動植物と共存できるように教育の場が充実している。また、テレワークの増加により、郊外に住んで農業を始めることや、都市部でも屋上で作物を栽培することが手軽になっている。密を避けられるキャンプに出かける人も多い。このような自然に触れられる機会を通して、その魅力をより多くの人を感じられるようになっている。さらに、農林水産業に興味を持ってもらうことで、それらの課題である担い手の高齢化や後継者不足が補われ、産業の存続、盛り上がりにつながる。

### 5 土地利用の好循環

相続したが管理出来ないなどの理由で、放置された空き家、土地、保有林を簡単な手続きで自治体が処分できようになる。放置した土地をまとめ家屋を処分し、新たに農地や住居を構えれば、地域に人が増える。他に住居を構えている相続人も転居しやすい。また、保有林の伐採・売買が行われれば、災害の軽減・自然環境の保全・所有者の収入になる。所有者と行政が協力し、土地利用の好循環が生まれ、持続した社会に繋がる。住みたい人・利用したい人が、有効に活用できるようになる。

### 6 兵庫県の海をより豊かに

海の豊かさを守っていくというのは昨今話題になっているSDGsの目標の1つにも掲げられているぐらい世界中で課題となっているが、兵庫県は日本海と瀬戸内海という2つの海に面しており、多種多様な水産物がとれるということもあるのでより重要視すべきであると考えます。今後漁業を存続させていくためには、根本的な海の環境を改善し、かつての豊かさを取り戻すことを目指していくべきである。

### <息づく芸術文化 関連>

### 7 地域特有の文化と自然の学び交流

地域特有の文化と自然の学びの交流として、その拠点を各地域に設置し、多くの人々に地域の文

化と自然を学んでいただき、持続可能な社会の実現につなげたい。例えば、各駅や各地域にある廃業した商店街で小さい建物で文化と自然の施設を作ったりすることでより地域に特化した身近な文化や自然の学びの場として適した存在になると考える。

### 8 「温故知新」がもたらす豊かさ

人々が主体的に歴史や景観、自然を保持してゆくと望ましい。時には「継承」からさらに進んで、伝統の「復興」という視点も必要とされるかもしれない。このような復興的な視点により、かえって未来を創造するような新たなヒントが得られることが理想である。また、モノが持つ役割も考慮したい。「歴史」・「古美術」の保存という観点も加えることができる。兵庫県の伝統＝歴史を保護し、兵庫県の文化を紡いできた美術品を管理してゆく、これも重要な未来の創造の一環である。特に体験学習や生涯学習において、上述の価値観は大きな役割を果たす。児童・生徒の情操教育への支援や、郷土愛を育むことも期待される。加えて、時に世代を超えた人と人との交流を育むような、様々な波及効果が期待される。

### 9 セカンドライフを充実したものに

セカンドライフを充実したものにできるような県が体制を整える。老後生活を充実したものにするためにも、明るい地域社会を作るためにも、県が調整役となり、他市町村と連携して、それぞれの地域の産業や文化に触れるようなプログラムを作れば、地場産業や文化の振興に、また高齢者の新たな生きがい作りに繋げることができる。

### 10 兵庫県下での文化・体験の共有

兵庫県は五国と呼ばれるそれぞれが異なる特徴や魅力を持った地域に分けることができ、同じ兵庫県であっても文化や価値観の違いがある。特に都市部と農村部、北部と南部では交通網の違いなどから、自分が住んでいない場所のことを把握できていない住民が存在すると考える。そこで、

将来的には交通網の発達を利用した兵庫県下でのツアーや情報機器の発達を利用した文化の発信や体験活動が行うことで、兵庫県下での文化の発達や地域の観光資源の有効活用が可能でないかと考える。

### 11 音楽があふれる県 ひょうご

幼い頃から楽器の演奏や合奏などに親しむ、才能のある若い音楽家を育成・支援する体制を整える、国内外の音楽家を招待するコンサートを各地で開催するなどにより、子供から高齢者まで気軽に音楽を楽しめる環境が整い、豊かな心が育まれ、地域は活気に満ちあふれている。

## <広がる生活文化産業 関連>

### 12 生業の継続による生きた景観となって地域で根付く

手つかずの自然美を除いて、地域に残る美しい風景は、農林漁業等の生業や、その土地で生活する人が作り上げた生きた景色が多い。この景色は生業として地域に根付き、そこにしっかり収益が生まれ、それに従事したい、従事できるという住民がいなくては、守ってはいけない。高齢者のニーズに応じた雇用形態や、起業のサポート等、生産に携われる場が増加するとよい。ドイツのマイスター制度のように積極的に技術継承ができる制度もあるといい。複数のスキルを合わせていけば生計を立てられるようにならないだろうか。現代の人に受け入れられるように、商品デザインやPRに若者を起用するなど、年代に応じた得意不得意を生かし、世代を超えたものづくりができる環

境が増えると良い。

### 13 原点回帰の観光政策

今回のコロナウイルス感染症の流行によってインバウンド頼りの観光政策の弱さが露呈し、世界から来た観光客ではなく、近隣自治体の住民などをターゲットとして今後はより地域に密着した身近な観光政策を中心として展開していく。

### 14 インバウンド旅行客数

コロナ禍のため今後数年は厳しい状況が続くと思われるが、インバウンドによる経済効果はかなり大きなものであり、人口減少が進む中で多くのレジャー・サービス関連企業もチャンスを伺っている。自然豊かで食文化にも恵まれ、兵庫五国それぞれに観光地をや温泉地を持つ兵庫県には観光事業従事者も多く、その多くが今は苦しんでいると想定される。

兵庫県には近隣都市にも負けない観光要素も多くあり、県の強み。東京や京都、大阪におかれていたインバウンド事業の誘致を強化し、インバウンドによる活気作りをできる県にしたい。

### 15 修学旅行誘致 No.1

自然と都市部（神戸、大阪）が近く、空港や港がある兵庫県は修学旅行の目的地として誘致がしやすい。学生時代に兵庫県を知って楽しんでもらい、その子どもが大きくなった時に兵庫県で働くのもいいな、住んでみたいなと思わせるきっかけにもしていくことができるのではないかな。

## 6 次代への責任（54 シナリオ）

若者主体のまちづくり、若者が自己実現できる社会、子どもたちが輝く社会など、次世代に目が向けられた未来を望む人が多かったです。また、防災先進県として、より安全で安心な社会となるよう、技術も活用しながら防災力を高めていく未来を望む人も多かったです。

### <人に投資する社会 関連>

- 1 次世代を担う若年層の活躍できる社会
- 2 若者主体のまち作り
- 3 子どものアイデアを取り入れたまちづくり
- 4 誰もが保育園から大学まで無償で入れる
- 5 子どもたちが輝く社会
- 6 社会に貢献する人材育成のための支援
- 7 次世代への環境作り
- 8 親と子が共に教育を受けられる世界
- 9 すべての若者が自己実現できる社会
- 10 ひとりひとりの個性が認められる社会

### <開かれた学校 関連>

- 11 金融教育の推進
- 12 子ども多様な居場所の選択肢の提供
- 13 子供たちがつなぐ未来への架け橋
- 14 義務教育の自由化
- 15 自由な学校教育の選択
- 16 こどもがのびのびと外で遊べる
- 17 ネットの確立
- 18 コミュニケーション重視社会
- 19 学びたい教育が受けられる仕組みへ
- 20 個性を尊重し、伸ばす教育
- 21 運動・教育・将来へのつながり
- 22 質の高い教育環境をみんなに
- 23 オンライン・スクールシナリオ
- 24 生きがいのある人生
- 25 情報技術社会に適應できる人材育成

### <未知の領域への挑戦 関連>

- 26 新しいものを積極的に取り入れる兵庫
- 27 科学技術と自然が共生する社会

### <地域のエネルギー自立 関連>

- 28 エネルギー政策
- 29 地球にやさしい発電方式の拡大
- 30 個々人が可能な程度で自立できる社会

### <カーボンニュートラルな暮らし 関連>

- 31 サステナブルが広まる社会
- 32 ゴミステーションの設置でゴミのないまちに
- 33 自然・農業と共生する兵庫
- 34 廃棄を減らす社会
- 35 もったいなくない生活スタイル
- 36 住み続けられるまちづくり

### <危機に強い地域、安全を支える強靱な基盤 関連>

- 37 より災害に強い社会
- 38 準備力を追究できる社会
- 39 AIを活用した安全なまちづくり
- 40 犯罪の減少
- 41 誰もが安心して生活できる地域
- 42 住みやすく、災害に強いまちづくり
- 43 災害人的被害ゼロ、未然に防ぐ兵庫
- 44 地震に影響されない住宅
- 45 災害に負けない町(物理的改造)

### <受け継がれる地域 関連>

- 46 継続したまちづくり
- 47 昭和を継承する街づくり
- 48 地元の魅力を発信する若者
- 49 平和の追求
- 50 今あるまちを未来に残す
- 51 深まる郷土愛・地域愛
- 52 五国文化を生かした学習支援
- 53 誇れる兵庫
- 54 祭り文化が続き、活気あふれる地域

## <人に投資する社会 関連>

### 1 次世代を担う若年層の活躍できる社会

仕事にやりがいや楽しみ・希望をもって働ける。未来のために、全業種週休3日が完全実施され、自分の時間や家族との時間が今以上に増える。

保育園から高校までの授業料等使用料、18歳以下の子供の医療費の完全無償化が実現している。

教育費や資格取得・免許取得の為に手厚い金銭的支援やサービスの強化が充実している。

### 2 若者主体のまち作り

日々変化をしていく生活の中で一番適応する力を持っている10代20代の若い人達が新しい兵庫のまち作りの第一線で活躍できる環境になっている。若者の意見を反映できる、自分の考えを発信しやすい環境になることにより、活気のあるところになる。

また、県がビルを保有し新規ビジネスを始めるため低価格で貸し出しを行う。事業を始めやすい環境を作る。

### 3 子どものアイデアを取り入れたまちづくり

そこに住む誰もが、住みやすい地域づくりに参加し、子どもも高齢者もすべての人が対等な立場として生活する社会が実現している。

子どもが政治や行政機関との関わりを持つことで、社会の仕組みを理解することにより、自分が生活するまちに対して関心や責任感をもつ。

子ども目線のアイデアを取り入れることでより住みやすいまちづくりが実現している。子どもが県や市と交流し、意見を交わすことで、自分たちで積極的にまちづくりをするようになる。子ども独自の発想力が良いアイデアを生む。未来を担う子どもたちの社会的立場が改善されている。

### 4 誰もが保育園から大学まで無償で入れる

お金の問題に縛られることなく保育園・幼稚園が選べることにより、一部の公立保育園・幼稚園への希望集中が緩和される。

また、大学まで無償で入れるため、卒業後奨学金の負担がない。より自由に職業を選択でき、給料を車や家を購入する資金や、結婚等未来に備えた貯蓄にまわすことができる。

### 5 子どもたちが輝く社会

医療の発展などにより長寿化が進み、シニア世代の起業などいつまでも輝き続けられる社会は素晴らしいが、これからの未来を担っていく子どもたちが輝ける社会であることが大切。

子どもたちを社会全体で見守り育てていくために、子育てに対するサポートや安心して子育てができる環境を整えることが必要である。様々な課題と関係するが、女性の雇用状況の改善や働き方の多様化などは、安心した子育てに必要な不可欠である。自分一人で抱え込むことなく、必要に応じてサポートを受けられる子育てのしやすい社会、それによって子どもたちがのびのび輝くことのできる社会になっていけばいい。

### 6 社会に貢献する人材育成のための支援

将来有望な人材の育成のためには、勉学に集中できる環境の充実が必要であり、特に金銭面での支援の充実に関心があることが望ましい。金銭の事情により能力や目標があるにも関わらず学問を諦めてしまう学生の話に最近よく耳にする。

しかし、そのような事情で夢を諦める若者がいるということは若い芽を摘み取ることに等しい。よって、若者が勉学に励むこと出来るよう金銭面の支援を行い、人材育成に繋げるべき。

### 7 次世代への環境作り

日本は外国に比べて、環境問題へ取組が遅れている。たとえば農家への対応である。このままだと外国の食べ物で溢れて健康問題など深刻化していくのではないかと。農家に対し次世代に繋ぐことのできる環境を提供してほしい。

### 8 親と子が共に教育を受けられる世界

親自身がこれまで教育を受けてこなかった場

合、子どもの教育にお金をかけるとは考えづらく、子どもに対して教育の重要性が伝わりづらい。

そこで親と子どもが共に勉強する場を提供できればいい。学校教育だけでなく、趣味のようなことでも学べる場がもっと増えれば、親と子どももより一層関係を深めることができつつ、周りとの交流も深まることで孤立という問題も解決できるのではないか。

## 9 すべての若者が自己実現できる社会

大学生の就職活動について、本社が東京にある企業が多く、出身地により地域格差が存在する。経済的な問題だけでなく、精神的にも障壁がある。また、就職しても勤務地を選べる企業は少なく、望まない形での転勤もあると思う。

まず、学生が平等に就職活動ができるように、すべての企業がオンラインの面接・説明会を導入する。面接・説明会のために夜行バスで東京に行くような地方の学生が減り、東京出身の学生と同じスタート地点から就職活動ができる。それにより、地方から有名な企業に就職できる学生の割合も相対的に高くなる。

次に、勤務地をなるべく希望に沿った形にする。完全に希望に沿えないとしても、意向調査になるべく応えるようにすることで、地方志向が強い人もストレスなく勤務できる。

## 10 ひとりひとりの個性が認められる社会

ユニバーサルデザインの考え方が浸透しつつあるものの、まだまだ決められた枠組みの中で評価されることが多い。

たとえば、学生はテストの得点で評価される。社会生活を営む上で学力以外にも必要なスキルは多くあり、それらを教えてくれる機会や場所が少ない。得意不得意に応じた関わりが必要であり、個々の特性に合わせた学習環境の整備が大切。

子どもが子どもらしく自分を大切に思えるよう、良いところ探し、レジリエンスを高めるような社会を目指す。

## <開かれた学校 関連>

### 11 金融教育の推進

米国や英国では子供が小さいうちから金融教育を行うが、日本においてはほとんど行われていない。インターネットの普及により、株式投資を行う人も増加したが、日本では依然として預貯金で金融資産を持つ人の割合が多く、預貯金においては元本が変わらないので損をしないと思われがちであるが、実はインフレリスクがあるということを知らない人も多い。

日本では個人金融資産のうち約5割は預貯金で保有している。国民性もあるが、金融教育が盛んな米国では預貯金の割合は1割強に留まる。

金融資産をどのように保有するかは個人の自由であるが、小さいうちから金融教育を行うことで金融・経済の知識を養い、投資や運用についてのリスクやリターンについて学ぶことは、生きていく上でも起業等をする上でも有益だと思う。

### 12 子どもの多様な居場所の選択肢の提供

現在、日本の学生の多くは、大学の入学理由を就職先のキャリア獲得の手段としている。単位の取得や卒業を目的とした学生が増加すると、大学の存在意義が形骸化していく。教育機関がこういった問題を抱える背景として、幼少期からの受動的な教育環境に問題がある。

能動的な教育環境は幼いころから自己分析やトライアンドエラーができる（やりたいことをやっていいと思える）環境である。こういった環境に身を置くことができれば、多様な知的好奇心を刺激し、結果として自分の将来の選択肢をより満足感のあるものにすることができる。

具体例として初等中等・高等教育から島留学を行う。そのために、子どもの挑戦への後押しとして、信頼できる大人の獲得が重要であり、経験を養うことができる。

信頼できる大人の獲得が重要な理由は、少数ではあるが、私の周囲の起業をした学生は、活動を継続できたのは、地元住民の資金提供や経験、人

脈を提供してくれたおかげで活動の幅が広がったからだと言っていたことから言える。

また、社会貢献や自身の生き方、価値観を重要視するとされているZ世代世代が兵庫県の五国の魅力を理解すれば、長期的な関係人口の獲得に繋がると考えたからである。

### 13 子供たちがつなぐ未来への架け橋

学校が持つ教育の機能を一部街に移し、地域住民などの人との交流をはかりながら大人も子供も成長できる街をつくる。

次世代の担い手となる子どもがやりたいこと、好きなことを見つけられるよう職業体験が可能な環境を作る。改善点を自ら考察し行動することで、より良い環境を自分たちの手で作っていく。

人口減少問題の解決につながるように子育て支援に重点を置き、他県から移住してきやすい環境をつくる。また、子供たちがを間に入ることによって新しい交流をつくることを目的とする。

### 14 義務教育の自由化

ほとんどの子供が勉強嫌いである。その理由は学ぶことが強制されるからではないだろうか。自分からやりたいと思えば勉強に対する意欲は上がる。

道徳など必要な教育以外の算数や理科などは小学校から選択で受講できるようにする。勉強がしたい子だけ勉強し、スポーツをしたい子は朝からスポーツをできるなど、より多様化した教育を目指す。

### 15 自由な学校教育の選択

個人を尊重することがなによりも大切にされる社会になっていく。学校教育もそれに合わせて変化していくべきである。現在の学校は社会性、協調性が大切にされ、個性を伸ばすのではなく平均的にすることを目指されている。たびたびご当地校則が話題に上がるが、個性を制限するようなことは古いと感じる。

確かに読み書きや計算、外国語など子供のうち

に身に着けておいてほしい知識はたくさんあるが、知識を身に着けさせることだけに重きを置きすぎているのではないか。教育の選択肢を増やし運動や芸術、農業、工学等、義務教育にも選択の自由があってもおかしくない。

### 16 こどもがのびのびと外で遊べる

子どもが外で遊ぶことができる場所が減少している。ボール遊びが禁止されている公園が増えている。もちろんボール遊びには様々な危険が伴うし、10歳前後の子供が走り回ると小さなこどもに危険が及んでしまうことは否めない。しかし今や公園が親御さんと一緒に小さな子と高齢者の憩いの場になっており、これ自体はいい傾向であるが、元気盛りの小中学生の外で遊ぶ場が限定的になっていることには改善の余地がある。

小さな子供たちが安心して外で遊ぶことができ、お年寄りも憩いの場として利用でき、小中学生ものびのびと遊べる環境作りを進めたい。

小中学生が満足に走り回れるグラウンドのような場所を増やしたい。遊具の設置はなく、グラウンドを整備することで、ボール遊びなどが自由に出来る場を作れないだろうか。また、地域の小学校と連携し、運動場の開放を行うことで、外で遊ぶ機会を作れないだろうか。そうすることで親御さん連れの小さな子ども、お年寄りの棲み分けができ、安心して近所の公園を利用できる。

### 17 ネットの確立

人が都市部に集まる理由の一つとして、10代、20代の方が大学を志望するにあたって地方に比べ大学が多いことが挙げられる。都市部での生活水準に慣れてしまうと、地方に帰ろうとは思わなくなってしまう。

そこで東京に足を運ばなくても学習できるネット学校をつくる。実技では、兵庫五国の力を活かして様々な施設をつくれればいい。

### 18 コミュニケーション重視社会

EQとは「心の知能指数」とよばれ、対人関係能

力を重視しているものである。

多種多様な文化を受け入れ、外国人なども頻繁に訪れる兵庫だからこそ、様々な方が「楽しく」活躍できるように、エンパシー教育などのEQを育む教育を推進、義務教育から導入。それに伴い、仮想空間の発達により、現代よりもコミュニケーション能力の重要性が高まっているため、義務教育終了までに、「反論も否定も行う必要がある討論」と「互いの意見を尊重し妥協点を模索する話し合い」の区別を各人が正しく認識し、必要に応じたコミュニケーションを取ることができる水準にまで達していることが目標とされている。

各々の立場を考えて行動、発言できる人が増えたことで犯罪も減少し、いじめなどの教育問題も改善の傾向が見受けられる。

## 19 学びたい教育が受けられる仕組みへ

コロナ後、教育の分野でもICT化がますます加速し、オンライン授業が当たり前になった。それにより通学が難しい自宅から遠方の学校の専門的な授業を受講することが可能になり、年に数回通学することによって単位取得が可能になった。

専門的な科のある高等学校に進学するには自宅を離れて通う必要があったが、オンライン授業により、環境の変化のストレスや、通学時間が長くなることへの身体的負担も減少した。

出身地域や経済状況に関わらず自分の受けたい教育を受けられるようになった。

## 20 個性を尊重し、伸ばす教育

子供達にはそれぞれ好きなこと、得意なことがあり、その点を十分に伸ばせるような教育環境を整備することによって、学ぶ楽しさを感じられる。

また、自分の好きなこと、得意なことがどのようにして社会に貢献できるかを子供たちと一緒に考えることも大切。「どうすれば個性を活かせるのか」「どうすれば社会に貢献できるのか」について、子供たち自身が考えるきっかけになる。

子供たちにとって、将来の選択肢を考える上で判断材料となる。

## 21 運動・教育・将来へのつながり

ライオンズクラブやクラブ活動、部活動など運動を引退した後、次に何を頑張ればいいのか、経験をどのように活かせばいいのかなど、将来への教育がうまく出来ていない。

運動をしていく中で、技術面の指導だけではなく、終わったときのことも考えながら私たちはスポーツ教育をしていかなければならない。

また、大人になってからも運動に積極的に参加することができるように、義務教育のうちから運動をする上でのメリットや今、私たちはなぜ運動をするのか、運動をすることによってどのように私たちの生活が変化するのか、どのように役に立つのか、などを教えていかなければならない。

## 22 質の高い教育環境をみんなに

少子高齢化に伴い、人口が減少し続けていくことは避けられない。そこで必要になってくるのは一人一人の力の底上げである。そのためには質の高い教育環境を必要な人に提供する必要がある。

兵庫県では教育の質よりも、学校外の教育環境の質が個人の成績に影響していると考えている。様々な事情で質の高い学習環境が確保できない児童や生徒のために地域ごとに学校以外でも学習できる環境を提供することが望ましい。

また、社会が成熟するに伴い、一人親世帯、共働き世帯も増えると予想されるため、児童・生徒だけで留守番をしなければならない場合がある。安全面からも地域で見守るような環境を整えることは有効でないかと考える。

## 23 オンライン・スクールシナリオ

GIGAスクール構想を更にすすめ、オンライン・スクールを義務教育の中に組み込む。

不登校になっている子にとって、「学校に行く」ことの一步を踏み出すことがなかなか困難な状況は依然として残っている。この一步を踏み出すことができず、学校に行けない期間が長くなり、ひいては社会的な孤立を助長する事態となっている。義務教育に、完全にオンライン化した学校

を設置することで、不登校をなくし、ひいては社会的な孤立を解消する。

## 24 生きがいのある人生

学校での学びを将来の趣味に繋げる。高齢者になって孤独な状況になった時、趣味を持つことで人との繋がりを感じることができる。

最近の学校での学びは、タブレットの使用や英語の学習時間の増加等、新しい流れを取り入れている。その学習時間の中に自然と触れ合う時間や、地域の住民と交流する時間を増やし、自分の新しい興味を発見できる力をつける。そうすることで、高齢者になったときにも自分から多くの趣味を見つけることができる。

## 25 情報技術社会に適応できる人材育成

兵庫県内に立地している大学・研究機関等は82機関と多い。研究機関が多いということは勤務している人数も多く、研究者等の豊かな人材に富んでいるといえる。このような科学技術基盤、研究機関、人材の集積を最大限に活用し、産業界における科学技術を活用した新産業・新技術の開発促進とイノベーションの創出に向けた支援に取り組んでいる。

### <未知の領域への挑戦 関連>

## 26 新しいものを積極的に取り入れる兵庫

どのような分野に関しても積極的に新しいものを取り入れ、活用する兵庫県になっている。

時代の変化に伴って、全く新しい技術や考え方が生まれることは少なくありません。変化を拒否せず受け入れ、積極的に活用していくことで兵庫はさらに進化し続ける。

2050年には、新しい技術や考え方を取り入れることで、多方面において存在感を発揮する兵庫県になっている。

## 27 科学技術と自然が共生する社会

兵庫にある広大な土地を有効活用し、太陽光発

電や風力発電など、再生可能エネルギーを使用するインフラが整い、また電化製品や電気自動車の省エネルギー化が進むことで、文化を高度に発展させながらも持続可能な社会が実現する。自然の景観や環境を壊さないよう、事前に周辺住民ともよく協議したうえで、淡路や但馬、丹波地区などの広大な土地を活かして再生可能エネルギーを生産するための発電所が建設される。発電所の建設により、過疎地区の雇用の創出にもつながり、持続可能な社会の実現に貢献する。

阪神地区では電気自動車などを用いた交通網が高度に発展し、人や技術の交流がさらに深まることで、より高度に発展した都市を形成する。再生可能エネルギーの生産と省エネルギー化技術の発展により、高度に発展した都市部と豊かな自然が共生する社会が実現すると考える。

### <地域のエネルギー自立 関連>

## 28 エネルギー政策

蓄電池の利用とマイクログリッド用いて、安かつ環境によく、電力の需要を満たす社会。地形条件を生かし、鉄道網を利用して送電する。社会構造の変化により鉄道に新たな役割が与えられ、産業が誘致され、沿線住民が増加する。

## 29 地球にやさしい発電方式の拡大

二酸化炭素の排出量を減らす発電方式により、既存の発電所が高効率化する。同時に最小限に抑えられた二酸化炭素を回収し、地底深く岩盤に貯留する技術(CCS)が実用化されている。発電所を出てきた炭素が外に排出されず、地球温暖化防止に繋がっている。

また、土地が必要のない海洋風力発電が広がっているなど、自然エネルギーを活用した発電方式が拡大しているだけでなく、水素やアンモニアを燃やす発電方式が実現している。

地球に優しい発電方式の発展により、兵庫県が地球温暖化防止のための先進的な取組を行う。

### 30 個々人が可能な程度で自立できる社会

私たちの生活は様々な面でエネルギーや経済など依存をして生活している。今後の気候変動や財政の悪化など、個人個人が真剣にリスクを考えて対処していく必要がある。

半農反Xや家庭菜園、ベランダ菜園など食料をいかに自給させるかということを考えていかなければならない。日本は目に見えない遺伝子組み換え作物などを多量に輸入し食の安全性は揺らぎ他国に食を支配される国となっている。もし、輸入がなくなれば私たちの生活はどうなるであろうか。日本はEUなどと比べて自国の農業に対する補償が充実していない。その点も改めていく必要はある。

また、エネルギー面でも自立をしていけると良い。月に150wh程度に電力を各家庭で抑えることができれば、太陽光発電などを用いオフグリッドで生活することが可能である。石炭発電や原子力発電などに頼らない取組みが必要である。次世代に負の遺産を残さないため、オフグリッドが浸透するため環境を整える必要がある。

## <カーボンニュートラルな暮らし 関連>

### 31 サステナブルが広まる社会

循環できないものは使わない時代に入った。使わない洋服や家具電化製品などは人の手で渡っていく。シェアリングばかり集めたショッパやシェアリングコミュニティが形成され、田舎では畜産も含めて循環型の社会が形成されている。

### 32 ゴミステーションの設置でゴミのないまちに

いつでも利用できるゴミステーションを設置することで、カラス被害におけるゴミの散らばりやポイ捨て等がなくなり、ゴミのないきれいなまちになる。

### 33 自然・農業と共生する兵庫

世界的視野に立ち、地球温暖化対策にも早急に取り組む必要があり、石油・石炭から脱却しなけ

ればならず、限られた資源を大切にし、自然エネルギーを最大限に活用しなければならない。

### 34 廃棄を減らす社会

レジ袋やペットボトルは全て再利用されている。余った食品は希望者に配分したり、飼料に活用されている。不要になった物を希望者が再利用するシステムになっている。

### 35 もったいなくない生活スタイル

乗客がいまま走るバスや電車、余って廃棄される食品・衣料品、ひとりの時間を持て余している子どもや高齢者など、現代の生活では「もったいなくない」が多く存在している。あらゆるものがネットにつながる社会で様々なデータをうまく活用し、地域の中での「もったいなくない」をなくした持続可能な生活スタイルが実現している。

### 36 住み続けられるまちづくり

環境問題は成果が出るまでに非常に時間がかかる。早急に取り組まなければ間に合わない。そのために、自然と共に暮らすことにも重点を置く必要がある。住み続けるためには自然への配慮が不可欠である。「つかう責任」焦点を当て、消費者として環境に配慮された製品の購入に意識を向けること、企業に対しても環境に配慮した商品の開発を進めてもらうこと必要である。

また、人口減少により空き家も増えている。リノベーションしてオフィスや民宿など利活用の方法を模索する必要がある。テレワークの普及に伴いオフィスの需要があるのではないか。

## <危機に強い地域、安全を支える強靱な基盤 関連>

### 37 より災害に強い社会

より災害に強い社会を実現するために、AIなどを活用して災害の予測をおこない、減災につなげていく取組を進める。

一方、ハード面の整備を更に進める。例えば、電柱の地中化である。電柱の地中化は景観の良さ

にもつながるだけでなく、防災面でも効果がある。電柱の地中化は地震には弱いと意見もあるが、暴風などで電柱が倒れる危険があるだけでなく、地震でも電柱が倒れてまわりに被害を及ぼす可能性も高まる。電柱の地中化などを進め、より災害に強い兵庫県を目指す。

### 38 準備力を追究できる社会

自然災害が事前に予測できるシステムや疾病の予防、予測できる医療技術を利用し様々な問題に直面するまでに準備し対応する能力を磨ける社会。

### 39 AIを活用した安全なまちづくり

防犯カメラの設置をさらに推進するとともに、AIによる判別を行うことで犯罪を抑止する。すでに「兵庫県防犯カメラ設置補助事業」などが行われているが、2050年までに、県道・公園・公共施設などの多数の人々が利用する場所から、山道など人通りが少ない場所まで防犯カメラを設置する。また、ドローン式の監視カメラを飛行させ、シームレスに監視網を敷く。その上で、AIにトラブルの兆候や不審行動を学習させ、異変を検知した場合は自動的に警察・消防に通報するというシステムを作る。

システムを利用し犯罪や事故の抑止・被害の最小限化を行う。

### 40 犯罪の減少

地域の人気のない場所、薄暗い場所などを市民の声や現地調査により特定する。それにより電灯の設置や防犯カメラの設置・メンテナンスを必要な場所に増やすことができる。また一人になってしまう子供をつくらないために、子供が集まれる場所をつくり、犯罪に巻き込まれる子供を減らす。

### 41 誰もが安心して生活できる地域

災害や犯罪に対する不安ができる限り少ない地域であってほしい。技術の進歩により、防災、防犯の機能が強化され、外国人や高齢者、単身世

帯者のように周囲の人々のつながりが少ない人でも安心して日々の生活を送れる。

また、有事にも迅速に対応できる制度やサービスを整え、活用できる。

### 42 住みやすく、災害に強いまちづくり

コンパクトシティ化により高齢者は病院など通いやすくなるだけではなく、高齢者の見守りにもつながる。

地域コミュニティの活性化が促され、人口減少イコール衰退のステレオタイプに縛られることなく、生き活きとした地域作りが可能となる。

災害面においても、少ないコストで多くの人を守れることにもつながる。費用便益費からの視点からもかなりの効果が見込める。

### 43 災害人的被害ゼロ、未然に防ぐ兵庫

阪神淡路大震災などの教訓と革新技术を用いた情報分析を活かし、災害が起こる前に避難行動を開始できるシステムを構築する。

県内の建物をすべて、耐震基準を満たしたものにす。ロボットを利用した救助活動、防災アプリを利用した避難情報の発信などを充実させ、高齢者、外国人などの災害弱者への避難支援を行うことで災害発生後の対応も確かなものにする。

### 44 地震に影響されない住宅

地震が来ても住宅が倒壊したり、家具が倒れたりしない技術が普及している。例えば、住宅自体が揺れないよう地震を感知すると、住宅が宙に浮き地面の揺れから逃れることができる。

南海トラフ地震では大きな揺れが予測されているため、大きな地震がきても揺れないような住宅があれば、地震で亡くなる人がいなくなる。また、倒壊した住宅から出るゴミの量を減らせるので処理問題も解決できる。

### 45 災害に負けない町(物理的改造)

自然の力に打ち勝つことのできる技術により自然災害で命をなくす人を減らすことができる。

たとえば、地震・雷・津波の予知、台風や津波時に発動する巨大自動防波堤、川の氾濫時に即座に大量の水を凍らせる、もしくは気体にするなど。

## <受け継がれる地域 関連>

### 46 継続したまちづくり

伝統文化の継承や、地産地消を大切にされた食文化が地域に根付いている。災害にそなえたインフラ整備が行われ、次世代の財源を考慮した、持続可能なまちづくりが行われることで、建造物やインフラが老朽化したまま放置されることなく、安心安全に暮らせる環境が整っている。

### 47 昭和を継承する街づくり

昭和から大切にされてきた文化について、各企業や行政が一丸となり継承していく。例えば、通信機能を一定で制限し、学校教育の中でデジタル化の危険性を徹底教育する。それにより、小さな公園であっても賑やかに外で駆け回る子供たちが増えることで地域全体にも活気が生まれる。

デジタルによる効率化、コロナを初めとする災害との共存、プラス昭和それ以前の習慣を継続させていくことが人として幅の持った人格形成につながる。

### 48 地元の魅力を発信する若者

兵庫県の中高生が自分の地元の魅力や歴史について一人一人が主体となり調べ、興味のある事柄について発表する機会を学校で作る。教室だけで終わるのではなく、実際にインタビューや体験に行くなど、学びを深め、それに関するイベントや事業などを同じことに興味をもったほかの生徒と共に企画し実行することが活発に行われる。

地元の人、まちおこしや情報発信に詳しい大人に協力してもらい、助けてもらいながら主体的に活動する。同級生が調べ、発信することで他の生徒も興味をもつきっかけができ、学びが広まる。

個人での学習をクラス、学年、学校と広げていくことで、個人の学びも深まり多くの人に広まっ

ていく。他の地域の学生とお互いの地元の魅力を発表し合う機会を設けることで、他の地域の魅力を知ると共に、地元と他の地域との違いや共通点を考え、より兵庫のことを知り地元地域の良さを知るきっかけになる。イベントなども複数の学校が参加することで生徒同士が交流を深め、情報を共有し、お互いの活動につなげていく。学生時代に地元について主体的に学び自分自身が活動することで、地元への愛着が湧き、地元兵庫の魅力をどこに行っても話すことのできる若者が育つ。

### 49 平和の追求

「平和」という概念は個人によって異なるが、共通していえることは、争いがないということである。この世から争いをなくすことは不可能に近いことかもしれませんが、平和な社会を築くことを推奨していくことは可能である。争いがないということは、結果的に人々の心が満たされて、豊かな状態を表しています。その状態を一人でも多くの人に実現してもらうために、他者を思いやる心を育むといった平和の追求につながる施策は、未来永劫行われなければならない。

### 50 今あるまちを未来に残す

自分が今まで育ってきた街を未来に残したい。人が少なくなることで必要のない家や施設も多くなるが、リノベーションなどを活用し街を整備する。建物だけでなく、街の名前や地域の名前を残す。平成の大合併で町の名前がなくなるなど、そこに住んでいる人からしたら非常にさみしく、名前一つでもかけがえのないものである。

### 51 深まる郷土愛・地域愛

五国の魅力を多くの方が知っており県民の皆様が地域への誇りを持ち、地域を愛している。

また、今まで兵庫に関わりがなかった方についても、地域住民の働きかけにより五国を愛している。地域活性化を通して地域住民の方も地域外に住む方もすべての方の心を豊かになり、笑顔で暮らせるまちになっている。

## 52 五国文化を生かした学習支援

自分が住んでいる地域の特色・文化について、班になって学級内で発表する機会がある。新たな兵庫の魅力に気づく機会になるほか、今後も社会において必要不可欠な相手に伝わりやすいプレゼンテーション能力を培うことができる。

教科書や資料集を有効活用し、兵庫の地域の特産品や歴史、史跡や伝統文化などに積極的に触れさせることを推進していく。教科によって様々なアプローチの仕方が期待できるとともに、兵庫の多様な地域文化を活用した学習を行っている。

## 53 誇れる兵庫県

地域の文化や伝統が受け継がれ、住民が地域に愛着を持ち、地元を誇りに思えるようになる。ま

た、それぞれの特色を生かして地域ごとの魅力を発見し、他地域からも憧れの県となる。

## 54 祭り文化が続き、活気あふれる地域

祭りにより、普段関わることのない地域の人との接する機会や、地域文化の歴史を知る機会などをきっかけに、地元に対して誇りを持っている。

地域との交流行事は、単に交友関係を増やすだけでなく、災害時など困った時に助け合いができる「共助」の関係を築いている。昨今では、携帯電話やインターネットの普及、夫婦共働きや核家族化などの影響により、人と人とのつながりが希薄化しており、地域コミュニティをうまく構築できていない人が多い現状に対し、「祭り文化」は地域交流を促進させ、活気あふれる地域になっている。

取りまとめ 兵庫県企画県民部ビジョン局ビジョン課ビジョン班

TEL 078-362-3034